

2021 年度
年 報

Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

目次

I 年度事業計画

1. 2021年度重点事業	1
2. 中期計画・年度計画	3

II 組織・運営

1. 2021年度 教員一覧	12
2. 2021年度 職員一覧	13
3. 運営組織	14
4. 内部質保証	15
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 評価体制図	
4) 内部質保証システム体系図	
5. 大学運営	18
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 大学運営委員会組織および委員一覧	
4) 大学運営関係委員会 2021年度活動報告	
5) アドミッションオフィス	
6) 外部資金獲得状況	
6. 学部運営	31
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	
3) 学部委員会組織および委員一覧	
4) 教授会	
5) 学部委員会の活動報告	
7. 研究科運営	42
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	
3) 研究科委員会組織および委員一覧	
4) 研究科委員会	
5) 大学院委員会の活動報告	
8. 事務局運営	47
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	

III 看護学部教育活動

1. カリキュラム	48
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2021年度 実習施設一覧	
7) 選択科目受講者数	
8) 他大学との単位互換の状況	

2. 学生の受け入れ	62
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	64
1) 在籍学生数	
2) チューター制度	
3) オフィスアワー制度	
4) 特待生制度	
5) 奨学金制度（2021年度奨学生数）	
6) 自治会活動支援	
7) 国家試験支援体制・状況	
8) 国家試験合格状況一覧	
9) キャリア支援体制・状況	
10) 就職・進路状況一覧（2021年度卒業生）	
11) 2021年度学生相談利用状況一覧	
12) 学生生活調査結果	
13) 後援会との連携	
14) 同窓会との連携	

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム	72
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2021年度 実習施設一覧	
7) 研究指導教員一覧	
8) 研究指導関係スケジュール	
9) 学位論文審査基準	
10) 2021年度 修士論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	81
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
4) 科目等履修生	
5) 履修証明プログラム	
6) 研究生	
3. 学生支援	83
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 専門看護師（CNS）・認定看護管理者の資格取得状況一覧	
6) 修士論文投稿状況一覧	
7) 学生生活調査結果	

V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム	85
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) 研究指導教員一覧	
6) 研究指導関係スケジュール	
7) 学位論文審査基準	
8) 2021年度 博士学位論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	89
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	90
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 2021年度 博士論文等投稿状況一覧	

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織	91
2. 地域連携委員会活動報告	91
3. プラットフォーム	92
1) プラットフォーム活動概要	

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織	96
2. 情報管理・図書委員会活動報告	96
3. 学術情報センター・図書館主催活動実績	96
1) CINAHL 検索講習会	
2) 科学研究費助成事業レビュー取次	
3) 助成金募集リスト	
4) 学術情報リポジトリ公開	
4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料	97
5. 年間購読雑誌	97
6. 電子ジャーナル	97
1) 電子ジャーナル一覧	
7. 利用者数	98
1) 入館者数	
2) 利用者・資料別年間貸出統計	
3) 施設・備品利用件数	
4) 電子ブック閲覧数	
8. 文献複写サービス	98

VIII 国際交流

- 1. MOUに基づく交流 99
- 2. 英国語学研修プログラム 99

IX 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

- 1. 新型コロナウイルス感染予防対策本部 100
 - 1) 組織
 - 2) 基本方針

X 教員研究業績・社会活動一覧 102

I 年度事業計画

1. 2021 年度重点事業

事業名	履修証明プログラム（災害看護学）の開設準備
中期計画 事業項目名	Ⅲ. 教育課程・学修成果等 3. 質の高い教育の実践 (2) 大学院の教育 ①修士課程
事業目的	災害看護学の履修証明プログラムを開設し、文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）認定申請を行う。本学の特徴である災害看護学分野における人材育成により、社会貢献を進める。また、大学院修士課程科目を活用した履修証明プログラムの設置により、その先である大学院への入学を促す。
取組内容 目標	2021 年度、学内承認を得た後、BP 認定に向けて文部科学省へ申請手続きを行い、2022 年度の開設を目指す。
事業期間	2021 年 4 月～ 2022 年 3 月
予算概算	なし
達成状況	災害看護学の履修証明プログラムが文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）の認定を受けた。

事業名	中部ブロック内赤十字病院と連携した人事交流
中期計画 事業項目名	Ⅵ. 業務運営・財務 3. 教職員の確保と質的向上 (1) 適切な人事交流等
事業目的	中部ブロック内赤十字病院と連携し、臨床と教育を密接に繋ぐ関係性を構築する。
取組内容 目標	中部ブロック内赤十字病院より、推薦要項に基づく、看護職員出向の推薦があり、選考の結果、2021 年度から 2 年間の出向が決定した。 中部ブロック内赤十字病院より、最新の医療・看護に関する技術、知識を有する看護師に、本学の基礎看護学に関する教育を経験してもらうことにより、看護基礎教育の現状についての理解を促進し、任期終了後に、中部ブロック内赤十字病院にて、学生や新任講師の教育指導に役立てるとともに、キャリアアップを図ることである。
事業期間	2021 年 4 月～ 2023 年 3 月
予算概算	7,000 千円（人件費）
達成状況	2021 年 4 月より日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院からの出向者を受け入れた。

事業名	優秀な学生の確保（ハイブリッド型による学生募集）
中期計画 事業項目名	Ⅲ. 教育課程・学修成果等 4. 優秀な学生の受入れ（社会人を含む） (2) 学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
事業目的	WEB 広報・参加型広報の両者を活用して、多様な広報活動を実施することにより、受験者数の増加を図り、優秀な学生を確保する。
取組内容 目標	<p>WEB 広報</p> <p>① WEB オープンキャンパス ② Zoom を用いた相談会 ③ 出願前に実施する WEB 広告</p> <p>参加型広報</p> <p>① 人数制限したオープンキャンパスの実施 ② 施設見学の実施 ③ 高校訪問 ④ 進学情報説明会への参加</p> <p>広報物を活用した広報</p> <p>① フロムページ・マイナビ等、情報誌への掲載</p>
事業期間	2021 年 4 月～ 2022 年 3 月
予算概算	9,668 千円
達成状況	人数制限をした対面式でのオープンキャンパス、ホームページでの WEB オープンキャンパス、Zoom 個別相談会を実施した。志願者は全体で 644 名（2022 年度 504 名）となった。

2. 中期計画・年度計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
内部質保証 教育研究組織	1. 内部質保証 定期的な点検・評価	教育の質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR委員会	総務課 学務課	外部評価や授業評価等のPDCAサイクルを循環させることで、内部質保証システムの運用・展開を図る。外部評価として、「参加会」及び「中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会」から評価を受ける。	1. 評価体制図に基づく、PDCAサイクルの円滑な実施	第2回教育改善学生委員会を2021年3月10日（木）に実施した。参加会及び中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会の意見・助言を受けて、改善内容を確認した。	達成 継続	
				大学基準協会認証評価の基準に沿って情報を蓄積する。	2. 年報の作成	2020年度年報が1月中旬に納品され、関係施設や寄付者に発送した。今夏発刊を目標とした2021年度年報作成スケジュールをたて、2月末に各関係部署に原稿作成を依頼した。	達成 継続	
				学生による授業評価の実施、教育改善に関する教育改善学生委員との意見交換の実施等を行い、教育改善に反映させる。	3. 学生評価や教育改善学生委員との意見交換を行い、教育改善に反映させる。	アンケートを実施し、年度内に学部生・院生に結果をフィードバックする予定である。 後期に実施した授業評価の集計作業を実施している。	達成 継続	
					4. 大学として必要なデータの確定と蓄積	本年度に実施した学修時間と学修成果の調査結果についてIR委員会で報告分析するとともに、ホームページで公開をしている。本年度に実施した調査について検証するとともに、次年度に向けて準備を進めている。	達成 継続	
	2. 教育研究組織	(1) 看護学部	経営会議	総務課 企画・地域交流課 学務課	大学の理念・目的に照らして、学部組織の設置状況が適切であるか評価する。	看護学部組織の定期的な検証の継続	3月開催の経営会議において、最高決定機関である経営会議の位置付けについて検討を行った。	達成 継続
		(2) 大学院			大学の理念・目的に照らして、大学院組織の設置状況が適切であるか評価する。	大学院組織の定期的な検証の継続	9月開催の経営会議において、運営組織図における表記について「看護学研究科」へ変更することが決定した。	達成
		(3) アドミッションオフィス			大学の理念・目的に照らして、アドミッションオフィス組織の設置状況が適切であるか評価する。	アドミッションオフィス組織の定期的な検証の継続	3月開催の経営会議において、運営組織図におけるアドミッションオフィスの下部組織として入試・広報委員会を配置するか検討を行った。	達成 継続
		(4) 事務局	事務局	大学の理念・目的に照らして、事務局組織の設置状況が適切であるか評価する。	事務局組織の定期的な検証の継続	学園並びに学内の会議予定を基に、次年度事務局会議年間予定を作成した。会議資料については、ペーパーレス化に向けて試行を始めた。	達成 継続	
		(5) ヘルスプロモーションセンター	経営会議	2017年度から、市民向けの公開講座に加えて、医療者向けの講座を開始した。講座への参加者数、教職員の休日出勤による負担等の両側面から活動を点検評価する。	ヘルスプロモーション組織の定期的な検証の継続	中長期的な計画を立案し、公開講座においては年2回の開催、専門職向け研修会においては、5つの研修項目を実施することとなった。	達成 継続	
		(6) 学術情報センター・図書館		2018年度に、図書館機能を拡大して設置した。ビジョンの「研究力向上」を目指し、研究支援体制の充実を図るものである。公刊した論文数、科学研究費への応募数・採択率等から活動を点検評価する。	学術情報センター・図書館組織の定期的な検証の継続	3月開催の経営会議において、情報ネットワーク支援室の位置付けについて検討を行った。	達成 継続	

I 年度事業計画

	計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等			
教育課程 学修成果	1. 全学的な教学マネジメント	(1) 全学的な教学マネジメントの確立	教育の質保証委員会	総務課 学務課	教育の質保証委員会を責任主体として、ディプロマポリシー（学位授与方針）及びカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）の適切性について評価し改善する。また、内部評価として、授業評価、学生アンケート、教育改善学生委員からの評価について、教育の質保証委員会が改善を検討する。なお、外部評価については、経営会議を責任主体とするが、教学マネジメントに関する内容については、教育の質保証委員会が改善を検討する。	1. 教育課程の検証及び学位授与方針等について検討する。	1月に入り、1年生はハイブリッド方式、2、3年生は対面方式で授業を行っている。後期試験については対面で実施をした。	達成継続			
		(2) 教学IRの取組み計画				1. ルーブリック等を用いた学修成果調査の結果分析をする。	IR委員会にてルーブリック等を用いた学修成果の調査結果をホームページに公表した。本年度に実施した調査について検証するとともに、次年度に向けて準備を進めている。	達成継続			
	2. カリキュラムマップに定められたディプロマポリシーごとの科目のGPAを算出し、在学生の学修の到達度を評価する。学務システムと連動し、卒業時に期待される能力を客観的に測る指標として証明書（ディプロマサブリメント）の発行を検討する。		4年生に向けて3月16日の学位記授与式当日にディプロマサブリメントを配布した。	達成継続							
	2. 教育課程において赤十字の原則や国際人道法についての教育を行う。		「赤十字と活動」の講義の中で、国際救援派遣経験者の講義を開催した。次年度の「赤十字と活動」の授業計画を立案している。	達成継続							
	3. 災害看護学に関する教育を実施する。		1年生「赤十字と活動」「赤十字総合セミナー」を、4年生「赤十字災害看護学演習」を開講した。次年度の赤十字・災害科目の授業計画を立案している。	達成継続							
	2. 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成	(1) 赤十字の理念に基づく教育の充実	赤十字教育・災害看護教育などの教育実践力の維持・向上	教務委員会 カリキュラムWG	学務課	カリキュラムの教養科目に「赤十字」を位置付け、専門科目に「災害看護学」を置き、赤十字の理念に基づく教育を実施する。	1. 明治村の日本赤十字社中央病院棟（現日本赤十字社医療センター）の見学を通して、日本赤十字社の歴史を学び、小グループ活動で、赤十字の大学で看護学を学ぶ意義を考える。	11月18日（木）に明治村にて「赤十字総合セミナー」の見学を行った。学生20名、教職員6名が参加をした。次年度の「赤十字総合セミナー」の授業計画を立案している。	達成継続		
							2. 本学卒業生が赤十字病院で活躍するイメージを育む。	卒業生（看護専門職種）による講演やレポートの作成、プレゼンテーション方法等を学習した。次年度の「看護プロフェッショナルセミナー」の授業計画を立案している。	達成継続		
							5. 学部生が、赤十字大会に参加することにより、自分たちも赤十字社の一員であることの意識の高揚を図る。また、赤十字思想の普及や赤十字事業に功績のあった方々の活動について学ぶ機会とする。	次年度の赤十字大会参加に向けて授業スケジュールの中に組み込み計画を進めている。	継続		
	(2) 保健・医療・福祉の現場を支える人材の育成	より広い地域で活躍する人材の育成	学生委員会	学務課	卒業生70%以上が赤十字病院への就職することを旨とする。	2021年度卒業生の70%以上が赤十字病院へ就職する。	学部の新入生に対して赤十字病院を含めた奨学金制度の説明会を実施するとともに受験の案内をしている。次年度の病院奨学金情報等の収集方法について検討をしている。	達成継続			
						(3) 赤十字ネットワークとの連携	国際交流委員会	総務課	海外の赤十字看護大学との交流協定締結に向けて、対象大学の拡大と交流の深化を促進する。	1. 英国語学研修についてはオンラインでの実施方法を検討し、交流方法を決定する。	コロナ禍により次年度の実施も難しい可能性があるため、代替の方法を検討する。
2. タイ赤十字看護大学との交流を継続していく。（受入・派遣）										7月27日（火）に今年度第1回目のオンラインによる交流を実施し、学部生15名が参加した。1月14日（金）に今年度第2回目のオンライン交流を実施し、学部生8名が参加した。次年度も継続して行いたい旨を先方に伝え、了解を得た。	達成継続

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等		
教育課程 学修成果	3. 質の高い教育の実践	(1) 学部教育	①学生の学修活性化及び効果的な教育	教務委員会 カリキュラムWG	学務課	豊かな人間性を培い、正解のない問題に直面する社会の中で自ら判断して答えを導き出す能力を育むため、専門科目を効果的に組合せた教育課程の編成に努める。	全科目のシラバスに時間外学習（予習・復習）、その他準備学習の内容を記載し、学生の主体的な学びの促進を図る。 2020年度で実績を積んだ遠隔授業のノウハウを効果的に活用してハイブリッド型の教育活動を進める。	次年度のシラバスにおいても時間外学習項目を設け、準備を進めている。	達成 継続
			②学生の学修成果の修得状況の把握・評価	IR委員会	学務課	学生の学修時間と学修成果について調査を実施し、調査データの分析、公表を行う。	学生の学修時間と学修成果について調査を実施し、調査データの分析、公表を行う。また、ディプロマサプリメントにも分析結果を反映させる。	4年生に向けて3月16日の学位記授与式当日にディプロマサプリメントを配布した。	達成 継続
	(2) 大学院教育	①修士課程	大学院教務・学生委員会 カリキュラムWG 大学院研究科委員会	学務課	大学院修士課程の専門看護師コース（新教育課程38単位）（小児看護学領域、精神看護学領域）及び新たに設置した認定看護管理者コース（看護管理学領域）の教育の充実を図る。また、履修証明プログラムを新教育課程に合わせて改編し、文部科学省から職業実践力育成プログラム（BP）として認定された。2020年度から受講生の受け入れ、適切に運用する。さらに、移転したサテライトキャンパス（日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 日赤愛知災害管理センター棟）を有効的に活用する。	1. 修士課程の夜間・土曜開講、長期履修制度を継続する。	修士課程の夜間・土曜の講義開講及び長期履修学生制度を継続している。	達成 継続	
						2. 専門看護師（小児・精神）38単位の教育課程を継続する。	小児看護学専門看護師コースを開講し、1名の修了生を出した。	達成 継続	
						3. 認定看護管理者コースの教育課程を継続する。	看護管理学認定看護管理者コースを開講し、1名の修了生を出した。	達成 継続	
						4. 看護教育・技術学領域に臨床指導者育成コースの設置を検討する。	臨床指導者育成コース設置について検討をしている。	未達成 継続	
						5. 開講時間を短縮した履修証明プログラムを継続する。	2022年度の履修証明プログラム生2名の受け入れを行った。	達成 継続	
						6. 2022年度開講を目指す、災害看護の履修証明プログラムの開設準備を行う。	災害看護の履修証明プログラムがBP認定をうけたことをホームページに公表、関係施設に周知し、広報活動を行った。2022年度の履修証明プログラム生1名の受け入れを行った。	達成 継続	
	②博士課程	大学院教務・学生委員会	学務課	共同看護学専攻博士後期課程における教育の質向上を図る。	1. 本学が責任校として赤十字学園5大学での共同看護学専攻の運営を継続する。	次年度の責任校への引き継ぎを終了した。	達成 継続		
					2. 研究指導教員、科目担当教員を増やし、教育体制を強化する。	研究科長会議で検討した教員について、次年度のシラバスに反映をした。	達成 継続		
	(3) 多様なメディア（ICT）を活用した教育	①情報通信教育（ICT）を活用した教育の推進	学務課	遠隔教育システム利用によるリアルタイムでの双方向の遠隔授業を検討する。また、スマート会議システムを始めZoomなどを大学院教育に活用して利便性を高くする。さらにアクティブラーニングを推進するため、動画配信システムやラーニングポッドを効果的に活用する。	1. 学生・教職員の学内情報通信環境の安定運用の推進を図り、クリッカーや動画配信システムを利用した講義を実施する。	対面授業とZoomを用いた遠隔授業を組み合わせて講義を実施している。	達成 継続		
					2. スマート会議システムやZoom等の遠隔教育システムを効果的に活用する。	次年度の遠隔講義について共同看護学専攻ではZoomを用いることで準備を進めている。	達成 継続		
					3. オンデマンド教材の作成と活用を促進する。	看護学部以下の科目でオンデマンドを実施している。「英語Ⅰ」「情報リテラシー」「コミュニケーション論」「看護学概論」「スポーツレクリエーション実技」「国際救護と英語」「小児看護学Ⅱ」「看護倫理学」の授業で活用できるようなオンデマンド教材の検討を進めている。	達成 継続		
	②学園内大学間における遠隔教育システムを活用した教育の推進	共同看護学専攻においては、赤十字の5大学が協働し、専門領域の垣根を越えてあらゆる看護現象に対してアプローチすることができる研究者・教育者・実践者など、看護の発展に寄与できる人材、ならびにそれぞれの地域において保健・医療・福祉の分野でリーダーとなる人材、国内外において人道的任務を果たすことのできる人材の育成を継続する。	共同看護学専攻の授業において、遠隔授業システムを活用する。	共同看護学専攻において、遠隔授業システム（Zoom）を用いた授業、会議を実施するよう計画を進めている。	達成 継続				
			③他大学等との単位互換の促進	テレビ会議システムを利用した単位互換制度について学園本部とともに検討を進める。	修士課程の授業において、大学間の単位互換を含め、遠隔授業システムを利用した授業の試行を検討する。	学園本部を中心に赤十字学園間で遠隔授業システムを用いた講義を検討したが、実施計画の立案には至らなかった。	一部達成 継続		

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等			
教育課程 学修成果	4. 優秀な学生の受け入れ（社会人を含む）	(1) 学生の受け入れ方針の適切な設定	アドミッションオフィス 入試・広報委員会・大学院入試・広報委員会	企画・地域交流課	アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）は既に設定したが、その適切性について継続的に検討する。	1. 指定校推薦制度を継続し、優秀な学生の確保に努める。	現在指定校を8校としているが、次年度に増やすかどうか検討を行う。	達成継続		
						2. 大学入学共通テストの前期A、前期B及び後期試験を継続し、受験者への門戸を拡大する。	前年度と同様に前期A 6名、前期B 6名、後期 6名とした。	達成継続		
						3. 修士課程において2023年度より大学院入学者選抜試験に学部と連携し特別枠を設定する。	特別枠制度が完成したことから本学学生、教職員へ周知を行う。	達成		
	(2) 学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定	大学入学者選抜改革の導入を見据えた入試方法について、継続的に検討する。	1. 適切な入学選抜制度を確立する。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価については、「JAPANE-Portfolio」は利用せず、受験生自身の学校生活における活動履歴等の記録は、大学入学後の受ける大学教育、大学生活における参考資料として活用する。	「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価について、「多面的・総合的な評価のための申告書」を用い評価することとした。高等学校長推薦選抜、赤十字特別推薦選抜、大学独自選抜、社会人特別選抜において合否判定に使用し、特に大学独自選抜においては、加点する方法で使用する。	達成継続					
				文部科学省の入学定員厳格化、愛知県内における看護学部増設、18歳人口の減少を踏まえ、入学定員を管理する。	1. 文部科学省による入学定員の厳格化及び設置等にかかる認可の基準から平均入学定員超過率が2019年度以降1.15倍未満と定められていることから、本学では1.12倍の134名（入学定員120名）を確保する。	大学独自選抜受験者は319名うち合格者134名、大学入学共通テスト利用選抜（前期A）受験者は103名うち合格者31名、大学入学共通テスト利用選抜（前期B）受験者は123名うち合格者は34名となった。大学独自選抜については、最大歩留り50%を想定し、合格者を決定した。大学入学共通テスト利用選抜については、歩留り10%程度を想定している。	達成継続			
					2. 大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員を確保するため、大学院説明会、授業見学、リーフレットの制作、ターゲットを明確にした施設訪問を実施する。	第2回大学院入学試験では、修士課程7名、博士課程1名の受験者であった。合否結果は、修士課程7名、博士課程1名となり、第1回と併せて修士課程9名、博士課程1名となり、修士課程については、定員を満たすことはできなかった。	未達成継続			
	(3) 入学定員及び収容定員の適切な管理	9月上旬から本学ホームページトップへ掲載したが、参加申込みがないため、12月上旬で閉鎖した。	達成							
			9月上旬に赤十字病院ほか733ヶ所へ送付した。次年度に向けた広報計画を策定した。	達成継続						
			第2回大学院入学試験では、修士課程7名、博士課程1名の受験者があった。	達成						
	5. 教員・教員組織	(1) 教員・教員組織編成	総務課	教員組織計画（2017年度～2019年度）に基づき適切に運用する。また、カリキュラム改正に伴う領域別の教員定数の妥当性と教員組織編成について継続的に検討する。さらに、教員の選考基準を明示し、公募により適任者を広く求める。	人事委員会及び経営会議での審議による適正な教員配置（領域別定数含む）の確立に向けた組織編成	2022年4月1日付で3名の昇任することが承認された。また、成人看護学領域・助教、精神看護学領域・助教、基礎看護学領域・助手の採用が決定された。引き続き育休代替・助手の公募を継続している。	達成継続			
					(2) 教職員の資質向上（FD・SDの高度化）	FD・SD委員会	総務課	1. 内外の専門研修・勉強会等に参加して教育力・事務能力の向上を図る。	事務職員のスキル向上および業務改善のために立ち上げたワーキンググループにて業務改善の第一歩としてデータ整理のルール等を作り上げ、職員に周知し実際に動き始めている。研修会の案内を全教職員あてメールや掲示板で周知した。	達成継続
								2. FD・SDマップ実施計画に沿った運用を行い、教育力・研究力・マネジメントの向上を図る。	7月28日（水）に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに係るコンプライアンス研修」および「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン研修」を実施した。また、9月29日（水）に「著作権法改正にかかる研修」を実施した。若手教員向けに12月21日（火）に研究に関する研修を実施した。2022年3月10日（木）に「DX化で変わる看護教育、臨地実習」をテーマにZoomにてFD・SD研修会を実施した。また、「利益相反」「研究倫理」研修会に関しては、オンデマンド配信にて実施した。	達成継続
3. 研究時間の確保についての改善に向けた検討及び研究環境の効果的な整備品の検討を始める。	実習時間の在り方についての検討は未実施。次年度予算にて整備する備品の検討を開始した。	未達成継続								

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
教育課程 学修成果	6. 学生支援 (1) 奨学生制度・特待生制度の適切な活用と外部支援の獲得	学生委員会	学務課	奨学生制度及び特待生制度を適切に活用する。(赤十字病院を中心とした奨学金制度を広報することにより、優秀な学生の確保に努める。また、本学独自の特待生制度の効果的な運用を図る。)	1. 全国の赤十字病院の奨学金制度について、広く在学生に周知し、学業継続困難者を支援する。	在学生に対し、赤十字病院の奨学金制度を周知している。	達成継続	
					2. 本奨学生制度を利用する学生について資質、成績向上に向けて支援する。	奨学金制度を利用する学生に対して、就職予定病院の広報誌等を就職支援室で周知している。 コロナウイルス感染拡大予防のため、病院行事等の開催が難しい状況となっている。"	達成継続	
					3. 愛知県支部特別奨学金制度を有効活用し、学業継続困難者への支援につなげる。	C特別奨学生、B特別奨学生説明会を開催した。	達成継続	
					4. 特待生制度を活用し、学業成績優秀者を支援する。	A特待生の選考を行った。	達成継続	
					5. 奨学金を受けている学生の追跡調査を行い評価する。	奨学金制度を利用する学生の調査を検討している	達成継続	
	(2) きめ細かな学生支援	①修学支援	教育の質保証委員会 アクティブラーニングプロジェクト 学生委員会	学務課 総務課	入学前教育の実施等の高大連携を継続すると共に、その方法について継続的に検討する。	1. 教務委員会を中心に入学前の学生を大学の講義に受入を行う。	推薦入学試験、社会人特別選抜の入学予定者に対し、事前課題の送付を行った。 推薦入学での入学予定者に対し、授業見学、学内での学びについて遠隔で実施をした。	達成継続
					国家試験対策を企画・提供して学生を支援する。	2. 国家試験対策委員会を中心に、新卒者の看護師・保健師国家試験の100%合格を目指す。また、既卒者への支援を行い国家試験の合格率向上を目指す。	看護師国家試験 131名合格 保健師国家試験 21名合格	達成継続
						3. 成績不良者に対して基礎力を向上させる支援を全学的に取り組む。	成績不振学生についてチューターが個別に指導をしている。	達成継続
						学生の主体的な学修を推進するための支援環境(チューター制度、学生相談等の活用)の充実を図る。	1. チューター教員を中心に、学部長、科目担当教員の相談・支援ラインを強化し、職員間の情報共有を密にしながら学生の抱える問題に迅速に対応する。	チューターを中心に学生のさまざまな相談に対応している。
		②生活支援			ハラスメント防止のための研修会を継続して実施する。	2. 学生相談のカウンセラーと学部長、学生キャリア支援担当との情報交換を密にし、学生ニーズに応じた相談およびハラスメント相談員を配置することにより、適切な支援へ繋ぐ。	年間の相談件数については以下の通り。 学生相談 76件 母性相談 0件 ハラスメント相談 0件	達成継続
					大学生協が学生の食育環境改善及び必要物品購入の利便性に資するように、運営を支援する。	3. 生協の福利厚生者の向上を図る。また、安定的な運営を目指す。	福利厚生事業をコロナ禍の中でどのように充実させていくかを生協理事会にて検討していく。必要な物資の要望については随時生協担当者と連携を取り対応する。 売店ならびに食堂の営業日・時間について、生協と調整を行った。	達成継続
			③キャリア支援		赤十字病院と連携して、キャリア支援体制を整備する。	チューター教員を中心に「地域医療構想」に基づき、学生の奨学金採用試験、就職試験の対策や相談に随時対応する。 チューター教員を中心に卒業後の臨床等でのキャリアについて、随時相談に応じる。	チューターを中心に「地域医療構想」に基づき、学生の個別の奨学生申込・就職・進学相談に対応している。	達成継続
				④正課外活動支援		学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	コロナ感染拡大によりクラブ活動はオンラインで実施をしている。
(3) 校友ネットワークの確立	学生委員会	学務課 経理課	日本赤十字学園の6看護大学の学生間の相互交流を積極的に支援する。	日本赤十字学園の6大学交流会を実施する。	9月16日(木)に九州国際看護大学の学生を中心に6大学交流会を実施した。 次年度の6大学交流会にむけて準備を進めている。	達成継続		
			2018年度に同窓会規程が改変されて、会員資格の拡大、会員管理システムの導入された。同窓会組織の運営が順調に機能するように支援する。	1. 多くの同窓生に大学へ来てもらうように里帰りイベントや講演会など機会をつくり、就職・キャリア支援につなげる。	10月30日(土)に同窓会役員会・総会・里帰りイベント(「大人の発達障害について」村瀬学部長)講演を実施した。また役員の改選が行われた。 次回の同窓会会報について同窓会の担当者(卒業生)を決め、準備を進めている。	達成継続		
				2. 元学長及び名誉教授、寄付者等を卒業式等式典に招き、本学の支援へつなげる	2021年度学位記授与式には来賓の招待は予定されていない。	達成継続		

Ⅰ 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
教育研究等環境	1. 教育研究等環境の方針	(1) 整備方針	経理課	大学設置後 20 年を見据え、空調、給排水、外壁等、計画的に整備する。	建物および建物付属設備の整備計画を具体的に作成し、計画的に整備する。	次年度整備予定の固定資産（中央監視盤更新、大講義室の AV 設備更新）の整備時期等について業者との打ち合わせを行った。	達成継続	
				教育研究用機器備品について、10 年整備計画に基づき整備する。	教育研究用機器備品を 10 年計画に基づき整備する。	年度内の備品整備の漏れ等がないかを確認し、次年度の整備に向けて、必要備品スケジュールを確認し、調整を行った。	達成継続	
				教育研究用機器備品について、領域を超えて共用して有効に活用する。	教育研究用機器備品等の共同使用の基盤を整え、有効活用を促す。	備品の在庫確認および次年度予算申請をもとに備品等共同使用可能なものについて、確認を行った。	達成継続	
	(2) 定期的な点検・評価	経理課	中長期補修計画に基づき、空調、給排水、外壁等を計画的に更新整備する。	中長期補修計画の適切性について見直しを図りながら、計画的に点検整備を行う。	経年劣化等の緊急性及び必要性の高いものを順次、修繕を実施した。	達成継続		
			教育研究用機器備品について、定期的に点検し運用する。	固定資産（医療器械・演習用モデル人形等）の 6ヶ年整備計画の適切性について見直しを図りながら、計画的に点検し運用する。	固定資産の点検をおこない、次年度の必要となるものを順次整備するための調整を行った。	達成継続		
			2. 研究活動の充実強化と社会還元	学術情報センター・図書館	学術情報センター・図書館を中心に、研究活動充実強化のための「研究費を獲得できる支援」「研究を遂行できる支援」「研究成果を公表できる支援」の体制を構築する。	助成金データベースを更新しつつ再構成する。また、研究支援を実施するため CINAHL・MEDLINE 検索講習会の実施や申請書レビューの取次を実施する。さらに、研究成果論文ををリポジトリ搭載することで成果の公開を目指す。	助成金データベースを更新し、再構成した。3月31日(水)開催の新4年生オリエンテーションで、個人向け「文献検索講習会」を告知する。CINAHL・MEDLINE 検索講習会を7月7日に対面形式で開催した。併せて、オンライン形式で Refworks 講習も行った。受講者9名(教員4名、院生5名) レビュー1件実施し、科研費申請数は7件(内、基盤Bは2件、基盤Cは3件、若手研究2件)であった。教員2名から申請があった論文計4件のリポジトリ公開を行った。	達成継続
	3. 競争的外部研究資金等の確保	(1) 科学研究費補助金の獲得と体制の整備	研究推進・紀要委員会	学務課 学術情報センター 図書館 経理課	外部研究資金を確保するため、全教員が科学研究費助成事業へ申請する。また、学術情報センター・図書館事業として、申請書作成を支援する。	1. 科学研究費助成事業について、2022年度には全員が応募する。(研究代表者・分担者)	外部助成金の案内を適宜メールにて実施し、助成に関する相談依頼に対応した。	未達成継続
					2. 採択率を上げるため、研究計画書作成上の留意点等について及び学術情報センター・図書館を中心に獲得に係る説明会を実施する。	科研費獲得に関する説明会を7月28日(水)に実施した。レビューの件数を増やすために次年度の教員会議で図書館からも説明を行う予定とした。		達成継続
		(2) 大学教育改革支援事業への積極的応募	教育の質保証委員会	経理課	私立大学等改革総合支援事業(タイプ1~4)の評価要件を把握して学内体制を整備し、積極的に応募する。	私立大学等総合改革支援事業(タイプ1~4)に応募し、採択を得る。	タイプ1は採択され、タイプ3は不採択であった。タイプ3について採択に向けて今後の対策を立てている。	達成継続
	(3) 学園研究助成金の効果的な配分	学術情報センター・図書館	経理課	教員が競争的資金を確保するよう積極的に申請するための方策を図る。	1. 赤十字と看護・介護に関する研究について、応募数を前年度以上に増やす。	1件採択された。次年度の応募増加させるために、対策を検討している。	達成継続	
2. 日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金について、若手研究者の応募数を前年度以上に増やす。				2. 日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金について、若手研究者の応募数を前年度以上に増やす。	次年度の応募増加させるために、対策を検討している。	未達成継続		

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
社会連携 社会貢献	1. 地域社会との連携強化	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	豊田市、大学、高専の地域包括連携協定に基づき、連携の充実を図る。また、地域包括連携協定に基づくプラットフォーム形成大学との共催による公開講座、合同での入試説明会及びFD・SD研修の実施について検討する。	1. 市内大学とプラットフォームを形成し、合同入試説明会を開催する。	7月5日（月）の進学情報交流会、7月上旬に実施した高校訪問、9月22日（水）のプラットフォーム合同進学相談会において合同での学生募集を実施した。	達成 継続
					2. 市内大学とプラットフォームを形成し、合同FD・SDを実施する	9月10日（金）に愛知工業大学の主催にて「遠隔授業の事例紹介」と題し、合同でのFDを実施した。Zoomを利用したオンライン方式にて行い、関係企業や大学教職員を含む104名の参加者があった。	達成 継続
	3. 市内大学とプラットフォームを形成し、防災に関する履修証明プログラムを実施する。				2021年6月8日（火）に愛知工業大学本山キャンパスにおいて7名の受講者に対し、「社会人防災マスター養成講座 特別研究」を実施した。 2022年2月19日（土）に社会人防災マスター養成講座として「修士生研究発表会」を開催した。	達成 継続	
	4. 豊田市や市内大学とプラットフォームを形成し、施設利用を促進する。				テニスコートの貸し出しを56回行った。 11月から利用を再開し、施設の利用が25回あった。 1月の上半旬に5件の利用があったが、コロナウイルス感染症対策まん延防止等重点措置により利用を停止した。	達成 継続	
	(2) 地域社会への貢献	企画・地域交流課・学務課	高大連携協定に基づき、愛知県立豊田高等学校「医療・看護コース」への連携を継続する。	愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。	健康生活支援演習を8月3日（火）～5日（木）の3日間実施した。日常生活動作や災害などの身近な問題を題材にした活動を体験し、医療・看護の専門的知識を学びたいという意欲をもつことができることを科目の目標とし、実施した。 教員会議において、2022年度の授業スケジュールの提示があった。	達成 継続	
	2. 地域住民への生涯学習の場の提供	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	ヘルスプロモーションセンターの事業計画を検討する。また、地域住民を対象とした公開講座を開催する。さらに、地域で働く専門職向け研修会を開催する。	1. メンタルヘルスプロモーションを推進する。	事業計画により次年度は実施しないこととなった。	達成
					2. 逢妻交流館、宮口上区、宮口一色地区のイベントに参加する。	11月6日（土）に宮口上フェスタが開催され、先方から要請を受け、本学から教職員1名を派遣した。 コロナウイルス感染拡大予防のため打合せができず、計画を立案できなかった。	達成 継続
					3. ブラジル人学校 EAS で身体測定を行う。	11月25日（木）にEASにおいて身体計測を実施した。身長、体重、SpO2、握力を測定した。41名の参加者があった。 身長計、体重計をEASで準備し、園児・学童の身体測定をEASの教職員と一緒に行うよう支援する方向での実施方法を検討した。	達成 継続
					4. 豊根村教育委員会と共同で地域住民への健康教育等の生涯学習講座を行う。	8月31日（月）に三沢いこいのサロン健康講座「からだを癒す（手の軽療法）」体験と題し、開催した。17名の参加者があった。 3月に生涯学習講座、地域住民向け講座を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止した。	※ 未達成 継続
					5. 健康寿命延伸に関する高齢者の摂食嚥下障害予防リスク評価システムを推進する。 ツバメ体操を普及する。	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止としたが、つばめ教室参加登録者238名に資料を送付した。	達成 継続
6. 専門職向けの研修会や地域住民を対象とした公開講座を開催する。					8月21日（土）にZoomを利用し、基礎看護学「臨床実習指導のコツ」を開催した。168名の参加者があった。1月13日（木）に公開講座「知って安心 認知症について」を開催した。21名の参加者があった。また、1月22日（土）に専門職向け研修会「現場で活かす 医療メデイエーション」を開催した。25名の参加者があった。2月16日（水）に専門職向け研修会「ストレングスマデルを活用したケア共創」を開催した。5名の参加者があった。3月12日（土）に専門職向け研修会「看護リフレクション」を開催した。33名の参加者があった。	達成 継続	
3. 社会的活動の促進	経営会議	総務課 企画・地域交流課	裁量労働制に基づき、兼職申請について適切に対応する。 豊田市の審議会委員等への就任について適切に対応する。	働きすぎによる健康面の観点から教育兼職の在り方について検討する	申請ごとに兼職合計時間を算出し、適正であることを確認している。	達成 継続	
				1. 地域診断について助言を行う。	森田教授が対応している。	達成 継続	
				2. 豊田市子どもにやさしいまちづくり推進協議会で助言を行う。	野口教授が対応している。	達成 継続	
				3. 豊田市感染症診断協議会で助言を行う。	下間教授が対応している。	達成 継続	
4. 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会での助言を行う。	村瀬学部長が対応している。	達成 継続					

I 年度事業計画

計画項目			担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
業務運営 ・ 財務	1. 法人・大学ガバナンスの維持・向上	(1) 法人・大学運営体制	①効率的な大学運営	教育の質保証委員会	総務課	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	内部質保証体制図、体系図に沿って運用している。また、本学における看護技術の到達度評価についてプロジェクトチームを立ち上げ、方針を決定し、本学の評価基準を作成する。2022年度前期完了を目指す。	達成継続
				経営会議	2016年度～2018年度に主要な規程の改訂が終了したので、残る規程を整備する。	学園本部の定めた諸規程の見直しを受け、大学の諸規程・内部規則等についても本部の準則等に照らし必要な改正を進める。また、一部未修整の規程の整備を進める。	ガバナンス・コードを策定し、2022年2月に公表した。ガバナンス・コードの点検についても実施し公表に向けて手続きを進めている。	達成継続	
				将来構想検討プロジェクト	総務課	将来構想についてプロジェクトを設置し検討する。	将来構想について資料準備や方向性を検討していく。	建物診断として、コングリート中性化診断を実施し、現状の建物の状況を調査した。	達成継続
	(2) コンプライアンスの維持・向上			教育の質保証委員会	総務課	専門業務型裁量労働制を継続して実施し、適切な労働環境を維持する。	整備した労働環境（裁量労働制）の精査を行う。	労働者から健康相談や苦情はなかった。専門業務型裁量労働制の協定書の更新のため、労働者代表を決定した。	達成継続
					総務課	公的研究費不正防止のための環境整備として、備品・予算執行管理・内部監査等を適正に実施し、啓発のための研修会を実施する。	コンプライアンス（科研費）に関する学内研修会を実施する。	7月28日（水）に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに係るコンプライアンス研修」および「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン研修」の実施を実施した。全構成員に対し、メールにて啓発活動を行った。	達成継続
					総務課	公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正を受け、本学の関係する規程の改正、制定を実施したため、その規程等理解度を深めるためコンプライアンス講習会を実施する。	公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正を受け、本学の関係する規程の改正、制定を実施したため、その規程等理解度を深めるためコンプライアンス講習会を実施する。	7月28日（水）にコンプライアンス研修を実施した。3月に内部監査を実施し、適正に執行していることを確認した。	達成継続
					総務課	適正な定員管理を実施し、教員の任期制度を適正に運用する。	1. 任期制の適正運用	2022年3月10日に2021年度及び2022年度に任期を迎える教員の面接を実施し、更新の有無を決定し、対象者に結果通知を行った。	達成継続
					総務課	2. 適正な定員管理	成人看護学領域の育休代替教員について引き続き公募を実施している。その他は充足。	達成継続	
					総務課	3. 適正な教員選考人事	領域別選考委員会において適切に実施。	達成継続	
	(3) 広報の充実			入試・広報委員会 大学院入試・広報委員会	企画・地域交流課	最新情報を随時ホームページに掲載する。	1. ホームページ及び大学案内のリニューアルをしたため、これらを活用し、本学に対する認知度等更なる向上を目指す。またスマートフォン対応Webサイトを作成したためこれらを活用し、情報発信を行う。(Twitterによる情報発信)	本学が豊田市のワクチン接種会場の1つであることを本学ホームページにてお知らせした。また、接種の際、待合室で視聴する「接種後待機時間用の啓発動画」をダウンロードし視聴できるようにした。本学ホームページのトップ画面（スクロール）に推薦入試、大学独自選抜、大学入学共通テスト（前期A・B）、大学入学共通テスト（後期）の広報（出願期間の掲載）を行った。また、下間教授の「市民版イラストオミクロン対策」スライドを掲載した。	達成継続
					総務課	2. Webオープンキャンパスを継続して実施する。Zoomを用いた個別相談会を実施し、受験生と触れる機会を増やす。	6月下旬に本学ホームページにWebオープンキャンパスを掲載した。また、8月28日（土）、9月18日（土）にZoom個別相談会を開催し、それぞれ8名、10名の参加者があった。10月2日（土）にオープンキャンパス miniを開催し、56名（午前30名、午後26名）の参加があった。また、10月9日（土）にZoom個別相談会を開催し、10名の参加があった。	達成継続	
					総務課	3. 進学説明会への積極的参加	4月、5月に進学説明会に参加した。予約制での実施となった。7月、9月に進学説明会に参加した。予約制での実施となった。7月にZoomを利用した進学説明会（夢ナビライブ）にも参加した。10月2日（土）にZoomを利用した進学説明会（夢ナビライブ）に参加した。10月11日（月）に豊田東高校において進学説明会を実施し、34名の参加があった。3月17日（木）性信高校において進学説明会を実施し、12名の参加があった。	達成継続	

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2021年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
業務運営・財務	2. 経営・財政基盤の確立	(1) 経営意識の醸成	経理課	教職員に対し、四半期ごとに決算報告、光熱水費使用量報告を行う。	大学経営の方策については最高決定機関（経営会議）からの迅速な意思決定のもと、各種会議等を通じて、その取り組みに対して教職員が邁進していけるような一体感を醸成する。	2022年度予算案の報告を教職員に対しておこない、また、2020年度第3四半期報告を教職員に対しおこない、大学経営状況の経営状況の理解を促した。	達成継続	
			経営会議	企画・地域交流課	経営会議の審議結果を定期的に教職員に報告する。	教授会、教員会議にて報告する。	教授会、教員会議にて審議結果、報告事項を報告している。	達成継続
	(2) 経営基盤の確立	経営会議	企画・地域交流課	経営会議を月1回開催し、経営に関する迅速な意思決定をする。	経営会議を月1回開催して迅速な意思決定をし、教職員の経営意識の醸成を促進する。	経営会議を月1回開催し、教員会議等で情報を提供した。	達成継続	
			経理課	18歳人口減少を踏まえ、将来の収支予測を作成し、減収対策を検討する。また、私立学校等経常費補助金の獲得に努める。	収支予測を作成し、減収対策を検討する。また、より多くの私学助成金獲得に努める。	通知情報に関係部署に共有し、調査資料の提出を行った。	達成継続	
	(3) 教育研究向上のための財源確保	教育の質保証委員会 IR委員会	経理課	寄付を促進する仕組みを検討し、寄付募集を行う。	大学経営に貴重な収入源となる寄付金確保に向けて、継続的な寄付の勧奨やサポーター募金の導入を検討するとともに、広報活動としてホームページ上で寄付の勧奨を併せて行う。	4月当初にサポーター募金のお願いを在学生及び、同窓会に行った。「いとすぎの丘」と共に、在学生の父兄及び寄付者へ寄付を募った。寄付状況を経営会議にて報告し、定期的な寄付の依頼を行う。	達成継続	
			経理課	科学研究費へ申請し、公的研究費の確保に努める。	科研費等外部資金応募者を増加させる。	外部資金の募集情報の案内を行い、申請について相談を受け付けた。	達成継続	
	(3) 教育研究向上のための財源確保	教育の質保証委員会 IR委員会	経理課	資産運用による安定的な財源の確保を目指す。	普通預金に預けている資金を定期預金および社債等にあて、受取利息等による安定的な財源の確保を目指す。	満期を迎えた定期預金を新たに定期預金を組んだ。	達成継続	
			経理課	愛知県支部及び愛知県内赤十字施設との職員の人事交流を維持する。	愛知県支部を始め管内赤十字施設、法人本部・赤十字5大学との人事交流の検討及び実施。	次年度の事務職員配置が愛知県支部と協議のうえ決定した。	達成継続	
	3. 教職員の確保と質的向上	(1) 適切な人事交流等	倫理委員会 自己点検・評価委員会	総務課	中部ブロック内赤十字病院と連携して、看護職員を期限付き教員として受け入れ連携することを推進する。	中部ブロック看護職員の出向者を決定する。	2022年度は出向なし	未達成継続
				総務課	ハラスメント防止のガイドラインに基づき、ハラスメント防止研修会（学部学生向け・大学院学生向け・教職員向け）を開催する。	「キャンパスハラスメント防止ガイドライン」により、教職員及び学生への啓発活動及び継続的な研修会を実施する。	4月に新入生及び新入教職員にリーフレットを配布した。2021年6月5日（土）に院生、6月18日（金）に学部新入生及び新入教職員を対象にハラスメント防止研修会を実施した。次年度のハラスメント研修会の開催時期について調整した。2021年度版リーフレットの確認・修正を行った。	達成継続
4. 危機管理体制の構築等	(1) 危機管理と安全管理	災害対策プロジェクト	総務課	日赤愛知災害管理センター（2020年度開設）において、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	日赤愛知災害管理センターにおいて、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	支部担当課と連絡を取り、随時災害倉庫物品の見直し、物資入替を行い、整備を行う。	達成継続	
			衛生委員会	感染症対策フローの見直しを行い、適切に運用する。	感染症対策フローの見直しを行い、適切に運用する。	新型コロナウイルス感染症対策フローを運用中。	達成継続	
	(2) 環境意識の向上とエコ対策	経営会議	経理課	光熱水費節約を継続的に実施する。	ECOマニュアルを作成し、教員、学生へ周知している。また、各講義室には未使用時の電灯OFFを促すよう、カードを貼り、周知する。	四半期光熱水費利用状況（前年度対比）を四半期ごとに教員会議において報告し、節電状況を周知した。	達成継続	

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により未達成・継続

II 組織・運営

1. 2021年度 教員一覧

【専任教員】

職位		氏名	任期
学長	教授	鎌倉 やよい	2016年4月1日～2024年3月31日
学部長	教授	村瀬 智子	2016年4月1日～2022年3月31日
研究科長	教授	山田 聡子	2016年4月1日～2022年3月31日
学術情報センター・図書館長	教授	下間 正隆	2018年9月1日～2022年3月31日
ヘルスプロモーションセンター長	教授	松浦 正子	2020年8月1日～2022年3月31日

【看護学部】

領域	職位	氏名
専門基礎	教授	下間 正隆
	教授	森田 一三
	教授	福岡 長知
	助教	高見 精一郎
一般教養	特任教授	森 久子
	講師	鈴木 寿摩
基礎看護学	教授	山田 聡子
	准教授	中島 佳緒里
	講師	竹内 貴子
	講師	巻野 雄介
	助教	加藤 広美
	助教	近藤 絵美
	助教	池田 亮
	助手	高下 翔
看護管理学	教授	松浦 正子
	准教授	南谷 志野
成人看護学	教授	東野 督子
	准教授	石黒 千映子
	講師	栩川 綾子
	助教	田口 栄子
	助教	河村 諒
	助手	石田 咲
	助手	石原 佳代子
	産休・育休代替	倉光 紗恵子
災害看護学	特任教授	小林 洋子
	講師	長尾 佳世子
	講師	藤井 愛海
老年看護学	教授	小林 尚司
	准教授	清水 みどり
	講師	橋本 亜弓
	助教	近藤 香苗
在宅看護学	助教	臼井 かおり
	講師	松田 優子
母性看護学	講師	深谷 由美
	教授	野口 眞弓
	准教授	長田 知恵子
小児看護学	講師	千葉 朝子
	助手	岩本 真貴子
	特任教授	大西 文子
	准教授	岡田 摩理
精神看護学	講師	神道 那実
	助教	遠藤 幸子
	助手	鳥居 賀乃子
	教授	村瀬 智子
公衆衛生看護学	教授	村瀬 智子
	准教授	原田 真澄
	講師	初田 真人
	助教	坪之内 千鶴
公衆衛生看護学	助教	飯田 大輔
	教授	長谷川 喜代美
	准教授	清水 美代子
	助教	廣田 直美

【大学院 修士課程】

領域・分野		職位	氏名	
学長		教授	鎌倉 やよい	
研究科長		教授	山田 聡子	
専門科目	基盤育成看護学	看護管理学	教授	松浦 正子
			准教授	南谷 志野
	看護教育・技術学	教授	山田 聡子	
		准教授	中島 佳緒里	
		講師	巻野 雄介	
	成人看護学	教授	東野 督子	
		准教授	石黒 千映子	
	母性看護学	教授	野口 眞弓	
		准教授	長田 知恵子	
	小児看護学	特任教授	大西 文子	
准教授		岡田 摩理		
老年・在宅看護学	教授	小林 尚司		
	准教授	清水 みどり		
精神看護学	教授	村瀬 智子		
	准教授	原田 真澄		
地域看護学	教授	長谷川 喜代美		
	教授	森田 一三		
	特任教授	小林 洋子		
	講師	長尾 佳世子		
災害看護学	講師	藤井 愛海		
	教授	下間 正隆		
	教授	福岡 長知		
共通科目				

【大学院 博士後期課程】

職位	氏名
教授(学長)	鎌倉 やよい
教授(研究科長)	山田 聡子
教授	野口 眞弓
特任教授	大西 文子
教授	東野 督子
教授	村瀬 智子
教授	森田 一三
教授	松浦 正子

2. 2021年度 職員一覧

【事務局】

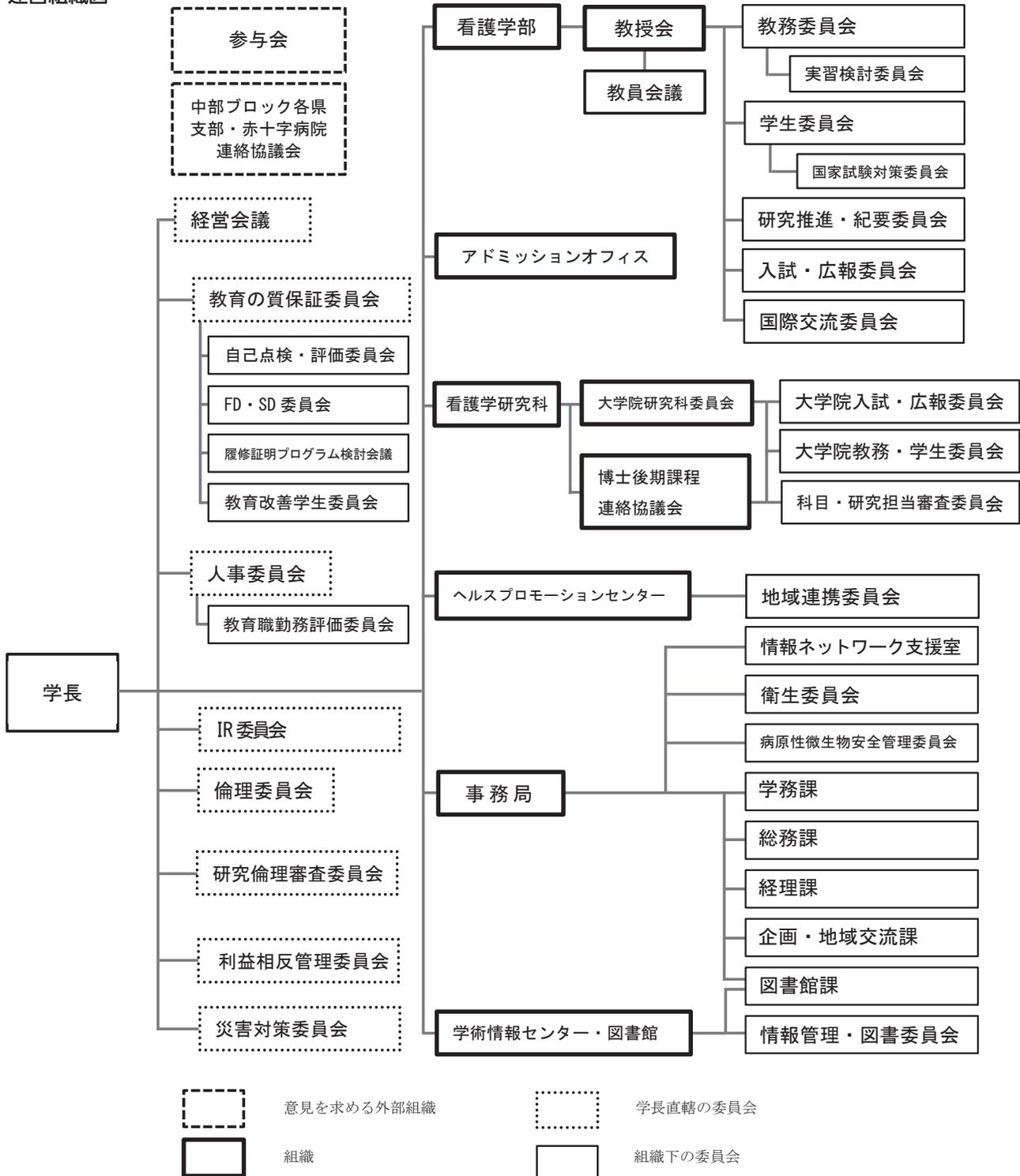
職名	氏名
事務局長	山田 誠
学務課長（兼）教務係長	平野 二郎
学生・キャリア支援係長	鳥居 貴代
主事	木村 美希
主事	安井 康介
主事	賀茂 綾子
一般（嘱託）	村上 久子
一般（契約）	小泉 恵美
一般（契約）	三木 幸子
総務課長	恒川 美智子
総務係長	谷川 歩
主事	中根 春波
主事	中谷 瞭
経理課長（兼）	恒川 美智子
経理係長（兼）用度係長	櫛田 堅二
主事	洞口 詩織里
主事	芝口 太一
主事	堀田 真理子
一般（契約）	前田 香織
企画・地域交流課長	中島 伸一
企画・地域交流係長	立川 俊彦
主事	奥 映理菜

【学術情報センター・図書館】

職名	氏名
学術情報センター・図書館長	下間 正隆
図書館課長（兼）	山田 誠
司書	村瀬 悠香代
一般（嘱託）	池上 健二
司書（契約）	野崎 慶子
司書（契約）	鈴木 美帆

3. 運営組織

運営組織図



(2022. 3. 18 経営会議承認)

4. 内部質保証

1) 今年度の取り組み

学校法人日本赤十字学園第3次中期計画（2019～2023年度）に基づき、教育の質保証委員会が内部質保証に関する自己点検評価として達成状況を評価し、年度内の進捗管理を実施した。

令和3年度（2021年度）は、中期計画の「内部質保証」に4項目、「全学的な教学マネジメント」に4項目を設定した。その目標は、前者では①評価体制に基づくPDCAサイクルの円滑な実施、②年報の作成、③学生評価、教育改善学生委員会の意見等、教育改善へ意見反映、④データの蓄積であった。後者では①教育課程の検証、学修成果等の検討、②大学院の改正カリキュラムの評価、③授業評価アンケートの評価体制の検討、④アセスメントポリシーの確定であった。

次に教育の質保証システム体系図に基づき、内部評価の具体的方法として、授業評価、ルーブリック評価、教育改善に関する学生評価が実施された。また、外部評価として参与会及び中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会が各年2回開催され、意見が聴取された。

(1) 第3次中期計画における令和2年度目標の達成状況

内部質保証・教学マネジメントとも、評価体制図に基づき順調に実施され、全て達成された。年度計画について四半期ごとに達成状況を確認し、PDCAサイクルが円滑に動くように進捗管理を実施した。ディプロマポリシーの達成度を該当科目のGPAで評価し卒業生にディプロマサブリメントとして配布した。

また、ルーブリック評価、授業評価アンケート、キャンパスライフアンケート、看護技術自己評価などを実施した。結果は、集約してホームページに登載した。さらに、年報を発行し、令和2年度計画を中心に、目標の達成状況を資料と共にまとめることができた。

学生評価では教育改善学生委員会を2回開催し、学部の各学年代表、大学院代表が参加し意見交換した。

(2) 理念・教育目的目標・3ポリシーの連関の点検

令和2年度教育の質保証委員会において、連関に関する大学院、学部の点検が実施された。ディプロマポリシーと授業目的の連関についても確認され、さらにカリキュラムマップとの整合についても点検された。その結果に基づき、ガイドブック、大学案内、カリキュラムマップ、シラバス等が修正され、令和3年度にすべてが反映された。

(3) アセスメントポリシーの確定

令和2年度から継続して審議してきたものであるが、概ね確定することができた。アセスメントポリシーは本学教育課程全体に対する評価の指針を示すものであり、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学部・研究科）、科目レベル（授業科目）から構成され、各レベルにおいて評価項目が設定された。さらに、評価項目ごとに所掌する委員会（担当課）、年報への連関が表記された。アセスメントポリシーが確定されたことにより、本学の教育課程への評価の方法が構造化されたと言える。

(4) 本学の教育の質評価システム

学生アンケートの評価項目を修正し、キャンパスライフアンケートとして、図書館サービス、大学からの各種情報提供、国試対策セミナーなど15項目に精選し、利用度と満足度を測定した。結果について、結果の要約、明らかになった課題、次年度の改善事項を明示して、結果の図と共に、ホームページ及びメソフィアへの掲載と学生への周知を予定した。改善事項についての検討が継続されたため、実際の登載と周知の時期が令和4年4月となった。

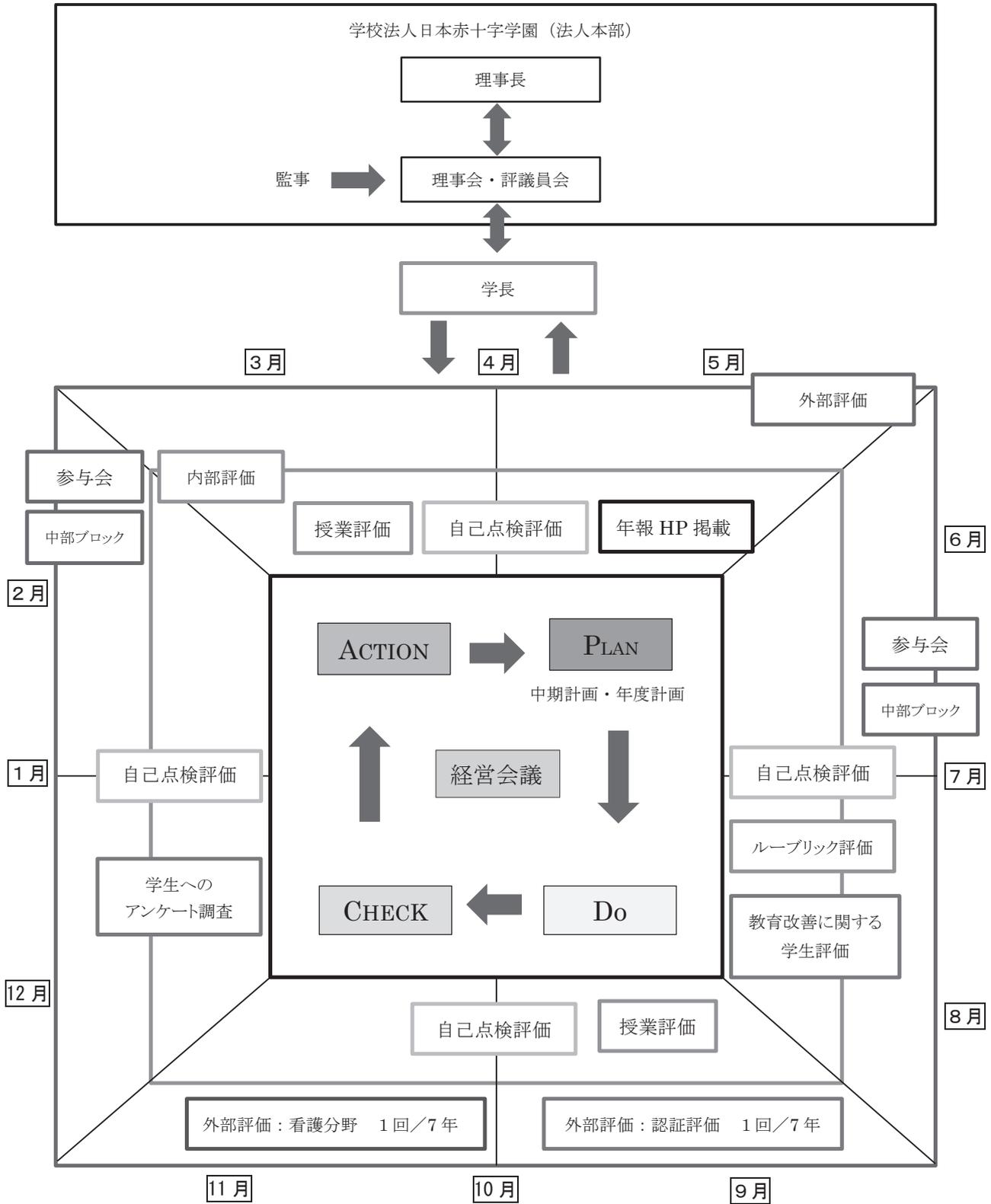
授業評価について、各教員に配布して評価に対する回答と改善を表明していたが、毎年同様の改善要望が繰り返される記載もあった。教育の質保証委員会として授業評価の実施要項を作成し、課題があると判断された授業科目については、担当教員へ改善依頼を通知することとなった。

2) 次年度に向けての課題

ディプロマポリシーに対するルーブリック評価の検討を開始したが、現ディプロマポリシーの各項目に複数の要素が含まれているために、評価指標の確定が困難であった。ディプロマポリシーの要素の整理と、ルーブリック評価指標の確定について次年度の課題とした。

看護技術自己評価について、厚生労働省の看護基礎教育検討会報告書（2019）を踏まえつつ、本学の技術項目を再検討する必要があること、さらにポートフォリオの構築について次年度の課題とした。

3) 評価体制図



4) 内部質保証システム体系図



5. 大学運営

1) 今年度の取り組み

経営会議のもとに、第三次中期計画に基づく2021年度計画を策定し、大学運営に関する方針を明示した。さらに、四半期ごとのアクションプランを示して、目標到達を評価し、PDCAサイクルを動かした。

まず、大学運営組織について、大学の理念・目的に照合して検証し、将来構想として、開学60年後を見越して、改築案・移転案など具体的な計画に着手した。また、ガバナンスコードの制定と点検評価、外部資金の獲得、ワクチン接種支援を実施した。

(1) 大学運営組織の点検評価

大学全体のネットワークについて迅速に対応するための組織として、ネットワーク支援室を事務局に位置付けた。また、アドミッションオフィスと学部及び大学院の入試関係委員会との位置づけを検討し、現状を維持することとなった。ヘルスプロモーションセンターについて、地域連携委員会が効果的に機能し、実績を蓄積していることを確認した。さらに、経営会議が最高決議機関であり、中期計画及び年度計画を策定してPDCAサイクルを動かす役割を担うこと、教育に関する質保証を担う教育の質保証委員会とともに、大学教学マネジメントの主体となることを確認した。参与会及び中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会は外部評価組織として機能するため、独立して表示した。以上に基づき運営組織図（14頁）を修正し、2022年4月1日から適用することとした。

(2) 将来構想

2022年度に向けてスクールバスの統廃合を進め、2021年度は予算を増額して3路線を維持した。2022年3月には保護者・学生宛てに、再度スクールバスを2路線に集約して便宜を図る旨の文書を郵送し、周知と更なる理解を求めた。

次に、将来構想として開学60年後を見通して、建物のメンテナンス計画、改築の時期等を検討した。空調や給排水関係の耐用年数は約15年であるが、本学では17年目に当たる2020年度に実施した。そこから試算すると、2036年度、2052年度に空調と給排水の更新が必要になる。

改築については、建物の耐用年数が60年であれば2052年までに改築することが必要となる。また、名古屋市内に移転する場合には、2035年度に行うことが妥当である。耐用年数を確認するための建物診断を実施したので、結果に基づき検討を継続することとなった。

また、2023年度は開学20周年であり、将来構想を踏まえ記念式典を行うことが決定された。

(3) ガバナンスコードの制定と点検評価

2019年には、「私立大学版ガバナンスコード」が制定された。国立大学協会は2020年3月30日に「国立大学法人ガバナンスコード」を制定した。これらの動向を受けて、日本赤十字学園のモデルが策定されて、本学のガバナンスコードを制定し、2022年2月にホームページに公開した。さらに当コードの点検評価を行い、第4章44(2)において、ハラスメントに関する受付窓口は明示されているが、他の法令違反に関する窓口の整備は不十分であることが確認された。これを2022年3月にホームページに公開した。

(4) 外部資金の獲得

2021年度私立大学等改革総合支援事業について、タイプ1とタイプ3を申請した。前年度獲得できなかったタイプ1の評価項目達成に向けて尽力した。その結果、タイプ1の評価は81点となったが、タイプ3は、前年度と同じ19点であり、タイプ1のみが選定された。タイプ3の評価項目達成に関する課題が残された。

次に、科学研究費の獲得は共通経費の獲得につながる。全教員の科研費申請を目標に示しているが、7件の新規申請であり、目標は達成されず課題が残された。

一方、2021年度の文部科学省の補正予算として、2021年度大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の募集があった。これに応募し採択されて、1000万円の助成を受け、事業は2022年度に実施することとなった。

(5) 豊田市ワクチン接種への支援

豊田市のワクチン接種に会場を提供し、教員が毎回13名支援した。本学教員42名と愛知県立大学看護学部教

員は17名が参加し、本会場で12000人を超える対象者に接種が実施された。

2) 次年度に向けての課題

建物診断結果に基づく将来構想の継続、開学20周年に向けての準備、私立大学等改革総合支援事業の助成金の獲得、科学研究費への申請率の向上について次年度の課題とした。

3) 大学運営委員会組織および委員一覧

委員会名		メンバー
経営会議		◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、森田教授
人事委員会	(人事委員会)	◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
	教育職勤務評価委員会	◎学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
教育の質保証委員会	(教育の質保証委員会)	◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、教務委員会委員長、大学院教務・学生委員会委員長、FD・SD委員会委員長、自己点検・評価委員会委員長、その他学長が指名する者、学務課長、総務課長
	自己点検・評価委員会	◎村瀬教授、大西特任教授、松浦教授、山田教授、長谷川教授、事務局長、総務課長
	FD・SD委員会	◎長谷川教授、事務局長、松浦教授、村瀬教授、森田教授、榎川講師、橋本講師、高見助教、総務課長
	履修証明プログラム検討会議	◎研究科長、学部長、大学院教務・学生委員長 永田ゆかり（日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院）、石川真理子（刈谷豊田総合病院）、佐野マサミ（トヨタ記念病院）
	教育改善学生委員会	◎学長、学部長、研究科長、看護学部生各学年2名、修士・博士課程学生1名
IR委員会		◎森田教授、大西特任教授、小林（洋）特任教授、野口教授、福間教授、高見助教、学務課長
研究倫理審査委員会		◎小林（洋）特任教授、東野教授、長谷川教授、森田教授、山田教授、南谷准教授、稲垣委員、久野委員、学務課長
利益相反管理委員会		◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、その他委員長が必要と認めた者、総務課長
災害対策委員会		◎小林（洋）特任教授、長尾講師、藤井講師、河村助教、飯田助教、総務課

4) 大学運営関係委員会 2021 年度活動報告

(1) 経営会議

活動目的	<p>1) 本学の中期計画及び毎年度の事業計画に関すること 2) 教育研究組織の適切性の評価に関すること 3) 本学職員の人事・サービス管理等の方針に関すること 4) 本学が定める重要な規程の制定又は改廃に関すること 5) 予算の作成及び執行並びに決算に関する重要な事項 6) 本学の財産に関する重要な事項 7) 教授会及び研究科委員会の審議等に付される重要な事項 8) その他本学の経営に関する重要な事項（経営に影響する場合は、教育研究に関するものを含む）</p>
構成員	<p>学 長：鎌倉やよい 学部長：村瀬智子 研究科長：山田聡子 学術情報センター・図書館長：下間正隆 ヘルスプロモーションセンター長：松浦正子 事務局長：山田誠 教 授：森田一三 事務局：企画・地域交流課</p>
委員会 開催回数	13 回
活動概要	<p>経営会議にて、以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 2021 年度事業計画について 11 月 2 日（火）赤十字大会について 紙媒体の電子化について 開学 20 周年の準備について</p> <p>第2回 2020 年度決算報告について 齊藤明彦 研究助成基金規程の改正について 高大連携推進会議の担当者について</p> <p>第3回 教育研究組織の検証について BP について</p> <p>第4回 中長期計画第 1 四半期報告について 履修証明プログラムについて 将来構想について</p> <p>第5回 2021 年度私立大学等改革総合支援事業について</p> <p>第6回 2022 年度事業運営方針（案）について 2022 年度予算編成方針（案）について 就業規則の変更について 教育研究組織の検証について ・大学院の表記の変更について ・入試・広報委員会をアドミッションオフィスの下部組織とするかについて ・経営会議の位置づけ ・情報ネットワーク支援室の位置づけ</p> <p>第7回 2022 年度事業運営方針（案）について 中長期計画第 2 四半期報告について 学部長等候補者選考委員会委員について 規程の改正について ガバナンスコードの策定について</p> <p>第8回 規程の改正について 改革総合支援事業について 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会の後任委員について</p> <p>第9回 2022 年度事業計画（案）について 2022 年度予算（案）について 学部長候補者の選考について 研究科長候補者の選考について 教育研究組織の検証について ・入試・広報委員会をアドミッションオフィスの下部組織とするかについて ・経営会議の位置づけ ・情報ネットワーク支援室の位置づけ 学生納付金等規程の改正について</p>

活動概要	<p>第10回 中長期計画第3 四半期報告について ガバナンスコードについて 規程の見直しについて DXの申請について 研究機関における公的研究の管理・監査のガイドラインの改正に伴う体制整備等について</p> <p>第11回 日本赤十字豊田看護大学 学位規程の改正について</p> <p>第12回 ガバナンスコードの点検結果について 2022年度各種委員会構成員について 2022年度会議日程について 将来構想について ・建物診断について</p> <p>第13回 2021年度中長期計画第4 四半期報告について 2022年度第三次中期計画について ガバナンスコードの点検について 単位互換にかかる他学等の授業科目の履修に関する規程の制定について 公開講座受講料に関する要綱の改正について 教育研究組織の検証について ・入試・広報委員会をアドミッションオフィスの下部組織とするかについて ・経営会議の位置づけ ・情報ネットワーク支援室の位置づけ</p>
次年度の課題	<p>1) 大学院修士課程の定員（10名）、大学院博士課程の定員（2名）確保</p> <p>2) 研究力の強化</p> <p>3) 第3次中期計画の2022年度計画が順調に進むよう進捗管理を行う。</p> <p>4) 移転等の将来を見据えた本学の将来構想にかかる検討</p>

(2) 人事委員会

活動目的	<p>1) 教員等の採用、昇任、任期、解雇、懲戒等に関する事項</p> <p>2) 当事者の意に反する降任、配置換、兼務、休職に関する事項</p> <p>3) 任期終了時における業績評価及び再任可否に関する事項</p> <p>4) 任期終了時の処遇に関する事項</p> <p>5) 前各号に規定するもののほか、学長の指示に基づきその権限に属する事項</p>
構成員	<p>委員長：鎌倉やよい</p> <p>委員：村瀬智子、山田聡子、下間正隆、山田誠</p> <p>事務局：総務課 恒川美智子、谷川歩</p>
委員会開催回数	18回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>1) 新規配置に伴う公募について（2件） 在宅看護学領域、成人看護学領域</p> <p>2) 退職に伴う公募について（3件） 基礎看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域</p> <p>3) 出向職員の勤務期間短縮に伴う公募について（1件） 基礎看護学領域</p> <p>4) 「教員の任期に関する規程」に基づく面接等手続きについて</p> <p>5) 教員の昇任について 基礎看護学領域 1名、小児看護学領域 2名</p>
次年度の課題	1) 教員定数と教員組織編成後の評価

(3)教育の質保証委員会

活動目的	<p>1) 人材育成目標及び教育プログラム編成の基本的事項に関すること 2) 教職員の資質・能力の向上と開発の基本的事項に関すること 3) 中長期計画及び年度計画、自己点検・評価に関すること 4) カリキュラム検討及び改正に関すること 5) 履修証明プログラム検討に関すること 6) その他全学的な教学マネジメント及び内部質保証に関すること</p>
構成員	<p>委員長：鎌倉やよい 委員：村瀬智子、山田聡子、下間正隆、長谷川喜代美、小林尚司、山田誠、平野二郎、恒川美智子 事務局：総務課 谷川歩</p>
委員会開催回数	12回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 2021年度 課題：目標・スケジュールについて 2021年度教育の質保証委員会課題の進め方について 2020年度第2回教育改善学生委員会について</p> <p>第2回 緊急事態宣言発令後の本学の教育体制について</p> <p>第3回 キャンパスライフアンケート結果を踏まえた今後の対応について 授業評価アンケート評価体制検討について 一般財団法人日本看護学教育評価機構（JABNE）評価員の推薦について</p> <p>第4回 授業評価アンケート評価体制について アセスメントポリシー改正案について ポートフォリオについて 卒業生アンケートについて</p> <p>第5回 アセスメントポリシー改正案について ディプロマサプリメントについて 外部評価受審計画について</p> <p>第6回 2021年度 私立大学等改革総合支援事業について 外部評価受審計画について</p> <p>第7回 アセスメントポリシーについて 授業評価について 教育の質に係る客観的指標調査について</p> <p>第8回 アセスメントポリシーについて 授業評価について 遠隔授業の取扱いについて 学修時間に関する調査結果等の公開について シラバスへのディプロマポリシーの記載について</p> <p>第9回 授業評価について DXの推進について 内部評価スケジュールについて</p> <p>第10回 本学における看護技術の到達度評価について</p> <p>第11回 授業評価アンケートに関する評価委員会 2022年度学年暦について ガバナンス・コードに係る点検結果報告書について 愛知学長懇話会単位互換制度について</p> <p>第12回 修士課程 DP 到達状況の評価方法について 単位互換制度に関する学内運用について 2021年度委員会総括について</p> <p>【決定事項】</p> <p>1) アセスメントポリシーについて 本学のアセスメントポリシー（学修成果・教育成果の評価方針）を確定した。</p> <p>2) 授業評価アンケートに関する評価について 日本赤十字豊田看護大学 授業評価アンケートに関する評価 実施要項を確定した。 2021年12月7日施行。</p> <p>3) 緊急事態宣言発令後の本学の教育体制について 1、2年生は講義室を2つに分けて対面授業を実施することを決定した。</p> <p>4) ディプロマサプリメントについて ディプロマサプリメントの内容を確定し、卒業時に2通発行することを決定した。</p> <p>5) 外部評価受審計画について 2024年度に大学基準協会認証評価、2026年度にJABNE看護学教育に関する評価を受審することを決定した。</p>

活動概要	<p>6) 遠隔授業の取扱いについて 「同時性または即応性を持つ双方向性（対話性）を有す」条件を満たす遠隔授業について、本学の方針を決定した。</p> <p>7) 学修時間に関する調査結果等の公開について ホームページに公開する内容を決定した。</p> <p>8) 本学における看護技術の到達度評価について 2022年度前期完了を目指し、プロジェクトチームを立ち上げ、方針を決定し、本学の評価基準を作成することを決定した。</p> <p>9) 愛知学長懇話会単位互換制度について 本学の学生が単位互換制度を利用できるように、本学の時間割を曜日・時限で設定することを2023年度の課題とする。</p> <p>10) 修士課程 DP 到達状況の評価方法について 客観評価を修了時におけるディプロマポリシーごとの GPA で算出すること、学生自己評価を修了時アンケートにおいてデータ収集することを決定した。</p>
次年度の課題	<p>1) 各ディプロマポリシーの文に含まれる要素の整理</p> <p>2) ルーブリック評価指標の修正</p> <p>3) 技術評価項目の改正</p> <p>4) ポートフォリオの構築</p>

(4) 自己点検・評価委員会

活動目的	<p>1) 教育、研究に関する事項</p> <p>2) 施設、設備に関する事項</p> <p>3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項</p> <p>4) 評価結果の公表及び改善に関する事項</p> <p>5) その他学長が必要と認める事項</p>
構成員	<p>委員長：村瀬智子</p> <p>委員：山田聡子、山田誠、松浦正子、長谷川喜代美、大西文字、恒川美智子</p> <p>事務局：総務課 中根春波</p>
委員会開催回数	6回
活動概要	<p>1) 教育、研究に関する事項</p> <p>(1) 2021年2月に実施したキャンパスライフアンケートの結果を2021年9月に学部生・大学院生に公開した。</p> <p>(2) 2022年1月にキャンパスライフアンケートを Microsoft office365 forms で実施した。なお、経年変化を確認するため、調査の内容は昨年と同じものとした。</p> <p>2) 施設、設備に関する事項 該当事項なし</p> <p>3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 該当事項なし</p> <p>4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 自己点検・評価に係るデータの継続的積み重ねが出来るよう2020年度年報より構成の改善を行った。発刊した2020年度年報は、赤十字関係施設および実習施設等へ送付した。 2021年度年報については9月発刊（納品）を目標として作成スケジュールをたて、2022年2月末に各事務担当課・各委員会委員長あてに原稿を依頼した。</p> <p>5) その他学長が必要と認める事項 該当事項なし</p>
次年度の課題	<p>1) 学生の声を反映したキャンパスライフを目指し、アンケートの回収率を上げるため、実施時期や周知方法等の変更を検討する。</p> <p>2) 2021年度年報を、作成スケジュールに基づき早期に発刊する。</p>

(5) FD・SD委員会

活動目的	1) FD（ファカルティディベロップメント）に関する事項 2) SD（スタッフディベロップメント）に関する事項 3) その他学長が必要と認める事項																						
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：村瀬智子、森田一三、松浦正子、棚川綾子、橋本亜弓、高見精一郎、山田誠、恒川美智子 事務局：総務課 中根春波																						
開催回数	3回																						
活動概要	<p>1) FDに関する事項およびSDに関する事項 FD・SD活動を表1のとおり実施した。</p> <p>表1 2021年度FD・SD活動実施状況</p> <table border="1" data-bbox="268 645 1386 2022"> <thead> <tr> <th data-bbox="268 645 667 689">テーマ</th> <th data-bbox="675 645 1386 689">実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="268 696 667 815">新入教職員オリエンテーション 及びTA・教務補佐員研修</td> <td data-bbox="675 696 1386 815">開催日：2021年4月1日（水） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長、山田聡子研究科長 参加者：新入教職員3名及びTA・教務補佐員6名 内容：本学の教育理念、教育目的、教育目標等を説明した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 822 667 1028">「科学研究費を獲得するための準備」研修会</td> <td data-bbox="675 822 1386 1028">開催日：2021年4月27日（火） 講師：野口眞弓教授、南谷志野准教授、初田真人講師 参加者：26名 内容：研究推進・紀要委員会と共催により、科学研究費獲得のための準備事項について説明するとともに、研究計画書が採択された教員を講師として、量的研究・質的研究それぞれにおける研究方法の内容・書き方について説明した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1034 667 1126">ハラスメント防止研修</td> <td data-bbox="675 1034 1386 1126">開催日：2021年6月5日（土）・6月18日（金） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長 参加者：2名（新入教職員）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1133 667 1225">情報セキュリティ研修</td> <td data-bbox="675 1133 1386 1225">開催日：2021年6月23日（水）・12月22日（水）Zoom 講師：森田一三教授 内容：情報セキュリティに関する最近のトピックを伝え注意喚起を図った。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1232 667 1350">著作権法改正にかかる研修</td> <td data-bbox="675 1232 1386 1350">開催日：2021年9月29日（水）Zoom 講師：鎌倉やよい学長 参加者：54名 内容：著作権法35条に関する「授業での著作物の利用」について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1357 667 1498">研究に関する研修</td> <td data-bbox="675 1357 1386 1498">開催日：2021年12月21日（火） 講師：野口眞弓教授 参加者：27名（オンデマンド視聴3名含む） 内容：査読に通すための重要なポイントや、査読者側からの視点について説明した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1505 667 1624">FD・SD研修会</td> <td data-bbox="675 1505 1386 1624">開催日：2022年3月10日（水）Zoom 講師：神戸大学医学部附属病院 ウイリアムソン彰子副看護部長 参加者：55名 内容：DX化で変わる看護教育・臨地実習</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1630 667 1722">研究倫理研修</td> <td data-bbox="675 1630 1386 1722">開催日：2022年3月28日～2022年4月18日 オンデマンド 受講者：40名 内容：研究倫理審査の申請について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1729 667 1821">利益相反研修</td> <td data-bbox="675 1729 1386 1821">開催日：2022年3月28日～2022年4月18日 オンデマンド 受講者：40名 内容：利益相反管理について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1827 667 2022">SD 業務効率化・改善にかかるワーキング</td> <td data-bbox="675 1827 1386 2022">開催日：毎月第4木曜日 メンバー：6名（事務各課若手職員） 開催回数：8回 テーマ：①問題把握と原因追及 ②問題に対する改善策の発見 ③紙媒体（書類）の整理・保管のルール作成 ④データの整理・保管方法の検討 ⑤データの断捨離ルール作成と周知</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) その他学長が必要と認める事項 該当事項なし</p>	テーマ	実施状況	新入教職員オリエンテーション 及びTA・教務補佐員研修	開催日：2021年4月1日（水） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長、山田聡子研究科長 参加者：新入教職員3名及びTA・教務補佐員6名 内容：本学の教育理念、教育目的、教育目標等を説明した。	「科学研究費を獲得するための準備」研修会	開催日：2021年4月27日（火） 講師：野口眞弓教授、南谷志野准教授、初田真人講師 参加者：26名 内容：研究推進・紀要委員会と共催により、科学研究費獲得のための準備事項について説明するとともに、研究計画書が採択された教員を講師として、量的研究・質的研究それぞれにおける研究方法の内容・書き方について説明した。	ハラスメント防止研修	開催日：2021年6月5日（土）・6月18日（金） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長 参加者：2名（新入教職員）	情報セキュリティ研修	開催日：2021年6月23日（水）・12月22日（水）Zoom 講師：森田一三教授 内容：情報セキュリティに関する最近のトピックを伝え注意喚起を図った。	著作権法改正にかかる研修	開催日：2021年9月29日（水）Zoom 講師：鎌倉やよい学長 参加者：54名 内容：著作権法35条に関する「授業での著作物の利用」について	研究に関する研修	開催日：2021年12月21日（火） 講師：野口眞弓教授 参加者：27名（オンデマンド視聴3名含む） 内容：査読に通すための重要なポイントや、査読者側からの視点について説明した。	FD・SD研修会	開催日：2022年3月10日（水）Zoom 講師：神戸大学医学部附属病院 ウイリアムソン彰子副看護部長 参加者：55名 内容：DX化で変わる看護教育・臨地実習	研究倫理研修	開催日：2022年3月28日～2022年4月18日 オンデマンド 受講者：40名 内容：研究倫理審査の申請について	利益相反研修	開催日：2022年3月28日～2022年4月18日 オンデマンド 受講者：40名 内容：利益相反管理について	SD 業務効率化・改善にかかるワーキング	開催日：毎月第4木曜日 メンバー：6名（事務各課若手職員） 開催回数：8回 テーマ：①問題把握と原因追及 ②問題に対する改善策の発見 ③紙媒体（書類）の整理・保管のルール作成 ④データの整理・保管方法の検討 ⑤データの断捨離ルール作成と周知
テーマ	実施状況																						
新入教職員オリエンテーション 及びTA・教務補佐員研修	開催日：2021年4月1日（水） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長、山田聡子研究科長 参加者：新入教職員3名及びTA・教務補佐員6名 内容：本学の教育理念、教育目的、教育目標等を説明した。																						
「科学研究費を獲得するための準備」研修会	開催日：2021年4月27日（火） 講師：野口眞弓教授、南谷志野准教授、初田真人講師 参加者：26名 内容：研究推進・紀要委員会と共催により、科学研究費獲得のための準備事項について説明するとともに、研究計画書が採択された教員を講師として、量的研究・質的研究それぞれにおける研究方法の内容・書き方について説明した。																						
ハラスメント防止研修	開催日：2021年6月5日（土）・6月18日（金） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長 参加者：2名（新入教職員）																						
情報セキュリティ研修	開催日：2021年6月23日（水）・12月22日（水）Zoom 講師：森田一三教授 内容：情報セキュリティに関する最近のトピックを伝え注意喚起を図った。																						
著作権法改正にかかる研修	開催日：2021年9月29日（水）Zoom 講師：鎌倉やよい学長 参加者：54名 内容：著作権法35条に関する「授業での著作物の利用」について																						
研究に関する研修	開催日：2021年12月21日（火） 講師：野口眞弓教授 参加者：27名（オンデマンド視聴3名含む） 内容：査読に通すための重要なポイントや、査読者側からの視点について説明した。																						
FD・SD研修会	開催日：2022年3月10日（水）Zoom 講師：神戸大学医学部附属病院 ウイリアムソン彰子副看護部長 参加者：55名 内容：DX化で変わる看護教育・臨地実習																						
研究倫理研修	開催日：2022年3月28日～2022年4月18日 オンデマンド 受講者：40名 内容：研究倫理審査の申請について																						
利益相反研修	開催日：2022年3月28日～2022年4月18日 オンデマンド 受講者：40名 内容：利益相反管理について																						
SD 業務効率化・改善にかかるワーキング	開催日：毎月第4木曜日 メンバー：6名（事務各課若手職員） 開催回数：8回 テーマ：①問題把握と原因追及 ②問題に対する改善策の発見 ③紙媒体（書類）の整理・保管のルール作成 ④データの整理・保管方法の検討 ⑤データの断捨離ルール作成と周知																						

次年度の課題	<p>1) 新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン形式を取り入れて研修会を実施した。研修会に関するアンケート結果等から、オンライン形式のメリットがあったと考えられるため、次年度も研修内容に応じてオンラインやオンデマンド形式も取り入れて研修会を行う。</p> <p>2) 業務効率化・改善ワーキングにおいて、文書の電子化・ペーパーレス化に向けて、データの整理・保管方法の検討に着手しはじめたので、次年度も継続して取り組んでいく。</p> <p>3) 教育力、研究力、マネジメント力の向上に向けて、それぞれの具体的な課題の明確化を図る。</p>
--------	---

2021 年度 FD・SD マップー求められる教職員像の実現に向けた研修等ー

《教育力》		学 内 研 修	日常業務を通して	学 外 研 修
レベル 1	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を理解 ・赤十字の理念を理解 ・本学の3つのポリシーを理解 ・本学の3つのポリシーの関係性（一貫性）を理解 ・カリキュラムマップ等により、各授業科目の関連を理解	・新任教員オリエンテーション ・TA 研修、プレ FD		・学園本部の研修
レベル 2	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を実践 ・ディプロマポリシーをふまえて担当授業科目の位置づけを理解、シラバスを作成 ・シラバスの記載内容にそった授業を実践	・シラバス作成研修（教務委員会）	・教員間授業見学	・日本学生支援機構の各種研修 ・看護学教育ワークショップ（千葉大文科省委託） ・日本学術会議公開シンポジウム（分野別保証等） ・JANPU の研修（看護学教育評価等）
レベル 3	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を振り返り、課題を見出し改善 ・学修成果・教育成果を把握・可視化 ・学修成果・教育成果に基づき教育活動の課題を分析 ・教育活動の課題に関する改善方策を立案	・教育活動の評価（アセスメントポリシー、ループリック評価）研修	・授業評価アンケート、成績評価をふまえた教育活動の改善	
《研究力》		学 内 研 修	日常業務を通して	学 外 研 修
レベル 1	研究デザインを理解 質の良い RQ を持って文献検討、研究計画立案	・文献検索（EBSCO、医中誌） ・科研費申請説明会（研究推進・紀要委員会） <i>（必須研修）</i>	・研究促進・支援体制の整備	
レベル 2	研究計画に基づく研究の実践 外部の競争的研究資金の獲得	・研究倫理 ・利益相反		
レベル 3	研究結果をプロダクト（論文）として社会に還元	・科研費コンプライアンス		
《マネジメント力》		学 内 研 修	日常業務を通して	学 外 研 修
レベル 1	大学のマネジメントを支える基盤の理解	・新入職員オリエンテーション ・情報セキュリティ・情報リテラシー <i>（必須研修）</i>		・学園本部の研修
レベル 2	大学のマネジメントを支える方法の理解および実践	・ハラスメント防止研修		・働き方改革セミナー等 ・愛知労働局の研修
レベル 3	大学のマネジメントに関する課題の見出し改善策の提言	・業務効率化に関するワーキング（具体的課題のリストアップ） ⇒課題解決方法検討（研修会企画、業務改善策立案等）		

(6) IR 委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 2021 年度学修成果に関すること 2) 2021 年度学生の満足度と授業評価に関すること 3) 2017 年度入学生における入試方法と入試後の学生の成績の動向調査 4) 学内外の教育研究等にかかる情報の収集・評価：年間通じて継続的に実施 5) 学長からの調査依頼に関すること
構成員	<p>委員長：森田一三</p> <p>委員：福岡長知、野口眞弓、大西文子、小林洋子、高見精一郎、平野二郎</p> <p>事務局：学務課 安井康介</p>
委員会開催回数	2 回
活動概要	<p>第 1 回 入試成績、在学中成績と国試結果について 学習時間と学習成果の調査について 卒業生アンケート等の実施について 授業評価アンケートの適切さについて</p> <p>第 2 回 学修時間と学修成果の調査について 卒業生アンケート等の実施について</p>
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 2022 年度学修成果に関すること 2) 2022 年度学生の満足度と授業評価に関すること 3) 2018 年度入学生における入試方法と入試後の学生の成績の動向調査 4) 学内外の教育研究等にかかる情報の収集・評価：年間通じて継続的に実施 5) 学長からの調査依頼に関すること

(7) 研究倫理審査委員会

活動目的	1) 研究を実施することの倫理的及び科学的見地からの妥当性に関する審査 2) 審査を行った研究についての倫理的妥当性及び科学的合理性の観点からの調査と学長への報告 3) 侵襲を伴い介入を行う研究を実施する場合の研究実施の適正性及び研究結果の信頼性確保のための調査と学長への報告 4) 研究倫理意識高揚のための倫理教育・研修の実施 5) その他、学長および委員会が必要と認める事項
構成員	委員長：小林洋子 委員：森田一三、長谷川喜代美、山田聡子、東野督子、南谷志野、稲垣恵一（外部委員）、久野雅恵（外部委員）、平野二郎 事務局：学務課 小泉恵美
委員会開催回数	23回
審査件数	審査件数 32 件（承認：25 件 非該当：1 件 取り下げ：2 件 継続審査：4 件）
活動概要	1) 定例委員会 第1回 研究倫理審査 3 件（迅速審査 2 件、研究計画変更審査 1 件） 2021 年度 委員会開催日程について 副委員長の決定について 第2回 研究倫理審査 4 件（迅速審査 3 件、研究計画変更審査 1 件） 2021 年度 委員会開催日程について 副委員長の決定について 第3回 研究倫理審査 4 件（一般審査 1 件、迅速審査 3 件） 第4回 研究倫理審査 3 件（迅速審査 3 件） 第5回 研究倫理審査 1 件（迅速審査 1 件） 第6回 研究倫理審査 5 件（一般審査 3 件、迅速審査 2 件） 次年度予算について 新規事業計画について 第7回 研究倫理審査 3 件（一般審査 1 件、迅速審査 2 件） 次年度予算について 新規事業計画について 第8回 研究倫理審査 1 件（迅速審査 1 件） 学生便覧（大学院看護学研究科）掲載の運用細則と各様式について 第9回 研究倫理審査 7 件（一般審査 1 件、迅速審査 6 件） 研究計画書（様式第 2 号）への追記について 第10回 研究倫理審査 4 件（一般審査 1 件、迅速審査 3 件） 2021 年度 研究倫理研修について 第11回 研究倫理審査 6 件（一般審査 2 件、迅速審査 4 件） 2021 年度 研究倫理研修について 第12回 研究倫理審査 4 件（一般審査 2 件、迅速審査 2 件） 総括（案）について 2022 年度 委員会開催日程（4 月から 6 月まで）について 2) 臨時委員会 第1回 研究倫理審査 2 件 第2回 研究倫理審査 1 件 第3回 研究倫理審査 1 件 第4回 研究倫理審査 1 件 第5回 研究倫理審査 1 件 第6回 研究倫理審査 2 件（うち、研究計画変更審査 1 件） 第7回 研究倫理審査 1 件 第8回 研究倫理審査 1 件 第9回 研究倫理審査 2 件 第10回 研究倫理審査 4 件 第11回 研究倫理審査 2 件（うち、学内委員全員の審査承認後、一般審査 1 件） 3) 倫理教育・研修 2021 年 4 月 10 日（土） 大学院生向け研修「本学の研究倫理審査」（対面） 2022 年 3 月 28 日（月）～ 2022 年 4 月 18 日（月） FD・SD 研修「研究倫理研修・利益相反研修」（オンデマンド）
次年度の課題	1) 研究倫理審査過程、規程・運用細則を整備する 2) 教職員の倫理教育・研修を検討する

(8) 災害対策委員会

活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害情報の収集とその分析に関すること 2) 想定されるリスクの抽出、評価及び優先順位付けに関すること 3) 順位付けたりリスクへの対応策の検討、立案、実施に関すること 4) 危機管理マニュアルの作成、見直し、学内への周知に関すること 5) 教職員及び学生等への教育・訓練の実施に関すること 6) 緊急時の情報伝達システムの整備に関すること 7) 災害時における危機対策本部を設置するときの場所の確保、備品、通信機器の準備に関すること 8) その他災害対策に関すること
構成員	委員長：小林洋子 委員：長尾佳世子、藤井愛海、河村諒、飯田大輔、恒川美智子、中谷瞭 事務局：総務課 恒川美智子、中谷瞭
委員会開催回数	9回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 2021年度災害対策委員会年間計画について 第2回 防災訓練アンケート実施について 2021年度に整備する物品について 災害対応個別マニュアル第1版改正について 夜間休日における宮口一色自治区民の避難対応について 第3回 夜間休日における宮口一色自治区住民の避難対応について 逢妻消防署からの合同消防訓練打診について 第4回 夜間休日における宮口一色自治区住民の避難対応（案）について 2021年度防災訓練（案）について 食糧備蓄方法について 第5回 2022年度予算について 11月学内訓練に関して 日本赤十字社愛知県支部保有、災害備蓄倉庫物資の活用について 第6回 11月学内訓練の実施に関して 第7回 日本赤十字社本社財源による救護資機材の整備について 第8回 宮口一色地区との自主避難場所利用に関する覚書 内容に関して 第9回 宮口一色地区との自主避難場所利用に関する覚書 内容に関して 以下のとおり活動した。 2021年11月11日に教職員及び学生に対し Forms を使用した安否確認訓練を行った。 2022年3月31日付で宮口一色地区との自主避難場所利用に関する覚書を更新した。
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害対応個別マニュアル第1版の見直し 2) 宮口一色自治区住民の自主避難受け入れに係る対応のマニュアル化 3) 防災訓練の内容の再考

5) アドミッションオフィス

アドミッションオフィスとは、入学試験・入学者選抜の方法等について、大学の方針を決定する委員会である。

活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 多面的・総合的な入学者選抜方法の検討に関すること 2) 入学者の追跡調査等による選抜方法の妥当性の検証に関すること 3) 日本赤十字学園内における入学者選抜に係る連携に関すること 4) その他入試改革に関し必要な事項に関すること
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：村瀬智子、小林洋子、中島佳緒里、山田誠、中島伸一 事務局：企画・地域交流課
開催回数	2回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 大学入学者選抜にかかる多面的・総合的な評価について 6看護大学連携併願制度について 第2回 2022年度大学入学者選抜における受験機会の確保について
次年度の課題	今後、6看護大学による連携併願制度について、他大学と協働して制度を発足させる。

6) 外部資金獲得状況

(1) 2021年度私立大学等改革総合支援事業

タイプ1:『Society 5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開について に採択された。

(2) 日本赤十字豊田看護大学 私立大学等経常費補助金 獲得状況

(単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
計	171,478	120,177	124,745	117,296	123,455

(3) 科学研究費等競争的外部研究資金獲得状況

(単位:千円)

No.	研究者名	種類	研究課題名	事業年度	当年度補助金額
1	神藤那実	挑戦的萌芽研究	小児看護の専門性を活かしたプレパレーションと診療報酬	2015 ~ 2021	—
2	巻野雄介	若手研究(B)	わが国の末梢静脈穿刺におけるウェアラブル静脈透過デバイスの有用性	2017 ~ 2021	—
3	河村諒	若手研究(B)	広域避難した高齢被災者に対する継続支援の実態と生活再建支援モデルの構築	2017 ~ 2021	—
4	中島佳緒里	基盤研究(C)	身体接触技術における情動評価尺度の開発と臨床応用	2017 ~ 2021	—
5	東野督子	基盤研究(C)	在宅で療養が必要な要介護高齢者に実施する効果的な口腔ケア教育プログラムの開発	2017 ~ 2021	—
6	石黒千映子	基盤研究(C)	糖尿病とがんの multimorbidity 患者のニーズと外来看護支援モデルの構築	2018 ~ 2021	780
7	千葉朝子	基盤研究(C)	母乳育児継続支援を目指した母乳育児中の母親の comfort 測定尺度の開発	2018 ~ 2021	650
8	野口真弓	基盤研究(C)	マタニティ・ヨガの産後うつへの低減効果とその最適化に関する研究	2018 ~ 2021	—
9	初田真人	基盤研究(C)	精神科訪問看護における利用者のエンパワメントに影響を与える訪問看護師の支援	2018 ~ 2022	910
10	清水美代子	基盤研究(C)	労働者のワーク・ファミリー・コンフリクト、職場環境と健康関連 QOL との関連	2018 ~ 2021	—
11	稲垣恵一	基盤研究(C)	LGBTA の人々の互助関係の研究——超高齢社会のコミュニティ形成の一モデルとして	2018 ~ 2021	—
12	長田智恵子	基盤研究(C)	母乳育児支援専門のアドバンス助産師育成のための習熟度が判断できる搾乳モデルの開発	2019 ~ 2022	3,250
13	巻野雄介	基盤研究(C)	新たにエコーを導入した基礎看護技術演習の学習効果	2020 ~ 2023	260
14	坪之内千鶴	基盤研究(C)	精神科入院患者が書く「患者カルテ」の治療効果とその応用に関する研究	2020 ~ 2023	520
15	岡田摩理	基盤研究(C)	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	2020 ~ 2023	910
16	森田一三	基盤研究(C)	ディープラーニングを応用した口腔画像識別技術の解明	2021 ~ 2024	1,950
17	野口真弓	基盤研究(C)	育児をする父母のソーシャル・キャピタルを醸成するアクション・リサーチ	2021 ~ 2024	1,560
18	南谷志野	若手研究	協働意識醸成を目指した短時間勤務制度運用プログラムの開発と有用性の検証	2020 ~ 2023	1,430
19	栩川綾子	若手研究	糖尿病足病変患者の入院時における看護実践モデル構築に向けた基盤研究	2020 ~ 2022	130
20	藤井愛海	若手研究	災害時要配慮者を中核とするインクルーシブデザインによる地域減災モデルの構築	2020 ~ 2022	1,040
計					13,390

(4) 学校法人日本赤十字学園関連の研究資金獲得状況

(単位:千円)

No.	研究者名	種類	研究課題名	事業年度	当年度 補助金額
1	下 間 正 隆	学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成	新型コロナの時代の「イラストで良くわかる高齢者介護施設のための感染対策マニュアル&動画」の作成と介護施設現場の感染対策力の底上げシステムの構築	2021	1,700
2	小 林 洋 子	日本赤十字国際人道研究センター研究員による事業	1946年、看護教育制度改革における赤十字の看護教育に関する調査	2021	90
3	飯 田 大 輔	学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金に係る研究支援事業	場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの検討	2021	1,000
4	近 藤 香 苗	学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金に係る研究支援事業	看護学実習における看護学生に求める主体性尺度の開発に関する研究	2021	195

6. 学部運営

1) 今年度の取り組み

2021年度の看護学部の取り組みにおける重点事項は、(1)新教育課程2年目の実施と学部教育の内部質保証に向けた評価体制作り、(2)新型コロナウイルス感染予防対策の継続と第3回目ワクチン接種の勧奨の2項目であった。

各項目についての取り組み状況は以下のとおりである。

(1) 新教育課程2年目の実施と学部教育の内部質保証に向けた評価体制作り

2020年度から導入した新教育課程を円滑に実施すると共に、授業評価体制の見直しを含むアセスメントポリシーの策定を行った。

また、現在、学士課程の学修成果を多様な指標を用いて客観的に測り、証明書として発行することが求められている。このような社会的要請を受けて、本学においても、2021年度の卒業生から正課内外の多様な活動を行ったという学修成果を証明するディプロマサプリメント（学位証明補助資料）を学位授与時に発行した。

(2) 新型コロナウイルス感染予防対策の継続と第3回目ワクチン接種の勧奨

2021年度前期は、4月から対面授業を開始すると共に、看護学実習前のワクチン先行接種を勧奨することに努め、実習施設を中心に接種の受け入れ依頼を行った。その結果、全学生の96~97%程度が、看護学実習前にワクチン接種を受けることができた。しかし、感染拡大傾向となり緊急事態宣言が愛知県に発出されたため、5月6日から、曜日毎に対面授業と遠隔授業を振り分け、組み合わせたハイブリッド型（1・2年生は週に3日間、3年生は週に2日間、4年生は週に5日間対面授業）の授業形態に変更した。さらに、全学生を対象として、愛知県のPCRモニタリング（唾液を用いたPCR検査）事業に参加して感染防止に努めると共に、日々の健康観察に加え、マスク着用、手指消毒、黙食、換気等の感染予防行動を徹底した。その後は、感染拡大状況に応じて、密を避けるため2教室展開でZoom配信するハイフレックス型の授業形態の適用、オンデマンド教材の活用等、さまざまな授業形態の工夫や、学生自治会の協力を得てのサークル活動範囲の調整等を行った。

後期は、9月27日からハイブリッド型（1年生は週2日、2年生は週3日を対面授業、3・4年生は原則として対面授業）の授業形態で開始した。その後は、感染拡大状況に合わせて対面授業日数を増やす等の対応を行った。しかし、12月に入り、変異株（オミクロン株）による感染拡大状況となったため、第3回目のワクチン接種を勧奨し、実習施設を中心に接種の受け入れを交渉し、2022年度の新年度を迎えるまでに、全学生が接種を受けられるよう体制を整えた。

2) 課題

新型コロナウイルスの感染拡大状況が続く中で、さらなる授業形態への可能性を追究しつつ、教育内容を吟味する必要がある。遠隔授業を効果的に行うためのオンデマンド教材の開発、シミュレーション教育内容の拡充、ルーブリック評価の見直しも課題である。さらに質の高い教育活動を展開するための教員の研究時間の確保も重要な課題である。

3) 学部委員会組織および委員一覧

委員会名		メンバー
教授会		◎学部長、事務局長、下間教授、森田教授、福間教授、森特任教授、山田教授、松浦教授、東野教授、小林（洋）特任教授、小林（尚）教授、野口教授、大西特任教授、長谷川教授、学長（オブザーバー）
教員会議		◎学部長、事務局長、下間教授、森田教授、福間教授、森特任教授、山田教授、松浦教授、東野教授、小林（洋）特任教授、小林（尚）教授、野口教授、大西特任教授、長谷川教授、中島准教授、南谷准教授、石黒准教授、清水（み）准教授、長田准教授、岡田准教授、原田准教授、清水（美）准教授、鈴木講師、竹内講師、巻野講師、栩川講師、長尾講師、藤井講師、橋本講師、松田講師、深谷講師、千葉講師、神道講師、初田講師、高見助教、加藤助教、近藤（絵）助教、池田助教、田口助教、河村助教、近藤（香）助教、臼井助教、遠藤助教、坪之内助教、飯田助教、廣田助教、高下助手、石田助手、石原助手、岩本助手、鳥居助手、学長（オブザーバー）
教務委員会	（教務委員会）	◎小林（尚）教授、東野教授、松浦教授、長谷川教授、岡田准教授、原田准教授、竹内講師、千葉講師、学務課長
	実習検討委員会	◎原田准教授、石黒准教授、清水（み）准教授、南谷准教授、清水（美）准教授、千葉講師、神道講師、巻野講師、学務課長
学生委員会	（学生委員会）	◎松浦教授、長谷川教授、石黒准教授、長田准教授、鈴木講師、千葉講師、栩川講師、長尾講師、深谷講師、遠藤助教、学務課長
	国家試験対策委員会	◎東野教授、大西特任教授、福間教授、石黒准教授、長田准教授、清水（美）准教授、臼井助教、学務課長
研究推進・紀要委員会		◎野口教授、南谷准教授、初田講師、栩川講師、藤井講師、加藤助教、学務課長、経理課
入試・広報委員会		◎中島准教授、森田教授、南谷准教授、岡田准教授、鈴木講師、清水（美）准教授、神道講師、松田講師、橋本講師、企画・地域交流課長、アドミッションオフィサー、事務局長（オブザーバー）
国際交流委員会		◎森特任教授、小林（洋）特任教授、長田准教授、鈴木講師、藤井講師、近藤（絵）助教、総務課長、村瀬司書

4) 教授会

活動目的	<p>教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。</p> <p>1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 卒業認定及び学位の授与に関すること</p> <p>前項に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものは、次のとおりとする。</p> <p>1) 教育課程の編成に関すること 2) 学生の履修に関すること 3) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更に関すること 4) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること 5) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること 6) 図書館の運営に関すること 7) 本学の国際交流に関すること 8) 本学が定める諸規程の規定により教授会での審議等を定めているもの 9) 学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること 10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること 11) その他学長が必要と認める事項</p>
構成員	<p>議長：村瀬智子学部長 構成員：山田聡子、下間正隆、山田誠、森久子、森田一三、福間長知、松浦正子、野口眞弓、東野督子、小林尚司、大西文子、長谷川喜代美、小林洋子 オブザーバー：鎌倉やよい その他構成員：中島佳緒里 原田真澄 事務局：総務課 谷川歩</p>
委員会開催回数	22回
活動概要	<p>第1回 愛知学長懇話会単位互事業における出願者の選考について COVID-19 ワクチン接種により授業に出席できない学生への対応について</p> <p>第2回 実習生のワクチン先行接種について 2021年度 臨地看護学実習要項の作成について 人事について</p> <p>第3回 新型コロナウイルスに係る欠席の対応について 人事について オープンキャンパスの実施について</p> <p>第4回 定期試験を欠席した学生の対応について 16回生（2021年後期～2022年前期）臨地看護学実習計画表について 昼食時の食堂等ラウンドについて 追試にかかる入試日程と共通テスト前期利用選抜の合格発表について 授業形態の変更について 職域接種について</p> <p>第5回 新型コロナウイルスワクチン副反応による授業欠席の取扱いについて</p> <p>第6回 人事について B特待生の選考について</p> <p>第7回 人事について 2023年度入試日程について</p> <p>第8回 2021年後期開講スケジュール案について</p> <p>第9回 2021年度保健師教育課程選抜試験結果について 人事について</p> <p>第10回 規程等の改正について</p> <p>第11回 2021年度前期成績について 海外渡航届について 中部ブロック赤十字病院セミナー担当領域について 人事について</p> <p>第12回 学生便覧の見直しについて（規程関連） 学生のアルバイトについて 海外渡航届の運用について 人事について</p> <p>第13回 2021年度日本赤十字豊田看護大学 高等学校長推薦選抜・赤十字特別推薦選抜・社会人特別選抜入学試験について</p> <p>第14回 人事について</p> <p>第15回 2022年4月1日付昇任に関する選考について</p> <p>第16回 人事について</p>

活動概要	第17回	<p>人事について</p> <p>2021年度前期看護学部特別聴講学生の成績認定について</p> <p>2021年度後期定期試験について</p> <p>2022年度（3年次）～2023年度（4年次）17回生臨地看護学実習計画表（案）について</p> <p>卒業記念品について</p> <p>謝恩会の開催について</p> <p>2021年度大学入学者選抜における追試試験の追加について</p>
	第18回	<p>2021年度大学独自選抜入学試験結果について</p> <p>2021年度祝日開講について</p> <p>人事について</p>
	第19回	2021年度 大学入学共通テスト利用選抜（前期 A・B）結果について
	第20回	<p>2021年度 共通テスト利用選抜（中期）の結果判定について</p> <p>4年生後期成績認定および卒業判定について</p> <p>学生表彰について</p> <p>「予防接種に関連する書類管理マニュアル」改訂案について</p> <p>T-SPOT（結核菌特異的インターフェロン-γ産生能）検査を学部生が受検することについて</p> <p>2022年度委員会構成メンバーについて</p>
	第21回	<p>2021年度 大学入学共通テスト利用選抜（後期）結果について</p> <p>学籍異動について</p>
	第22回	<p>2021年度後期成績について（1、2、3年生）</p> <p>学籍異動について</p> <p>2021年度保健師選抜日程について</p> <p>予防接種について</p> <p>2021年度チューターについて</p> <p>学生表彰について（1～3年生成績優秀者表彰）</p> <p>2022年度感染防止対策方針について</p>

5) 学部委員会の活動報告

(1) 教務委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育課程に関する事項 2) 試験及び単位認定に関する事項 3) 復学及び除籍に関する事項 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 5) 実習に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教育運営に関して必要な事項
構成員	委員長：小林尚司 委員：長谷川喜代美、東野督子、松浦正子、岡田摩理、原田真澄、竹内貴子、千葉朝子、平野二郎 事務局：学務課 安井康介、賀茂綾子
委員会開催回数	20回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育課程に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染症拡大に伴う遠隔授業の実施への対応 通学者数を減らすために遠隔授業を取り入れるとともに、前期は密集を避けて対面授業も2教室に分けて行った。また、自宅待機指示を受けた学生に対し、対面授業を配信した。 (2) 卒業研究・初年次教育の実施支援 看護プロフェッショナルセミナーは、WGを編成し実施を支援した。卒業研究は、2021年は開始時期を早めたが、2022年度は例年通りのスケジュールに戻した。 (3) 保健師課程専攻の選抜 説明会（2年生対象）を6月1日・選抜試験を9月21日に実施し、22名を選抜した。 (4) 入学前教育 入学予定者に、英語・理科学科目の問題および入学後に行うビブリオバトルに用いる書籍の選定を、学習課題として送付した。理科問題の適切性について、豊田高校の理科教員の確認を得た。 (5) 授業評価について 前年度後期より評価方法をオンラインに変更し、データ管理の方法について検討を開始した。 2) 試験及び単位認定に関する事項 試験の日程および監督について調整する共に、科目担当教員から提出された評価に基づき、成績および単位認定を審議し承認した。 3) 復学及び除籍に関する事項 退学（1名）・休学（7名）・復学（4名）について審議し承認した。 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 2022年度推薦入試選抜合格者を対象に、授業見学と在学生および教員との交流会をオンラインで開催した。参加者は合計で13名であった。 5) 実習に関する事項 実習計画の立案に向け、学生の単位修得等の情報を実習検討委員会へ伝達した。 6) 非常勤講師等に関する事項 非常勤講師の依頼申請（2件）と科目内時間講師・学外協力講師（20件）の審査を行った。 7) その他教育運営に関して必要な事項 ワクチンの副反応・自宅待機指示による欠席は公欠として取り扱うことを決定し、学習内容の充足への配慮を教員に依頼した。 教育の改善を意図してオンデマンド授業を導入する際の運用について検討し、次年度シラバス作成時に教員に周知した。 配信教材の契約タイトルについて、希望調査を行い決定した。 愛知学長懇話会の単位互換制度の実施に向け、関連規程を検討した。
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 初年次教育・卒業研究を円滑に展開できるようにサポートを行う。特に卒業研究の教員アンケートの目的と内容を再検討する。 2) アセスメントポリシーに沿った成績・授業評価のデータ管理・集計方法を検討する。 3) 授業時間割を改善する（科目ごとの開講曜日・時間の固定）。 4) 感染症の状況に応じて授業方法などを調整し学習支援をはかる。

(2) 実習検討委員会

活動目的	<p>1) 看護学実習の運営に関する事項</p> <p>(1) 年間の実習計画と調整</p> <p>(2) 実習要項検討</p> <p>2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項</p> <p>3) その他看護学実習に関する事項</p>
構成員	<p>委員長：原田真澄</p> <p>委員：石黒千映子、清水みどり、南谷志野、清水美代子、千葉朝子、神道那実、巻野雄介、平野二郎</p> <p>事務局：学務課 賀茂綾子</p>
委員会開催回数	11回
活動概要	<p>1) 看護学実習の運営に関する事項</p> <p>(1) 16回生の臨地看護学実習計画表（2021年度後期～2022年度前期）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新型コロナウイルス感染予防対策本部の方針に沿い、作成した。</p> <p>(2) 臨地実習開始前に、学生に対して感染予防講義および演習を実施した。</p> <p>(3) 臨地実習を行う学生に対して、「予防接種確認表」は常に携帯するよう指導した。</p> <p>(4) 17回生の臨地看護学実習計画表（2022年度後期～2023年度前期）は、学生数を考慮しグループ数を減らした案を作成した。</p> <p>(5) 2022年度の領域別統合実習に向けて、学生の希望調査を取りまとめ、配置案を作成した。</p> <p>(6) 実習要項について内容を見直し、作成した。</p> <p>2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項</p> <p>2021年度の臨地実習は、前年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことから、感染対策について各実習施設と綿密な調整・確認を行った。</p> <p>3) その他看護学実習に関する事項</p> <p>(1) 看護師教育における卒業時の技術到達度自己評価、および保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度自己評価について報告した。</p> <p>(2) 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（改正案）」（2019年10月）に沿った内容の変更を検討した。</p> <p>(3) 領域別統合実習では、各領域の総括についてフォーマットを用いて取りまとめた。</p> <p>(4) 実習衣等の購入について、生協と連携し学生への周知内容を確認した。</p> <p>(5) 学生への感染対策物品の配布について計画し、準備した。</p> <p>(6) 学内実習がスムーズに実施出来るように、教室調整を行った。</p> <p>(7) 学生の新型コロナウイルスワクチン接種に関する情報を共有した。</p> <p>(8) 事故・ひやりはっと報告書は31件（事故13件、ひやりはっと18件）であった。</p>
次年度の課題	<p>1) 2022年度の改正教育課程に基づく実習計画の準備及び実施</p> <p>2) 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（改正案）」（2019年10月）に沿った運用の検討</p> <p>3) 年間事業の実施</p> <p>4) 学生に配布する感染対策物品の検討</p> <p>5) その他</p>

(3) 学生委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の福利厚生に関する事項 2) 学生の健康管理に関する事項 3) 学生の課外活動に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 奨学金に関する事項 7) 国家試験対策に関する事項 8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項
構成員	<p>委員長：松浦正子 委員：長谷川喜代美、長田知恵子、石黒千映子、棚川綾子、千葉朝子、鈴木寿摩、長尾佳世子、深谷由美、遠藤幸子、平野二郎 事務局：学務課 鳥居貴代、小泉恵美</p>
委員会開催回数	11回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の福利厚生に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生相談について 毎週月、木曜日 午前 11 時 30 分～午後 1 時、午後 2 時～午後 6 時で実施した。 2020 年度は対面だけでなく、オンラインでの相談も行った。 春季休暇（3 月）1 か月は閉室とした。 2) 学生の健康管理に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 定期健康診断について 2021 年 4 月 21 日（水）、4 月 22 日（木）に実施した。 (2) 小児感染症・B 型肝炎・インフルエンザ予防接種について 個人接種とした。 (3) 予防接種説明会の実施について 1 年生を対象とした予防接種に関する講義を 2021 年 6 月 3 日（木）、感染抗体結果の見方や予防接種説明会を 2021 年 6 月 10 日（木）に実施した。 (4) 保健室の運用について 保健室の運用を見直し、急病人対応の手順を確認した。 3) 学生の課外活動に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自治会支援について 総会の開催や選挙の実施等、自治会の規約に則って活動できるよう支援した。 (2) いとすぎ祭支援について 2021 年度は中止となった。 (3) 六大学交流会について 2021 年度はオンライン開催となった。 (4) アルバイト届出書について 新型コロナウイルス感染症対策として、2021 年 9 月よりアルバイト届出書の運用を開始した。 (5) サークル顧問の役割の周知について 学生団体（サークル等）顧問の役割申し合わせ事項を作成し、委員会で共有した。 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生表彰について 2021 年度の表彰者は、個人 11 名とした。 4 年生は学位記授与式、1～3 年生は在学生オリエンテーションで表彰を行った。 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の進路について 2021 年度卒業生（133 名）の進路状況は以下のとおりであった。 就職（看護師）126 名 就職（保健師）2 名 進学 2 名 未定 3 名 (2) 就職ガイダンスの実施について 以下のとおり進路ガイダンスを実施した。 3 年生対象：2021 年 6 月 18 日（金）「就活準備スタートアップセミナー」オンライン開催 2022 年 1 月 19 日（水）「履歴書・面接対策講座」対面開催 2 年生対象：2021 年 12 月 17 日（金）「実習マナー講座」対面開催 1 年生対象：2021 年 12 月 21 日（火）「メディアリテラシー・ストレスマネジメント講座」対面開催 6) 奨学金に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の進路について 2021 年度は学内者のみで入学式を行ったため、外部の方を招いての奨学金説明会・就職説明会は中止し、学内の奨学金説明会において、病院紹介パンフレット配布、DVD 視聴を行った。 7) 国家試験対策に関する事項 国家試験対策委員会参照

活動概要	8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項 (1) フードドライブについて 豊田市環境部ごみ減量推進課と連携して、1～3年生を対象としたフードドライブを2021年8月3日(火)に開催した。その後、自治会が主体となり、4年生を対象としたフードドライブを2021年9月10日(金)に開催した。
次年度の課題	1) 自治会活動のサポートについて 2) 就職活動および奨学金貸与のサポートについて

(4) 国家試験対策委員会

活動目的	1) 国家試験対策に関する事項 2) 学生への個別指導に関する事項 3) 国家試験受験手続に関する事項 4) その他国家試験に関して必要な事項
構成員	委員長：東野督子 委員：大西文子、福岡長知、石黒千映子、長田知恵子、清水美代子、平野二郎 事務局：学務課 安井康介
委員会開催回数	9回
活動概要	1) 国家試験対策に関する事項 (1) 4年生の国家試験模擬試験について、看護師は7回、保健師は3回実施した。 (2) 4年生の国家試験対策補講について、8セメスターから看護師および保健師科目について実施した。一部にオンデマンドを含む。 (3) 国家試験後の自己採点を、感染対策および事務処理の効率化を図るため全面的にWebを用いて実施した。 (4) 3年生への看護師及び保健師国家試験ガイダンスをリアルタイム配信形式とした。 (5) 3年生の早期国家試験対策として必修模試を3月に実施した。 (6) 2、3年生に対して第111回看護師国家試験問題を、3月に実施した。 (7) 卒業生講話はあらかじめ作成した講話風景の動画をオンデマンド配信にて実施した。 2) 学生の個別指導の調整に関する事項 (1) 新卒者の看護師国家試験、保健師国家試験の合格率100%を目指し、自己採点・業者からの結果から成績不良者を抽出し、補講への積極参加の管理及びチューターとの面談依頼等の支援を依頼した。 (2) 既卒者の看護師国家試験、保健師国家試験の不合格者へ連絡をして、合格を目指した。 3) 国家試験受験手続に関する事項 (1) 看護師国家試験、保健師国家試験の受験手続きのとりまとめ等を例年通り実施した。 4) その他国家試験に関して必要な事項 (1) 国家試験壮行会をオンデマンド配信にて実施した。 (2) 国家試験受験票について新型コロナウイルス感染予防対策として、希望者に対して受験票の郵送と来校可能者に対しては、密にならない時間別に配布した。 (3) 新型コロナウイルス感染対策の観点より、①模試の自宅受験、②各種イベントのオンライン実施、③自己採点のWeb実施等の対応へ変更した。
次年度の課題	1) 新卒者の看護師国家試験、保健師国家試験の100%合格 2) 早期からの国家試験対策への支援 3) 国家試験対策の学習環境支援 4) 模擬試験手続き等の業務の適正化

(5) 研究推進・紀要委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育研究活動の推進に関する事項 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 4) 紀要の発行に関する事項 5) その他、紀要に関して必要な事項
構成員	委員長：野口眞弓 委員：南谷志野、榎川綾子、初田真人、藤井愛海、加藤広美、平野二郎 事務局：学務課 村上久子 経理課 芝口太一
委員会開催回数	6回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育研究活動の推進に関する事項 2021年4月27日(火)9:00～10:00まで、若手教員を対象として「科学研究費を獲得するための準備」を60分で説明した。内容は、科学研究費を獲得するための準備を野口眞弓先生が説明し、採択された研究計画書のうち量的研究計画を南谷志野先生が、質的研究計画を初田真人先生が紹介し、その後質疑に応答した。研修会には、講師、助教、助手の20名が参加した。本研修は、FD・SD委員会との共催であった。 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 科学研究費の採択状況から、間接経費の予算を確認した。 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 間接経費の使途について、SPSSのオプションについてアンケートを実施し、大学院の情報処理室にRegression、Amosを整備し、大学院および学部の情報処理室のAdvanced Statisticsを更新した。 4) 紀要の発行に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 紀要の特集 2021年度の特集は「COVID19のワクチン接種」とし、新型コロナウイルス感染予防対策本部の本部長をはじめ構成員、および豊田市保健部に執筆を依頼し、本学におけるCOVID19のワクチン接種の具体的な活動を掲載した。 (2) 投稿論文 2021年度は研究報告1編、実践報告1編を掲載した。 (3) 編集委員会 編集委員会を4回開催した。
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育研究活動の推進と競争的資金（科学研究費）の間接経費の使途 研究活動を推進するよう教育活動をするとともに、研究活動を推進する環境を整備するために競争的資金（科学研究費）の間接経費の使途について、特に質的研究を支援する物品について検討する。 2) 紀要の発行 日本赤十字豊田看護大学紀要18巻を発行する。次年度の状況を考慮し、特集内容を決定する。

(6) 入試・広報委員会

活動目的	<p>1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 4) 面接及び健康診断等の方法に関する事項 5) 合否判定資料の作成に関する事項 6) その他入学試験に関して必要な事項 7) 広報誌等の発行に関する事項 8) ホームページに関する事項 9) その他広報に関して必要な事項</p>
構成員	<p>委員長：中島佳緒里 委員：森田一三、岡田摩理、南谷志野、清水美代子、鈴木寿摩、神道那実、松田優子、橋本亜弓、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 立川俊彦、奥映理菜 オブザーバー：山田誠</p>
委員会開催回数	<p>12回</p>
活動概要	<p>1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 (1) 進学説明会 11回の進学説明会に参加し、うち3回がオンラインでの参加となった。中止になった説明会は1回であった。 (2) オープンキャンパス 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、人数制限を設けたオープンキャンパスを2回(2回/日)開催した。高校生・既卒者180名、保護者102名が参加した。 オープンキャンパス mini を4回(2回/日)開催した。高校生・既卒者64名、保護者42名が参加した。 (3) 施設見学 8月に2回施設見学会を開催し、2回合計17名の参加があった。その他、随時施設見学を受け付け、合計23名の来校があった。 (4) WEB オープンキャンパス 各領域の紹介や入試等についての動画を作成し、ホームページ上で公開した。 (5) Zoom 個別相談会 推薦選抜試験の受験生を対象に、Zoomを使用したオンライン相談会を計3回開催し、高校生28名が参加した。 (6) 進学情報交換会 オンライン上で高校の教員を対象とした進学情報交換会を開催し、10校の参加があった(県外より5校参加)。 (7) 高校訪問 84校の高校に高校訪問を行った。 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 高等学校長推薦選抜、赤十字特別推薦選抜、大学独自選抜、社会人特別選抜、大学入学共通テスト(後期)において、学力の3要素のうち、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学修する態度」を評価するため、生徒会や部活等での活躍を記載する「多面的・総合的な評価のための申告書」の提出を求め、合否判定に使用した。 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 順位付けの原則について審議し、科目・配点の変更に基づき、変更した。 4) 面接の方法に関する事項 昨年と同様の方法で面接を行った。 5) 合否判定資料の作成に関する事項 過去の歩留まりや倍率を参考とし、合否判定資料を作成した。 6) その他入学試験に関して必要な事項 新型コロナウイルス感染症にかかる受験機会の確保のため、以下の追試日程を設けた。 推薦選抜・社会人特別選抜：12月11日(出願者0名) 大学独自選抜：大学入学共通テスト利用選抜中期(出願者2名) 大学入学共通テストを本・追試験も受験できなかった出願者：3月5日(出願者0名) 7) 広報誌等の発行に関する事項 2023年度の大学案内を学校生活がイメージできるよう編集し、いとすぎの丘を年2回発行した。 8) ホームページに関する事項 下間教授が作成した新型コロナウイルス感染症予防関連スライドを公開した。 今年度のホームページの閲覧者数はおよそ11万9000人で、入試ガイドのページが最も閲覧数が多く、およそ3万人であった。 9) その他広報に関して必要な事項 SNS(Twitter、LINE、Instagram)による情報発信を実施した。推薦選抜試験の受験生を対象にTwitter上で質問箱を設置した。</p>

次年度の課題	<p>1) 志願者の確保 優秀な受験生を確保するため、豊田市を中心とした近隣の高校への公開授業の強化、豊田西高校の SSH 事業への参加を推進する。さらに、中部各県支部と受験に関する情報共有を行い、授業動画配信や Zoom での相談など、本学の魅力を配信できるよう広報活動の強化を検討する。</p> <p>2) 入試改革に対する対応 文部科学省・大学入試センターからの通知をもとに 2024 年度入試について検討する。</p>
--------	---

(7) 国際交流委員会

活動目的	<p>日本赤十字豊田看護大学 国際交流委員会規程第 2 条に定める以下の事項を審議する。</p> <p>1) 教員の国際学術交流に関する事項 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 4) その他学長が必要と認める事項</p>
構成員	<p>委員長：森久子 委員：小林洋子、長田知恵子、鈴木寿摩、藤井愛海、近藤絵美、恒川美智子、村瀬悠香代 事務局：総務課 中根春波</p>
委員会開催回数	4 回
活動概要	<p>1) 教員の国際学術交流に関する事項 特に活動せず</p> <p>2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 本学からタイ赤十字看護大学 (STIN: Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing) に学生を派遣する計画をしていたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施できなかった。</p> <p>3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 STIN とは対面での交流の代わりとして、2020 年度よりオンラインによる交流を実施している。 今年度は 2021 年 7 月 27 日 (火) 及び 2022 年 1 月 14 日 (金) の 2 回実施し、本学からは計 23 名、STIN からは約 80 名と前年度に比べて多くの学生が参加した。事前に準備したパワーポイントを使って互いの国の文化や挨拶等について英語で発表し合い、和気藹々とした雰囲気での交流した。参加した学生へのアンケートでも回答者全員が「満足」「ほぼ満足」と答えており、満足度が高かった。 英国語学研修を今年度も計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施できなかった。</p> <p>4) その他学長が必要と認める事項 特に活動せず</p>
次年度の課題	<p>1) 教員の国際学術交流に関する事項 STIN との MOU に基づき国際学術交流を進める。</p> <p>2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 STIN からの学生受入を引き続き継続し、より良い活動になるように検討する。</p> <p>3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 新型コロナウイルスの感染拡大状況を注視しながら、英国語学研修の計画を継続する。 STIN とのオンラインによる交流の機会を増やすとともに、より多くの学生が参加できるよう開催時期や募集方法等を検討する。 学生及び教職員が国際交流活動に触れる機会を提供できるよう、他の国際関連施設との交流の可能性を探る。</p>

7. 研究科運営

1) 今年度の取り組み

(1) 履修証明プログラムの新設

修士課程科目を活用した履修証明プログラムとして、各 60 時間の「看護研究プログラム」「看護教育プログラム」を開講している。いずれのプログラムも、文部科学省に BP (Brush up program for professional) として認定されている。

2021 年度は、新プログラムとして「災害看護実践プログラム」の開設を準備し、2022 年 4 月より開講するに至った。本学の強みでもある災害看護について、医療機関の看護職者のみならず、在宅看護等の地域で活躍する看護職者に学ぶ機会を提供する。さらに、プログラム修了生の輩出により、地域の防災・減災および発災時の看護活動に貢献することを目指す。

(2) 修士課程における入学試験制度の新設

修士課程開設以来、入学者の定員割れが継続している。定員充足策の一環として、本学学部生を対象とした「特別枠」入試制度を新設した。これは、学部卒業後にストレートで修士課程に進学する制度である。「特別枠」入試制度を利用する受験者は、学部の成績評価結果を入学試験に代えることや、成績優秀者には学費の減免等の特典を付与することとした。看護学を 6 年間継続して学修する本制度は、科学的根拠に基づく看護実践者の育成につながり、看護学の発展にも寄与することを目指す。

(3) 共同看護学専攻（博士後期課程）責任校としての活動

2021 年度も、日本赤十字学園が所管する 5 大学（日本赤十字北海道看護大学・日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字豊田看護大学・日本赤十字広島看護大学・日本赤十字九州国際看護大学）で開設している看護学研究科共同看護学専攻（博士後期課程）の責任校を担った。

責任校担当の最終年度である 2021 年度は、専攻長である本学の学長が中心となり、共同看護学専攻学位審査規程をはじめとする運営に関するすべての申し合わせ事項の見直し等の整備をすすめ、新規規程を整えた。

2) 課題

(1) 修士課程の定員充足について

上述の新入試制度の活用を促進する方法の検討を行う。また、受験者増にむけた新たな方略の検討も必要である。併せて、各教員のネットワークによる優秀な学生の確保に尽力する。

(2) 博士後期課程の修了者輩出について

博士後期課程の開設後、本学の修了者輩出に未だ至っていない。2021 年度もコロナ禍での研究進捗の難しさが背景にあった。学生支援を継続し、次年度には初めての修了者輩出を目指す。

3) 研究科委員会組織および委員一覧

委員会名	メンバー
大学院研究科委員会	◎研究科長、事務局長、大西特任教授、小林（尚）教授、小林（洋）特任教授、下間教授、野口教授、長谷川教授、福岡教授、東野教授、松浦教授、村瀬教授、森田教授、岡田准教授、長田准教授、清水（み）准教授、中島准教授、南谷准教授、原田准教授、清水（美）准教授、長尾講師、藤井講師、巻野講師、学長（オブザーバー）
大学院入試・広報委員会	◎森田教授、小林（尚）教授、松浦教授、岡田准教授、企画・地域交流課長、アドミッションオフィサー
大学院教務・学生委員会	◎長谷川教授、小林（尚）教授、東野教授、南谷准教授、学務課長

4) 研究科委員会

活動目的	1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 修了認定及び学位の授与に関すること 3) 教育課程の編成に関すること 4) 学生の履修に関すること 5) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更に関すること 6) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること 7) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること 8) 本学が定める諸規程の規定により研究科委員会での審議等を定めているもの 9) 大学院学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること 10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること 11) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：山田聡子 委員：村瀬智子、山田誠、下間正隆、福間長知、森田一三、松浦正子、東野督子、小林尚司、野口真弓、大西文子、長谷川喜代美、小林洋子、中島佳緒里、南谷志野、清水みどり、長田知恵子、岡田摩理、原田真澄、清水美代子、巻野雄介、長尾佳世子、藤井愛海 オブザーバー：鎌倉やよい 事務局：総務課 中根春波
委員会開催回数	2021年度は11回開催した。
活動概要	研究科委員会にて、以下の事項を審議した。 第1回 修士課程 既修得単位の認定について 修士課程 指導担当教員について 第2回 審議事項なし 第3回 履修証明プログラム「災害看護実践プログラム」の新設について 第4回 学籍の異動について 2021年度後期 科目等履修生の受け入れについて 修士課程研究計画審査員について 第5回 新規履修証明プログラム「災害看護実践プログラム」科目の非常勤講師について（教授のみ） 在宅看護学領域 特任教授（採用予定者）に係る資格審査について（教授のみ） 研究科委員会規程の改正について 2021年度前期成績認定について 2022年度入試の説明会日程について 学籍の異動について：修士課程関係 学籍の異動について：博士課程関係 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う特別措置に係る在学年限の延長について 第6回 2022年度入学予定者長期履修学生申請について 海外渡航届について 第7回 修士課程 共通科目「看護理論」の非常勤講師について（教授のみ） 修士課程 共通科目「看護研究Ⅲ（質的研究法）」の非常勤講師について（教授のみ） 第8回 修士課程 共通科目「病態生理学」の非常勤講師について（教授のみ） 修士課程 共通科目「病態生理学」の担当について（教授のみ） 修士課程 共通科目「コンサルテーション論」の担当について（教授のみ） 修士課程 精神看護学領域科目の担当について（教授のみ） 災害看護実践プログラム科目「災害看護実践論」の担当について（教授のみ） 大学院教務・学生委員会規程の見直しについて 修士論文及び課題研究論文審査規程の見直しについて 修士課程特別枠について 第9回 修士課程特別枠について 修士課程研究計画審査の主査・副査教員について 第10回 2022年度4月昇任教員に係る資格審査について（教授のみ） 2022年度科目等履修生等の受入について 2022年度時間割および講義スケジュールについて 2022年度研究科関連委員会案について 第11回 2021年度後期 在学生の成績認定について 学籍異動について

5) 大学院委員会の活動報告

(1) 大学院入試・広報委員会

活動目的	<p>1) 学生の確保、学生募集に関する事項 2) 学生募集要項に関する事項 3) 入学者の選抜方法に関する事項 4) 入学試験の実施に関する事項 5) その他入学試験に関する事項</p>
構成員	<p>委員長：森田一三 委員：小林尚司、松浦正子、岡田摩理、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 立川俊彦、奥映理菜</p>
委員会開催回数	11回
活動概要	<p>1) 学生の確保、学生募集に関する事項 (1) 大学院説明会 6月12日(土)及び11月6日(土)に、オンラインと対面を併用して開催した。参加者は、6月は修士課程6名、11月は修士課程6名であった。 (2) 大学院説明会の案内の作成と配布 大学院説明会の案内を、国公立大学(43大学)、私立大学(179大学)、中部圏の専門学校(87校)、赤十字病院(77病院)、県内病院(230病院)、実習施設(69施設)に送付した。 (3) ホームページの修正 教員紹介のページに、領域紹介のアンカーリンクを設定した。 (4) 大学案内のリニューアル ページ全体の色合いとページレイアウトを変更した。 (5) 特別枠(学内進学)制度 制度について検討し、2023年度入学試験から開始する。</p> <p>2) 学生募集要項に関する事項 2019年度に修正した修士課程の募集要項を継続的に運用した。次年度以降は、冊子体での配布を停止し、ホームページから必要書類をダウンロードする方法に変更する。</p> <p>3) 入学者の選抜方法に関する事項 2018年度に試験問題作成要領・面接実施要領を作成し、継続して活用した。</p> <p>4) 入学試験の実施に関する事項 2021年9月4日(土)及び2022年2月19日(土)の2回実施した。受験者は10名(修士課程9名、博士課程1名)であった。</p> <p>5) その他入学試験に関する事項 特になし</p>
次年度の課題	<p>1) 大学院説明会の開催について 2) 学生募集活動の展開について</p>

(2)大学院教務・学生委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育課程及び履修に関する事項 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：小林尚司、東野督子、南谷志野、平野二郎 事務局：学務課 木村美希
委員会開催回数	22回（文書審議 11件含む）
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育課程及び履修に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 新規履修証明プログラムの開設にかかる検討 新たな履修証明プログラムとして災害看護学領域から提出された「災害看護実践プログラム」の内容について検討を行った。 (2) 研究計画発表会 研究計画発表会を以下のとおり実施した。 第1回 開催日：2021年7月7日（水）発表者：4名 第2回 開催日：2022年1月21日（金）発表者：3名 (3) 修士論文・課題研究論文発表会 修士論文・課題研究論文発表会を以下のとおり実施した。 第1回 開催日：2021年7月7日（水）発表者：1名 第2回 開催日：2022年1月21日（金）発表者：7名 (4) 研究計画審査 研究計画審査件数は、7件であった。 (5) 修士論文・課題研究論文審査 修士論文及び課題研究論文審査件数は、8件であった。 (6) 研究計画書作成要領及び論文執筆要領の見直し 標記項目について見直しを行い、次年度の学生便覧の記載内容を整理した。 (7) 履修の確認 学生の履修計画及び履修登録申請を確認し、各科目の開講にかかる調整を行った。 前期共通選択科目の履修者の事前確認方法の改善を検討し、次年度から実施することとした。 (8) 授業評価の実施 授業評価アンケートを実施・集計し、学生評価及び教員の自己評価の内容を確認するとともに、対象科目の結果を公表した。 (9) ディプロマポリシーの評価方法の検討 ディプロマポリシー毎のGPA及び修了時の学生アンケートを用いて評価をする方法を検討した。 (10) 新型コロナウイルス感染症まん延下における学生の支援 新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、遠隔授業等を調整し学修支援を行った。 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 既修得単位の確認 既修得単位認定申請に基づき、既修得単位の認定について確認した。 (2) 単位修得状況の確認 各科目担当教員から提出された試験結果により、前期、後期科目の単位修得状況を確認した。 本年度から、100点満点で点数評価し、S～Dの5段階で表すこととした研究科目（「特別研究」及び「課題研究」）の成績についても同様に修得単位として確認した。

活動概要	<p>3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項</p> <p>(1) 学生の入学、退学、休学、復学 学生の入学、退学、休学、復学者数は表 1 のとおりであった。</p> <p>表 1 2021 年度 学生の入学、退学、休学、復学者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>修士課程</th> <th>博士課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>退学</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>休学</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>復学</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>長期履修申請</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>在学年限延長*</td> <td>—</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">*新型コロナウイルス感染症拡大に伴う特別措置</p> <p>(2) 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れ 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れは、表 2 のとおりであった。</p> <p>表 2 2021 年度 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生受入数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究生</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>履修証明プログラム履修生</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>科目等履修生</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>聴講生</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>履修証明プログラム履修生・科目等履修生の受入れについて、入試説明会参加から出願の接続性が向上するよう、認定審査及び出願の期間を変更することを検討し、次年度募集要項に反映させた。</p> <p>4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 学内での健康診断を案内した。</p> <p>5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 修了生の学位論文の投稿・掲載状況および認定看護管理者・専門看護師の取得者数を確認した。 修了生の進路にかかる現状把握のため、修了時に進路に関するアンケートを実施することについて検討し、2021 年度の修了生より実施することとした。</p> <p>6) 非常勤講師等に関する事項 以下の科目の次年度開講にかかる新規非常勤講師を大学院科目・研究担当審査委員会に申請した。 『災害看護実践論（災害看護実践プログラム科目）』、『防災・減災看護演習（災害看護実践プログラム科目）』、『看護理論』、『看護研究Ⅲ（質的研究法）』、『病態生理学』 科目時間内講師・学外協力講師申請者を審査した。</p> <p>7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項</p> <p>(1) 大学院特別講演会の開催 テ ー マ：概念分析のいろいろな方法 講 師：日本赤十字看護大学 川原 由佳里教授 日 時：2022 年 2 月 28 日（月）13：00～14：30 開催方法：オンライン（Zoom 使用） 参加人数：59 名（内訳：本学大学院生 22 名、教職員 31 名、学外参加者 6 名）</p>		修士課程	博士課程	入学	3	3	退学	2	0	休学	1	6	復学	3	4	長期履修申請	9	1	在学年限延長*	—	9		前期	後期	研究生	1		履修証明プログラム履修生	1		科目等履修生	2	4	聴講生	2	0
		修士課程	博士課程																																		
	入学	3	3																																		
	退学	2	0																																		
	休学	1	6																																		
	復学	3	4																																		
	長期履修申請	9	1																																		
	在学年限延長*	—	9																																		
		前期	後期																																		
	研究生	1																																			
履修証明プログラム履修生	1																																				
科目等履修生	2	4																																			
聴講生	2	0																																			
次年度の課題	<p>1) 新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じ、遠隔授業の調整等の学修支援を継続する。</p> <p>2) アセスメントポリシーに則して、教育課程レベル、科目レベルの評価に関するより適切な評価手順を検討する。</p>																																				

8. 事務局運営

1) 今年度の取り組み

(1) 受験者数の増加に向けて

事務局職員による愛知県内 83 校の高校訪問を実施。進路指導担当教諭に対し、本学の特徴や卒業生の現況を説明し、学生の志望状況などの情報収集を行った。今後は、訪問時期や説明資料など高校のニーズに合わせた対応を検討していく。

(2) スクールバス路線集約化に伴う対応

2020 年度に決定した、スクールバス路線（赤池・新豊田・三好ヶ丘）の 2 路線（新豊田・三好ヶ丘）集約化に向けて学生の利便性を考慮し、以下の対応を行った。今後も自治会の協力を得て、学生の声を反映した運行計画を立てていく。

- ・学生、保護者への説明
- ・スクールバスダイヤの見直し（新豊田・三好ヶ丘便の増便）
- ・三好ヶ丘駅前ロータリーへのバス停設置に向けたみよし市との調整
- ・赤池路線駐車場の解約

(3) 新型コロナウイルス感染防止対策

学生・教職員および地域の安全を守るため、以下の取り組みを実施した。

- ・学生のワクチン接種に向けた調整（愛知県大規模接種会場での看護学生対象先行接種）
- ・職域接種（接種実施に向けて関係各所と調整を行い、本申請をしたが、国からのワクチン配布の目途が立たず、予定どおりの日程で行うことができないことが判明したため申請取下げ）
- ・豊田市新型コロナウイルスワクチン集団接種にかかる会場、医療従事者の支援にかかる豊田市との調整
- ・学生ならびに教職員、大学関係職員の PCR モニタリング検査
- ・テレワークシミュレーション

2) 課題

(1) 外部資金の獲得強化

今年度の科学研究費の応募が 7 件と少なかった。2022 年度は積極的な応募を促すよう取り組む。私立大学等経常費補助金のさらなる獲得のため、私立大学等総合改革支援事業のタイプ 1（『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開）ならびにタイプ 3（地域社会への貢献＜プラットフォーム型＞）の獲得を目指す。

(2) 広報戦略の策定

受験者数・入学者数は増加したものの要因の特定には至らなかった。入試広報について、分析・評価のサイクルを構築し、ターゲットの絞り込み・効果的なアプローチの模索など広報戦略を策定し、優秀な学生の確保に繋げる。

(3) 愛知県内赤十字施設との関係

新型コロナウイルス感染症の影響で県内のイベントが中止となったことにより共同でイベントを開催する機会がなかった。次年度は県内赤十字施設との共同事業を進め、施設間連携による相乗効果を狙う。

(4) 業務改善ワーキング

業務改善ワーキンググループを発足し、業務の削減および簡素化による業務の効率化を目指した。「データの整理」による業務の効率化を図るためには、膨大なデータのうち不要なデータを処理していく必要があった。次年度から「データの断捨離」を行い、「データの整理」へと繋げる。

Ⅲ 看護学部教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本学は、大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」(学校教育法第83条)と、建学の精神である人道を基盤とした赤十字の思想を備えた人材を涵養する。

それは、赤十字の理念に基づく全人的、科学的な看護を実践するための主体的な行動力、感性を兼ね備えた人間性と社会性豊かな個人を育み、さらには国内外の保健・医療・福祉・救護の場で個人を尊重した看護活動ができる基礎力を有し、看護の教育・研究の発展に資することができる看護専門職の育成をすることである。

【教育目標】

これらの教育理念と目的を達成するために、以下に(1)～(6)の目標を置く。

- (1) 赤十字の人道理念を実践できる看護専門職を育成する。
- (2) 人格的成熟・自立をはかり、他者との関係性を発展させることができる能力を培う。
- (3) 事実を的確に判断し、問題を抽出し、創造的に解決できる能力を育む。
- (4) 看護の基礎を踏まえ、科学的・倫理的判断に基づく看護を提供できる能力を養う。
- (5) 社会的責任を自覚し、生涯にわたって学習し、他の専門職と協働活動し得る能力を養う。
- (6) 常に世界に関心を持ち、看護実践を通じて国際貢献できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

本学の教育理念、教育目的、教育目標を実現することを意図したカリキュラムを編成し、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士(看護学)の学位を授与する。卒業までに以下に挙げるようなことを身に着けることが求められる。

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。
- (2) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。
- (3) 一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。
- (4) 事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
- (5) 健康問題に対する人間の反応を把握し、個別性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。
- (6) 地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。
- (7) 自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。
- (8) 国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。
- (9) 災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。

3) 教育課程表

教育課程表 (2017 年度～ 2019 年度入学者適用)

区分	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数										
		必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計		
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
教養科目	心理学	2		30	必修 14 単位 選択 7 単位以上 選択	2									2	
	教育学		2	30			2									2
	人間発達論		2	30			2									2
	倫理学		2	30			2									2
	法学・日本国憲法		2	30			2									2
	音楽論		2	30				2								2
	英語 I	2		45			2									2
	英語 II	2		45				2								2
	英語 III	1		30					1							1
	英語 IV	1		30						1						1
	上級英語		1	30							1					1
	スペイン語		1	30				1								1
	ポルトガル語		1	30				1								1
	中国語		1	30					1							1
	フランス語		1	30						1						1
	社会学	2		30						2						2
	環境	経済学		2		30			2							2
	生活科学		2	30			2									2
	文化人類学		2	30			2									2
	日本文化論		2	30				2								2
	人間工学		2	30				2								2
	健康	スポーツ健康科学	1			30			1							1
	スポーツレクリエーション実技		1			30		1								1
	看護ふれあいセミナー		1			30		1								1
	スタディスキルズセミナー		1			30		1								1
	ボランティア活動論			1		30			1							1
小計		14	26	810	21	17	16	4	2	1	0	0	0	40		
専門基礎科目	人間	形態機能学 I	2		60	必修 26 単位	2								2	
	形態機能学 II	2		60			2								2	
	免疫学	1		15			1								1	
	栄養代謝学	1		30			1								1	
	生命倫理	1		15					1						1	
	環境	公衆衛生学	1		15				1						1	
	社会福祉学	1		30				1							1	
	保健医療福祉行政論 I ※	1		15						1					1	
	保健医療福祉行政論 II ※		2	30						2					2	
	情報基礎		1	15			1								1	
	情報処理		1	15							1				1	
	保健情報演習 ※	1		30				1							1	
	保健統計 ※	1		30					1						1	
	疫学 I ※	1		15							1				1	
	疫学 II ※		1	30							1				1	
	健康	薬理学	1		30					1						1
	微生物学	1		30			1								1	
	疾病・病態学	1		30				1							1	
	成人・老年疾病・治療論 I	2		60					2						2	
	成人・老年疾病・治療論 II	1		30						1					1	
	母性疾病・治療論	1		30						1					1	
	小児疾病・治療論	1		30						1					1	
	精神疾病・治療論	1		30						1					1	
	リハビリテーション論	1		30					1						1	
	臨床心理学		1	15				1							1	
	カウンセリング論		1	15					1						1	
赤十字	赤十字原論	1		15		1								1		
赤十字と活動	1		15			1							1			
赤十字救急法	1		30			1							1			
国際救済と英語			1	30				1						1		
小計		26	8	825	26	7	9	9	6	3	0	0	0	34		

III 看護学部教育活動

区分	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数											
		必修	選択			1年次	2年次		3年次		4年次		計				
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				
専攻科目 看護	基礎看護学	看護学概論	2		30	必修 77単位	2								2		
		コミュニケーション論	1		15			1								1	
		看護過程Ⅰ	1		15					1						1	
		看護過程Ⅱ	1		30						1					1	
		ヘルスアセスメント	1		30						1					1	
		基礎看護技術Ⅰ	1		30			1								1	
		基礎看護技術Ⅱ	1		30			1								1	
		基礎看護技術Ⅲ	1		30				1							1	
		基礎看護技術Ⅳ	1		30					1						1	
		看護倫理学	1		15							1					1
		基礎看護学実習Ⅰ	1		45				1								1
		基礎看護学実習Ⅱ	2		90						2						2
		成人看護学	成人看護学概論・保健	2			30				2						2
	成人周手術期看護論		1		30						1					1	
	成人慢性期看護論		1		30						1					1	
	成人機能回復援助論			1	15							1				1	
	緩和・ターミナルケア援助論		1		15							1				1	
	感染予防看護論		1		15							1				1	
	感染予防看護演習			1	15							1				1	
	成人看護方法論Ⅰ		1		30					1						1	
	成人看護方法論Ⅱ		1		15						1					1	
	成人看護学実習Ⅰ		2		90								2			2	
	成人看護学実習Ⅱ		2		90								2			2	
	成人看護学実習Ⅲ	2		90								2			2		
	老年看護学	老年看護学概論・保健	2		30						2					2	
		老年看護学Ⅰ	1		30						1					1	
		老年看護学Ⅱ	1		30						1					1	
		介護福祉施設実習	1		45								1			1	
		医療・老人保健施設実習	3		135								3			3	
	母性看護学	母性看護学概論・保健	2		30					2						2	
		母性看護学Ⅰ	1		30						1					1	
		母性看護学Ⅱ	1		30						1					1	
		母性看護学実習	2		90								2			2	
	小児看護学	小児看護学概論・保健	2		30					2						2	
		小児看護学Ⅰ	1		30						1					1	
		小児看護学Ⅱ	1		30						1					1	
		小児看護学実習	2		90								2			2	
	精神看護学	精神看護学概論・保健	2		30						2					2	
		精神看護学Ⅰ	1		30						1					1	
		精神看護学Ⅱ	1		30						1					1	
		精神看護学実習	2		90								2			2	
		公衆衛生看護学概論 ※	2		30					2						2	
	公衆衛生看護学	保健指導方法論 ※		2	30						2					2	
		健康教育方法論Ⅰ ※	1		15					1						1	
		健康教育方法論Ⅱ ※		1	30					1						1	
		家族生活支援論 ※		2	30							2				2	
		産業看護論 ※		1	15					1						1	
		学校看護論 ※		1	15					1						1	
		地区活動論 ※		2	30							2				2	
		公衆衛生看護管理 ※		2	30								2			2	
		地域診断論 ※		2	60					2						2	
		公衆衛生看護学実習 ※		5	225									5		5	
		統合	在宅看護論Ⅰ	2			30				2						2
	在宅看護論Ⅱ		2		30						2					2	
	在宅看護学実習		2		90								2			2	
	家族看護論		1		15						1					1	
	医療安全		1		15							1				1	
	医療・看護システム論			1	15					1						1	
	看護管理論		1		15								1			1	
	統合実習		2		90									2		2	
	看護研究方法		2		30							2				2	
	看護活動と研究			2	30									2		2	
	赤十字・災害	卒業研究	4		120									4		4	
		赤十字災害看護学	1		15					1						1	
		赤十字災害看護学演習	1		30									1		1	
		国際救援看護論	1		15					1						1	
		国際救援看護学演習		1	30					1						1	
		赤十字健康生活支援演習		1	15						1					1	
		赤十字幼児安全演習		1	15								1			1	
		国際救援看護学実習		1	45							1				1	
		小計	77	27	2820			77	4	3	12	21	20	26	15	3	104
		※：保健師教育課程を専攻する学生は必修															
	合計							124	28	28	25	29	24	26	15	3	178

教育課程表 (2020 年度以降入学者適用)

区分	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数								計			
		必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				
教養科目	人間	哲学	1	15	必修 15 単位 選択 7 単位 以上		1								1		
		教育学		2		30		2								2	
		生命倫理	1			15				1							1
		人間発達論	1			15		1									1
		家族論	1			15			1								1
		法学・日本国憲法		2		30		2									2
		音楽論		1		15			1								1
		英語 I	1			30		1									1
		英語 II	1			30			1								1
		英語 III	1			30				1							1
		英語 IV	1			30					1						1
		英語 V	1			30						1					1
		上級英語		1		30									1		1
	スペイン語		1	30				1								1	
	ポルトガル語		1	30				1								1	
	環境	社会学		2		30		2									2
		環境問題と健康	1			15		1									1
		文化人類学		2		30		2									2
		日本文化論		1		15			1								1
		情報リテラシー	1			15		1									1
	健康	スポーツ健康科学	1			15			1								1
		スポーツレクリエーション実技	1			30		1									1
		遺伝と健康		1		15						1					1
	赤十字	看護プロフェッショナルセミナー	1			30		1									1
		ボランティア活動論		1		30			1								1
		赤十字原論	1			15		1									1
赤十字と活動		1		15			1								1		
赤十字総合セミナー			1	15			1								1		
小計	15	17	645	22	13	13	2	1	1	1	0	1		32			
専門基礎科目	人間	形態機能学 I	2	60	必修 21 単位	2										2	
		形態機能学 II	2	60			2										2
		形態機能学 III	1	15			1										1
		免疫学	1	15			1										1
		栄養代謝学	1	30			1										1
		人間工学	1	30				1									1
	環境	公衆衛生学	1	15				1									1
		社会福祉学	1	30				1									1
		保健医療福祉行政論 I ※	1	15					1								1
		保健医療福祉行政論 II ※		2		30				2							2
		保健情報演習 ※	1	30				1									1
		保健統計 ※	1	30					1								1
		疫学 I ※	1	15							1						1
		疫学 II ※		1		30						1					1
	健康	薬理学	1	30					1								1
		微生物学	1	15			1										1
		感染制御論	1	15					1								1
		病理学	1	15				1									1
		臨床検査概論	1	15					1								1
		リハビリテーション論	1	30					1								1
		臨床心理学	1	15				1									1
小計	21	3	540	21	6	8	6	2	2	0	0	0		24			

III 看護学部教育活動

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数										
				必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次		計		
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
専門科目	基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	2		30		2								2		
			コミュニケーション論	1		15		1									1	
			看護過程Ⅰ	1		15				1							1	
			看護過程Ⅱ	1		15					1						1	
			ヘルスアセスメント基礎	1		30					1						1	
			看護倫理学	1		15						1					1	
			基礎看護技術Ⅰ	1		30		1									1	
			基礎看護技術Ⅱ	1		30			1								1	
			基礎看護技術Ⅲ	1		30				1							1	
			基礎看護学実習Ⅰ	1		45			1								1	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		90					2						2		
		看護管理学	看護管理学Ⅰ	1		15					1						1	
			看護管理学Ⅱ	1		15						1					1	
			医療安全論	1		15							1				1	
			看護キャリア開発論		1	15									1		1	
			看護管理学実習	1		45								1			1	
			ケア創生看護学	成人看護学	成人急性期病態・治療論Ⅰ	1		30			1							1
					成人急性期病態・治療論Ⅱ	1		30				1						1
					成人慢性期病態・治療論Ⅰ	1		30				1						1
					成人慢性期病態・治療論Ⅱ	1		30					1					1
	成人急性期看護学概論				1		15				1						1	
	成人周術期看護論	1				30					1					1		
	クリティカルケア論	1				30						1				1		
	成人慢性期看護学概論	1				15				1						1		
	成人慢性期援助論Ⅰ	1				30					1					1		
	成人慢性期援助論Ⅱ	1				30						1				1		
	成人看護学技術演習Ⅰ	1			30					1					1			
	成人看護学技術演習Ⅱ	1			30						1				1			
	成人看護学実習Ⅰ	2			90							2			2			
	成人看護学実習Ⅱ	2			90							2			2			
	成人看護学実習Ⅲ	2			90							2			2			
	母性看護学	母性病態・治療論		1		30					1						1	
		母性看護学概論		2		30					2						2	
		母性看護学援助論		1		30						1				1		
		母性看護学技術演習		1		30						1				1		
		母性看護学実習		2		90							2			2		
		小児看護学	小児病態・治療論	1		30				1						1		
			小児看護学概論	2		30					2					2		
			小児看護学援助論	1		30						1				1		
			小児看護学技術演習	1		30						1				1		
			小児看護学実習	2		90							2			2		
	小児看護学実習Ⅱ		2		90							2			2			
	老年看護学	老年病態・治療論	1		30				1						1			
		老年看護学概論	2		30					2					2			
		老年看護学援助論	1		30						1				1			
		老年看護学技術演習	1		30						1				1			
		老年看護学実習Ⅰ	3		135							3			3			
		老年看護学実習Ⅱ	1		45							1			1			
		在宅看護学	在宅看護学概論	2		30					2					2		
			在宅看護学援助論	1		30						1				1		
			在宅看護学技術演習	1		30						1				1		
			在宅看護学実習	2		90							2			2		
	地域共生看護学		精神病態・治療論	1		30					1					1		
			精神看護学概論	2		30					2					2		
			精神看護学援助論	1		30						1				1		
			精神看護学技術演習	1		30						1				1		
			精神看護学実習	2		90							2			2		
			災害看護学概論	2		30					2					2		
		災害看護学援助論	1		30						1				1			
		災害看護学技術演習Ⅰ	1		30						1				1			
		災害看護学技術演習Ⅱ	1		15								1		1			
		国際救援看護論		1	15					1					1			
	国際救援看護論演習		1	30						1				1				
	国際救援看護論実習		1	45							1			1				
	国際救援と英語		1	15					1					1				

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数												
				必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次		計				
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧					
専門科目	地域共生看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ ※	1		15	必修 83単位										1			
			公衆衛生看護学概論Ⅱ ※		1	15					1								1	
			保健指導方法論 ※		2	30						2								2
			健康教育方法論Ⅰ ※		1	15						1								1
			健康教育方法論Ⅱ ※		1	30						1								1
			家族生活支援論 ※		2	30								2						2
			産業看護論 ※		1	15						1								1
			学校看護論 ※		1	15						1								1
			地区活動論 ※		2	30								2						2
			地域診断論 ※		4	60							4							4
			公衆衛生看護管理 ※		2	30										2				2
			公衆衛生看護学実習 ※		5	225											5			5
			知の統合	看護の技と	心のリハビリテーション			1	15							1				
	ヘルスアセスメント応用	1				15						1							1	
	技術特別演習	1				15										1			1	
	統合実習	1				45										1			1	
	卒業研究Ⅰ	1				15									1				1	
	卒業研究Ⅱ	2				60											2			2
	小計	83			28	3045				83	4	3	14	31	20	25	12	2		111
	合計							126	23	24	22	34	23	26	12	3	167			

※：保健師教育課程を専攻する学生は必修

科目担当教員一覧

授業科目	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
哲学		1	15	村瀬雅俊
教育学		2	30	小嶋季輝
生命倫理	1		15	森下直貴
人間発達論	1		15	青柳真紀子
家族論	1		15	大西文子
法学・日本国憲法		2	30	早野暁
音楽論		1	15	中野里美
英語Ⅰ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅱ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅲ	1		30	森久子・鈴木寿摩
英語Ⅳ	1		30	森久子・鈴木寿摩
上級英語		1	30	Steeve Plante
スペイン語		1	30	プストス・シアン カルロ
ポルトガル語		1	30	ヴァスコンセロスクラウドイオ
社会学		2	30	加藤典子
環境問題と健康	1		15	牛島佳代・今井奈紗
文化人類学		2	30	渡辺道斉
日本文化論		1	15	永井博
情報リテラシー	1		15	森田一三・高見精一郎
情報処理		1	15	森田一三・高見精一郎
スポーツ健康科学	1		15	三浦真理子
スポーツレクリエーション実技	1		30	三浦真理子
看護プロフェッショナルセミナー	1		30	森田一三・松浦正子・東野督子・長谷川喜代美・野口眞弓・長田知恵子・岡田摩理・鈴木寿摩・竹内貴子・巻野雄介・橋本亜弓・初田真人・深谷由美・松田優子・高見精一郎
ボランティア活動論		1	30	村瀬智子・山田聡子・下間正隆・高見精一郎・中村将洋
赤十字原論	1		15	小林洋子・河合利修・伊藤明子
赤十字と活動	1		15	小林洋子
赤十字総合セミナー		1	15	小林洋子・村瀬智子・南谷志野・清水みどり・千葉朝子・神道那美・長尾佳世子・藤井愛海
形態機能学Ⅰ	2		60	福岡長知
形態機能学Ⅱ	2		60	福岡長知
形態機能学Ⅲ	1		15	福岡長知
免疫学	1		15	錦見昭彦
栄養代謝学	1		30	田口忠緒
人間工学	1		30	斎藤真
公衆衛生学	1		15	森田一三
社会福祉学	1		30	服部次郎
保健医療福祉行政論Ⅰ	1		15	日比野絹子・柴川ゆかり
保健医療福祉行政論Ⅱ		2	30	片岡博喜
保健情報演習	1		30	森田一三・高見精一郎
保健統計	1		30	森田一三・高見精一郎
疫学Ⅰ	1		15	森田一三
疫学Ⅱ		1	30	森田一三
薬理学	1		30	池田義明
微生物学	1		15	清水宣明
感染制御論	1		15	下間正隆
病理学	1		15	黒川景
臨床検査概論	1		15	下間正隆・山田雅之・福岡長知
リハビリテーション論	1		30	横田元美・金田嘉清・鈴木めぐみ・谷川広樹・小山総市朗
臨床心理学	1		15	目黒達哉
看護学概論	2		30	山田聡子
コミュニケーション論	1		15	中島佳緒里
看護過程Ⅰ	1		15	山田聡子
看護過程Ⅱ	1		15	中島佳緒里・山田聡子・竹内貴子・巻野雄介
ヘルスアセスメント基礎	1		30	巻野雄介・山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・加藤広美・近藤絵美・池田亮
看護倫理学	1		15	山田聡子
基礎看護技術Ⅰ	1		30	中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美・近藤絵美・池田亮・山田聡子
基礎看護技術Ⅱ	1		30	中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美・近藤絵美・池田亮・山田聡子
基礎看護技術Ⅲ	1		30	竹内貴子・中島佳緒里・巻野雄介・加藤広美・近藤絵美・池田亮・山田聡子
基礎看護学実習Ⅰ	1		45	山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美・近藤絵美・池田亮
基礎看護学実習Ⅱ	2		90	山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美・近藤絵美・池田亮
看護管理学Ⅰ	1		15	松浦正子・南谷志野
成人急性期病態・治療論Ⅰ	1		30	下間正隆
成人急性期病態・治療論Ⅱ	1		30	下間正隆
成人慢性期病態・治療論Ⅰ	1		30	下間正隆・坂本宏司・杉野安輝・花木芳洋・加藤智則
成人慢性期病態・治療論Ⅱ	1		30	山本義浩・久保田恵章・福岡長知・太田喜久夫・一文字功・高杉浩司
成人急性期看護学概論	1		15	東野督子
成人周術期看護論	1		30	東野督子・鎌倉やよい・棚川綾子
成人慢性期看護学概論	1		15	石黒千映子
成人機能回復援助論		1	15	棚川綾子

授業科目	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
緩和・ターミナルケア援助論	1		15	石黒千映子
感染予防看護論	1		15	東野督子
感染予防看護演習		1	15	東野督子・田口栄子・河村諒
成人看護方法論Ⅱ	1		15	石黒千映子・柳川綾子・田口栄子・河村諒・東野督子
成人慢性期援助論Ⅰ	1		30	石黒千映子
成人看護学技術演習Ⅰ	1		30	石黒千映子・柳川綾子・田口栄子・河村諒・東野督子
成人看護学実習Ⅰ	2		90	柳川綾子・東野督子・石黒千映子・田口栄子・河村諒
成人看護学実習Ⅱ	2		90	石黒千映子・東野督子・柳川綾子・田口栄子・河村諒
成人看護学実習Ⅲ	2		90	東野督子・石黒千映子・柳川綾子・田口栄子・河村諒
母性病態・治療論	1		30	小口秀紀・田中太平
母性看護学概論	2		30	野口眞弓
母性看護学Ⅰ	1		30	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
母性看護学Ⅱ	1		30	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
母性看護学実習	2		90	野口眞弓・長田知恵子・千葉朝子
小児病態・治療論	1		30	後藤芳充・田中太平・神田康司・石井睦夫・犬飼幸子・笠原克明・山田崇春・真島久和
小児看護学概論	2		30	大西文子
小児看護学Ⅰ	1		30	岡田摩理・遠藤幸子・神道那実
小児看護学Ⅱ	1		30	岡田摩理・遠藤幸子・大西文子・神道那実
小児看護学実習	2		90	大西文子・岡田摩理・神道那実・遠藤幸子
老年病態・治療論	1		30	小林尚司・鎌倉やよい・下間正隆・森田一三・安井敬三・伊藤彰博・近藤敬太・小笠原雅彦・加藤真二
老年看護学概論	2		30	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓
老年看護学Ⅰ	1		30	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
老年看護学Ⅱ	1		30	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
医療・老人保健施設実習	1		45	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
介護福祉施設実習	3		135	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
在宅看護学概論	2		30	松田優子・深谷由美
精神看護学Ⅰ	1		30	原田真澄・初田真人・坪之内千鶴
精神看護学Ⅱ	1		30	初田真人・坪之内千鶴・飯田大輔・原田真澄・村瀬智子
在宅看護学Ⅱ	2		30	深谷由美・松田優子
在宅看護学実習	2		90	深谷由美・松田優子
家族看護論	1		15	大西文子・小林尚司・原田真澄・石黒千映子
医療安全	1		15	松浦正子・南谷志野
看護管理論	1		15	松浦正子・南谷志野
精神病態・治療論	1		30	平野千晶・水谷浩明
精神看護学概論	2		30	村瀬智子・原田真澄・初田真人・坪之内千鶴・飯田大輔
精神看護学実習	2		90	村瀬智子・原田真澄・初田真人・坪之内千鶴・飯田大輔
災害看護学概論	2		30	小林洋子
災害看護学援助論	1		30	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
国際救援看護論		1	15	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
国際救援看護論演習		1	30	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
国際救援看護論実習		1	45	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
国際救援と英語		1	15	森久子・鈴木寿摩
公衆衛生看護学概論Ⅰ	1		15	長谷川喜代美
公衆衛生看護学概論Ⅱ		1	15	長谷川喜代美
保健指導方法論	2		30	清水美代子・廣田直美
健康教育方法論Ⅰ	1		15	清水美代子・廣田直美
健康教育方法論Ⅱ	1		30	清水美代子・廣田直美
家族生活支援論	2		30	長谷川喜代美
産業看護論	1		15	清水美代子
学校看護論	1		15	長谷川喜代美・廣田直美
地区活動論	2		30	長谷川喜代美
地域診断論		4	60	清水美代子・廣田直美
公衆衛生看護管理		2	60	長谷川喜代美・清水美代子・廣田直美
公衆衛生看護学実習		5	225	長谷川喜代美・清水美代子・廣田直美
統合実習	2		90	看護専門教員全員
看護研究方法	2		30	小林尚司・森田一三・村瀬智子
看護活動と研究		2	30	小林尚司・野口眞弓・大西文子・東野督子・山田聡子・村瀬智子・深谷由美・松浦正子
赤十字災害看護学演習	1		30	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
赤十字健康生活支援演習		1	15	松田優子・深谷由美
赤十字幼児安全演習		1	15	大西文子・岡田摩理
卒業研究		1	15	専門基礎・専門科目の講師以上

4) カリキュラムポリシー

- (1) 本学では、教育理念と教育目的に基づくディプロマポリシーを達成するために、カリキュラムは、次のように編成している。すなわち、「教養科目」、「専門基礎科目」では、本学の建学の精神である「赤十字」の基本原則と活動について学ぶとともに、「人間」と「環境」との相互作用において生じる「健康」の様々な段階について学ぶ。さらに、「専門科目」では、基盤育成看護学、ケア創生看護学、地域共生看護学、看護学の技と知の統合の分野から「看護」について学ぶことができるよう各科目を位置づけている。
- (2) 本学の建学の精神である赤十字に関する科目は教養科目として位置づけ、赤十字の理念と活動を理解したうえで、主体的に探求する「赤十字総合セミナー」と、赤十字の理念を行動に移す「ボランティア活動論」を設置している。
- (3) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支える能力を育成することを目指したコミュニケーションツールである語学科目として英語と本学の地域性を活かしたスペイン語、ポルトガル語を設置し、特に英語は、「国際救援と英語」等、4年間、継続して学習できる機会を設け、各学年に配置している。
- (4) 看護の対象者と円滑なコミュニケーションを図るために、「コミュニケーション論」で基本を学び、そのうえで専門的なコミュニケーション技術を身につけることを目指して精神看護学領域の各科目を設置している。
- (5) 看護においては、一人の人間を統合的に理解することが重要である。そこで、人間のライフサイクルから変化を捉える「人間発達論」と「家族論」、遺伝やスポーツ、生活を営む社会や環境を知り、健康への影響を理解する「遺伝と健康」、「環境問題と健康」等、人間の身体的側面について理解する科目として、「形態機能学」、「病理学」、「感染制御論」等、精神的側面について理解する科目として「臨床心理学」を設置している。さらに、各看護学専門領域に病態・治療論を配置し、病態・治療と看護のつながりを強化していることも特徴である。
- (6) 看護のアセスメントの基盤となる検査・治療について理解する「臨床検査概論」、「薬理学」、「人間工学」、「リハビリテーション論」、さらに地域における看護を展開するために必要不可欠な「疫学」、「公衆衛生学」等も設置している。
- (7) 看護の専門性を追求するために基盤となる科目としては、「看護学概論」等と各看護学領域の援助論を設置し、「基礎看護学技術」をはじめとする各看護学領域における技術演習、実習、「技術特別演習」、「統合実習」で、看護の技と知の統合を目指す。また、保健・医療・福祉の場で看護の専門性を追求するための科目として、「看護管理学」等を設置し、地域社会における看護の役割を学ぶ科目にも力を入れ、「在宅看護学概論」、「公衆衛生看護学概論」等を設置している。
- (8) 赤十字の看護大学卒業生としての自負を持ち、看護師としてのキャリアイメージを強化するための「看護プロフェッショナルセミナー」やプロフェッショナルリズムの育成を目指した「看護キャリア開発論」、さらに生涯にわたって学び続けるための基礎力となる研究力を身につける科目として「卒業研究」も設置している。
- (9) 本学の教育課程の特長である国内外の救護の場における看護の役割を認識することと災害関連死の予防、防災教育を実践するための科目として、「災害看護学概論」、「国際救援看護論」等を設置している。

5)カリキュラムマップ

(1) 2017 年度～ 2019 年度入学者適用

特性の範囲	赤十字基本原則の行動化	コミュニケーション技術	人間理解	科学的な問題解決	看護実践	地域社会における協働	生涯学習	国際社会	
卒業生特性 (Graduate Capability) ラーニングアウトカムの内容	赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護する専門的立場から行動することができる。	人の生命や生きる営みを支えるために、コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につける。	一人の人間を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解することができる。	事実を把握し、専門的知識、先行研究、経験等を活用してその状況の分析・評価に基づき問題を解決することができる。	健康問題に対する人間の反応を把握し、個別ケアを的確かつ安全に実施することができる。	地域社会における保健・医療・福祉の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働してケアを実践することができる。	自己啓発力・自己学習力をもって、生涯学習を自ら求め続けることができる。	国際社会における健康のニーズを把握する能力を持ち、看護の役割を認識できる。	
履修の順次性	1年次	赤十字原論	英語Ⅰ	心理学 人間発達論 倫理学 法学：日本国憲法 文化人類学 スポーツレクリエーション実技 看護学概論	生活科学 形態機能学Ⅰ 免疫学 栄養代謝学 微生物学	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	看護ふれあいセミナー スタディスキルズ セミナー 情報基礎		
		ボランティア活動論 赤十字と活動 赤十字救急法	英語Ⅱ スペイン語 ポルトガル語 コミュニケーション論	教育学 音楽論 経済学 日本文化論 スポーツ健康科学 臨床心理学	形態機能学Ⅱ 疾病・病態学	人間工学 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ	公衆衛生学 社会福祉学	保健情報演習	
	2年次	赤十字災害看護学	英語Ⅲ 中国語 カウンセリング論	生命倫理 社会学 成人看護学概論・保健 母性看護学概論・保健 小児看護学概論・保健 公衆衛生看護学概論	薬理学 成人・老年疾病・治療論Ⅰ リハビリテーション論 看護過程Ⅰ	基礎看護技術Ⅳ	保健医療福祉行政論Ⅰ		国際救援と英語 国際救援看護論
			英語Ⅳ フランス語	老年看護学概論・保健 精神看護学概論・保健	成人・老年疾病・治療論Ⅱ 母性疾病・治療論 小児疾病・治療論 精神疾病・治療論 看護過程Ⅱ ヘルスアセスメント 成人周手術期看護論 成人慢性期看護論	基礎看護学実習Ⅱ 成人看護方法論Ⅰ	保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計 健康教育方法論Ⅰ 健康教育方法論Ⅱ 産業看護論 学校看護論 地域診断論 在宅看護論Ⅰ 医療・看護システム論		国際救援看護論演習
	3年次	看護倫理学	上級英語	家族看護論	成人機能回復援助論 緩和・ターミナルケア援助論 感染予防看護論 感染予防看護演習 老年看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ 小児看護学Ⅰ 精神看護学Ⅰ	成人看護方法論Ⅱ 老年看護学Ⅱ 母性看護学Ⅱ 小児看護学Ⅱ 精神看護学Ⅱ	疫学Ⅰ 疫学Ⅱ 保健指導方法論 在宅看護論Ⅱ	情報処理	国際救援看護論実習
		赤十字健康生活支援演習			医療安全	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 医療・老人保健施設実習 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	介護福祉施設実習 家族生活支援論 地区活動論 在宅看護論実習	看護研究方法	
	4年次	赤十字災害看護学演習 赤十字幼児安全演習			看護管理論	統合実習	公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習	看護活動と研究 卒業研究	

(2) 2020 年度以降入学者適用

		1	2	3	4
特性の範囲		赤十字基本原則の行動化	コミュニケーション技術	人間理解	科学的な問題解決
卒業生特性 (Graduate Capability) ラーニングアウトカムの内容		赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊敬と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。	コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。	一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。	事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
時間的な順次性	一年次履修	ボランティア活動論 赤十字原論 赤十字と活動 赤十字総合セミナー	英語Ⅰ 英語Ⅱ スペイン語 ポルトガル語 コミュニケーション論	哲学 教育学 人間発達論 家族論 法学・日本国憲法 音楽論 社会学 環境問題と健康 文化人類学 日本文化論 スポーツ健康科学 スポーツレクリエーション実技 形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅲ 免疫学 栄養代謝学 人間工学 微生物学 病理学 臨床心理学 看護学概論	成人急性期病態・治療論Ⅰ
	二年次履修	生命倫理	英語Ⅲ	薬理学 感染制御論 臨床検査概論 リハビリテーション論 成人急性期看護学概論 成人慢性期看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 老年看護学概論 精神看護学概論	看護過程Ⅰ 看護過程Ⅱ ヘルスアセスメント基礎 看護管理学Ⅰ 成人急性期病態・治療論Ⅱ 成人慢性期病態・治療論Ⅰ 成人慢性期病態・治療論Ⅱ 成人周術期看護論 成人慢性期援助論Ⅰ 母性病態・治療論 小児病態・治療論 老年病態・治療論 精神病態・治療論
	三年次履修	看護倫理学		遺伝と健康 医療安全論 心のリハビリテーション	看護管理学Ⅱ クリティカルケア論 成人慢性期援助論Ⅱ 母性看護学援助論 小児看護学援助論 老年看護学援助論 精神看護学援助論 ヘルスアセスメント応用
	四年次履修		上級英語		

5		6	7	8	9
看護実践		地域社会における協働	生涯学習	国際社会	災害
演習	実習				
健康問題に対する人間の反応を把握し、個別性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。		地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。	自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。	国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。	災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。
基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ	公衆衛生学 社会福祉学	情報リテラシー 看護プロフェッショナルセミナー 保健情報演習		
基礎看護技術Ⅲ 成人看護学技術演習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計 在宅看護学概論 公衆衛生看護学概論Ⅰ 公衆衛生看護学概論Ⅱ 健康教育方法論Ⅰ 健康教育方法論Ⅱ 産業看護論 学校看護論 地域診断論		英語Ⅳ 国際救援看護論 国際救援看護論演習 国際救援と英語	災害看護学概論 災害看護学援助論
成人看護学技術演習Ⅱ 母性看護学技術演習 小児看護学技術演習 老年看護学技術演習 精神看護学技術演習	成人看護学基盤実習 成人急性期看護学実習 成人慢性期看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 老年看護学実習Ⅰ 精神看護学実習	疫学Ⅰ 疫学Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学援助論 在宅看護学技術演習 在宅看護学実習 保健指導方法論 家族生活支援論 地区活動論	卒業研究Ⅰ	英語Ⅴ 国際救援看護論実習	災害看護学技術演習Ⅰ
技術特別演習	看護管理学実習 統合実習	災害看護学技術演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習	看護キャリア開発論 卒業研究Ⅱ		

下線の科目は、3年次後期～4年次前期の通年開講科目です。

6) 2021年度 実習施設一覧

No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域	No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域	No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域
1	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習(看護管理実習、成人)	33	名古屋医療サービス事業団(名古屋市名東区訪問看護ステーション)	在宅看護学実習	65	トヨタ関連部品健康保険組合	公衆衛生看護学実習(産業)
2	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習(看護管理実習、成人)	34	訪問看護ステーション彩	在宅看護学実習	66	株式会社デンソー	公衆衛生看護学実習(産業)
3	刈谷豊田総合病院	小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 (訪問看護ステーション) 統合実習(看護管理実習)	35	かしのき訪問看護ステーション	在宅看護学実習	67	株式会社メイドー	公衆衛生看護学実習(産業)
4	名古屋掖済会病院	基礎看護学実習Ⅱ	36	豊田地域訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	68	愛知製鋼株式会社	公衆衛生看護学実習(産業)
5	豊田厚生病院	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 (訪問看護ステーション) 基礎看護学実習Ⅰ 統合実習(看護管理実習、災害)	37	八千代訪問看護ステーション	在宅看護学実習	69	東海旅客鉄道株式会社	公衆衛生看護学実習(産業)
6	トヨタ記念病院	母性看護学実習 統合実習(看護管理実習)	38	医療法人豊田会 高浜訪問看護ステーション	在宅看護学実習	70	日本たばこ産業株式会社	公衆衛生看護学実習(産業)
7	かなや助産所	母性看護学実習 統合実習(母性)	39	みよし市訪問看護ステーション	在宅看護学実習	71	愛知県庁 保健医療局	統合実習(看護管理学領域)
8	北野ミッドワイフリー	母性看護学実習 統合実習(母性)	40	三九郎病院訪問看護ステーション	在宅看護学実習	72	愛知県がんセンター	統合実習(看護管理実習)
9	天白助産所	母性看護学実習	41	すみれ訪問看護ステーション	在宅看護学実習	73	愛知県看護協会	統合実習(看護管理学領域)
10	碧助産院	母性看護学実習	42	訪問看護ステーションひなた	在宅看護学実習	74	愛知県ナースセンター	統合実習(看護管理学領域)
11	助産院マザーズ・プレイス	母性看護学実習	43	トヨタ記念訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	75	日本赤十字社愛知県支部	統合実習(災害)
12	ひまわり助産院	母性看護学実習 統合実習(母性)	44	訪問看護ステーションなかの	在宅看護学実習	76	豊根村役場	統合実習(災害)
13	すこやか助産院	母性看護学実習 統合実習(母性)	45	訪問看護リハビリステーションからふる	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	77	一般社団法人 Re Smile	統合実習(小児)
14	かおり助産院	母性看護学実習	46	訪問看護ステーション明日香	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	78	刈谷市立刈谷特別支援学校	統合実習(小児)
15	星野助産院	母性看護学実習 統合実習(母性)	47	常滑市民病院訪問看護ステーションさずな	在宅看護学実習	79	こども訪問看護ステーションmom	統合実習(小児)
16	愛育母乳相談室	母性看護学実習	48	れんげ訪問看護ステーション	在宅看護学実習	80	きたよし地区地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
17	刈谷豊田東病院	医療・老人保健施設実習	49	訪問看護ステーションつむぐ	在宅看護学実習	81	なかよし地区地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
18	高浜豊田病院	医療・老人保健施設実習	50	訪問看護ステーションえくぼ	在宅看護学実習	82	みなよし地区地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
19	老人保健施設 ハピリースーツ木	医療・老人保健施設実習	51	テンハート訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	83	社協包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
20	みよし市民病院	医療・老人保健施設実習	52	刈谷訪問看護ステーション	在宅看護学実習	84	ほっとかん地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
21	並木病院	医療・老人保健施設実習 統合実習(老年)	53	名古屋市中村保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)	85	地域包括支援センター益富の楽園	統合実習(公衆衛生)
22	老人保健施設 メディコ平針	医療・老人保健施設実習 統合実習(老年)	54	名古屋市中村保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)	86	ひまわりの街地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
23	特別養護老人ホーム 第2とよた苑	介護福祉施設実習 統合実習(老年)	55	名古屋市中村保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)	87	豊田福寿園地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
24	特別養護老人ホーム みなみ福寿園	介護福祉施設実習 統合実習(老年)	56	豊田市保健所	公衆衛生看護学実習(行政)	88	地域包括支援センター保見の里	統合実習(公衆衛生)
25	特別養護老人ホーム ひまわりの街	介護福祉施設実習 統合実習(老年)	57	豊橋市保健所	公衆衛生看護学実習(行政)	89	地域包括支援センター猿投の楽園	統合実習(公衆衛生)
26	特別養護老人ホーム ひまわり邸	介護福祉施設実習	58	瀬戸保健所	公衆衛生看護学実習(行政)	90	八千代病院	統合実習(看護管理実習)
27	特別養護老人ホーム 日進ホーム	介護福祉施設実習	59	半田保健所	公衆衛生看護学実習(行政)	91	岐阜赤十字病院	統合実習(看護管理実習)
28	医療法人 研精会 豊田西病院	精神看護学実習 統合実習(精神)	60	西尾保健所	公衆衛生看護学実習(行政)	92	浜松赤十字病院	統合実習(看護管理実習)
29	医療法人 静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター	精神看護学実習 統合実習(精神)	61	日進市保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)	93	諏訪赤十字病院	統合実習(看護管理実習)
30	特定医療法人 共和会 共和病院	精神看護学実習 統合実習(精神)	62	東浦町保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)	94	伊勢赤十字病院	統合実習(看護管理実習)
31	医療法人 成精会 刈谷病院	精神看護学実習	63	幸田町保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
32	刈谷市障害者支援センター	精神看護学実習	64	公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団 あいち健康の森 健康科学総合センター	公衆衛生看護学実習(行政)			

7) 選択科目受講者数

(単位：名)

講義名	履修者数
保健指導方法論	22
家族生活支援論	22
地区活動論	22
公衆衛生看護学実習	21
哲学	38
教育学	67
法学・日本国憲法	126
音楽論	127
社会学	64
文化人類学	86
日本文化論	59
ボランティア活動論	15
赤十字総合セミナー	20
国際救援看護論	13
国際救援看護論演習	12
上級英語	3
成人機能回復援助論	19
感染予防看護演習	12
看護活動と研究	99
疫学Ⅱ	22
公衆衛生看護管理	21
スペイン語	52
ポルトガル語	16
公衆衛生看護学概論Ⅱ	22
健康教育方法論Ⅰ	22
健康教育方法論Ⅱ	22
産業看護論	22
学校看護論	22
地域診断論	22
保健医療福祉行政論Ⅱ	22
情報処理	6
国際救援と英語	11

8) 他大学との単位互換の状況

愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している。

加盟大学に所属する学生（系列の併設短期大学の学生を含む。）は、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度である。

2021年度の実績「赤十字原論」1名。

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 日本語力、英語力、科学的思考力を備えている人
- (3) 人間や社会に対して広く関心がある人
- (4) 社会常識を備え責任を持って行動できる人
- (5) 看護を学ぶ意志を持つ人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	科目	配点	総点
学校推薦型 選抜	赤十字特別推薦選抜	30名程度	必須	英語	50点	150点
	高等学校長推薦選抜	30名程度		小論文	50点	
一般選抜	社会人特別選抜	2名		面接	50点	

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	教科	科目	配点	総点		
一般選抜	大学独自選抜	40名	必須	外国語	「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」	100点	305点		
			必須	国語	「国語総合（古文・漢文を除く）」	100点			
			選択 1つを選択	数学	「数学Ⅰ・数学A 整数の性質及び場合の数と確率、図形の性質」	100点			
				理科	「化学基礎」（教科書に記載されている全範囲とし、参考、発展、コラムなども含む） 「生物基礎」（教科書に記載されている全範囲とし、参考、発展、コラムなども含む）				
			必須	多面的・総合的な評価	5点				
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期A）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100点	400点		
			必須	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点			
			必須	数学	「数学Ⅰ・数学A」	100点			
			選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目			100点	
					「化学」				
					「生物」				
					「物理」				
「地学」									
大学入学共通テスト 利用選抜（前期B）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	200点	400点			
		選択 1つを選択	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点				
			数学	「数学Ⅰ・数学A」					
		選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目			100点		
				「化学」					
				「生物」					
				「物理」					
				「地学」					
		大学入学共通テスト 利用選抜（後期）	6名	必須	外国語		「英語（リスニングを含む）」	100点	350点
				必須	面接		50点		
選択 1つを選択	国語			「国語総合（近代以降の文章）」	100点				
	数学			「数学Ⅰ・数学A」					
選択 1つを選択	理科			「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目		100点			
				「化学」					
				「生物」					
				「物理」					
「地学」									

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

合計

(単位：名)

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	120	644	634	139
2021年度	120	504	492	134
2020年度	120	524	518	129

赤十字特別推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	30名程度	24	24	23
2021年度	30名程度	28	28	28
2020年度	30	25	25	25

高等学校長推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	30名程度	51	51	46
2021年度	30名程度	42	41	36
2020年度	30	41	41	31

社会人特別選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	2	2	2	2
2021年度	2	0	0	0
2020年度	2	1	1	0

大学独自選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	40	326	319	57
2021年度	40	228	221	64
2020年度	40	241	238	55

共通テスト 前期A

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	6	103	103	5
2021年度	6	108	108	3
2020年度	6	102	102	4

共通テスト 前期B

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	6	123	123	2
2021年度	6	85	85	3
2020年度	6	98	98	3

共通テスト 後期

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	6	15	12	4
2021年度	6	13	9	0
2020年度	6	16	13	11

3. 学生支援

1) 在籍学生数

(1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

（単位：名）

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2021年度入学生	134	134	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2020年度入学生	129	126	1	0.8%	4	3.1%	5	4.0%	-
2019年度入学生	131	131	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2018年度入学生	134	132	0	0.0%	2	1.5%	1	0.8%	129
2017年度以前入学生	-	5	0	0.0%	-	-	1	20.0%	4
合計	-	528	1	0.2%	-	-	7	1.3%	133

(2) 卒業年限内の卒業率

（単位：名）

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2021年度末 までに修了 した学生数	③ ①のうち 2021年度末 までに退学 した学生数	④ ①のうち 2022年度 現在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学 中に休学した 者を除いた留 年者数	⑤' 2016年 4月入学者 の「標準修 業年限×1.5」 年内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2018年度入学生	4年	134	129	2	3	1	96.3%	1.5%

(3) 学位取得状況（取得者数）

2021年度の学士（看護学）の授与者は133名であった。（1名は2015年度入学生）

（3名は2017年度入学生）

(4) 標準修業年限内修了率

2021年度の標準修業年限内修了率は96.3%であった。

2) チューター制度

教員と学生とのふれあいを通して学生生活を有意義に過ごすことができるように、また、学生の人格形成を援助していくことを目的としてチューター制度を設けている。

チューターである教員は、6～14人の学生を受け持ち、各学生が勉学活動に意欲的に取り組み、自己の適性や将来の目標を考慮しながら自己決定できるように支援している。

3) オフィスアワー制度

学生が教員と自発的に交流や相談ができるよう、オフィスアワーを設定している。

オフィスアワーは学務システムポータルサイト（メソフィア）及び教員の研究室前の掲示により学生に周知している。

4) 特待生制度

この制度は、本学生に対し、特待生として授業料を免除することにより、勉学を奨励するとともに学習意欲の高揚及び優秀な学生の確保を図ることを目的とする。なお、制度の種類は以下の通りである。

(1) A特待生

大学独自選抜の成績上位者であり、入学年度の年間授業料の全額が免除される者。

大学独自選抜の成績が上位20位までの者のうち、特待生となって入学する意思があり、成績が上位である者5名を選定する。成績順位が同位の場合は、英語の点数が高い者を上位とする。

2021年度の対象者は2名であった。

(2) B特待生

入学後の前年度学業成績が上位であり、年間授業料の後期納付額を免除される者。

入学後の学業成績において、前年度に履修した必修及び選択科目の全てが再履修することなく評価「B」以上であって、必修科目の評点合計が上位10位までの者のうち、面接を実施の上、総合評価が上位である者5名を選定する。成績順位が同位の場合は、修得単位数の多い者を上位とする。また、選考にあたっては、連続してB特待生となることは妨げない。

2021年度の対象者は15名（2年生5名、3年生5名、4年生5名）であった。

5) 奨学金制度（2021年度奨学生数）

(1) 赤十字病院（赤十字特別選抜・支部長推薦者除く）

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	6	12	4	10	32	6.1%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	11	15	9	15	50	9.5%
福井赤十字病院		1	2	2	5	0.9%
諏訪赤十字病院		2			2	0.4%
安曇野赤十字病院					0	0.0%
岐阜赤十字病院					0	0.0%
静岡赤十字病院	2			2	4	0.8%
浜松赤十字病院		1	1	2	4	0.8%
裾野赤十字病院					0	0.0%
伊勢赤十字病院			3	5	8	1.5%
岐阜県支部（岐阜・高山）		1	4	2	7	1.3%
武蔵野赤十字病院				2	2	0.4%
大阪赤十字病院			1	1	2	0.4%
日本赤十字社医療センター				1	1	0.2%
函館赤十字病院				1	1	0.2%
合計	19	32	24	43	118	22.3%

(2) 赤十字特別選抜・支部長推薦（愛知県支部はC特別奨学生を計上）

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
愛知県支部	7	6	5	6	24	4.5%
富山県支部	2	1		1	4	0.8%
石川県支部		1	2	1	4	0.8%
福井県支部				2	2	0.4%
長野県支部	6	3	4	6	19	3.6%
岐阜県支部	3	2		2	7	1.3%
静岡県支部	9	6	8	3	26	4.9%
三重県支部	1	4	3	3	11	2.1%
合計	28	23	22	24	97	18.4%

(3) 日本赤十字社愛知県支部特別奨学金

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院(A 特別奨学生)					0	0.0%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院(B 特別奨学生)			2	1	3	0.6%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院(A 特別奨学生)					0	0.0%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院(B 特別奨学生)			2		2	0.4%
合計	0	0	4	1	5	0.9%

(4) その他病院

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
刈谷豊田総合病院			1	1	2	0.4%
豊田厚生病院				1	1	0.2%
済生会松坂総合病院				1	1	0.2%
合計	0	0	1	3	4	0.8%

(5) 病院以外の奨学金

(単位：名)

奨学金名	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
日本学生支援機構（第一種）	28	10	21	17	76	14.4%
日本学生支援機構（第二種）	23	20	25	28	96	18.2%
日本学生支援機構（給付型）	14	10	9	13	46	8.7%
日本学生支援機構（緊急特別無利子奨学金）				1	1	0.2%
日本赤十字看護師同方会	3	4			7	1.3%
岐阜県選奨生	1			1	2	0.4%
あしなが育英会			1		1	0.2%
大幸財団			1		1	0.2%
合計	69	44	57	60	230	43.6%

6) 自治会活動支援

自治会は学生相互の信頼を基盤とし、会員の自主的な活動によって学生生活の充実と向上を図り、さらに看護活動への関心を高めることを目的として活動している。

自治会の活動について、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、いとすぎ祭（大学祭）は中止、六大学交流会はオンライン実施となったが、総会や選挙等の自治会行事が規約に則って活動できるよう支援を行った。

自治会が統括する学生団体（サークル等）の顧問の役割に関する申し合わせ事項を学生委員会において作成した。

7) 国家試験支援体制・状況

国家試験対策委員会が国家試験模擬試験を計画・実施している。準備および運営は、国家試験対策系の学生が中心となって行っている。2021年度は看護師模擬試験を7回、保健師模擬試験を3回実施し、看護師国家試験対策補講を10月から12月にかけて、専門基礎領域9コマ・看護学領域18コマを実施した。また、保健師国家試験対策補講を12月に4コマ実施した。学生は計画的に学習を進められるよう「学習計画シート」をチューターと共有し、模擬試験で得点率の低い分野についてチューターから指導を受けている。

8) 国家試験合格状況一覧

(単位:名)

	総 数				新 卒				合格率
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	不合格者数	全国合格率
第111回 看護師	136	136	133	97.8%	133	133	131	2	98.5%
									96.5%
第108回 保健師	22	22	21	95.5%	21	21	21	0	100.0%
									93.0%

9) キャリア支援体制・状況

年間を通じて在学生の奨学金申請や病院採用試験のエントリーシートの記載方法や面接の受け方、学生に適した進路(就職先)をアドバイス、指導をおこなっている。

就職・進学等に関する指導は、チューターがその役割の主要な部分を担っている。3年生後期に学生委員会と学生・キャリア支援係が進路調査を実施し、学生の進路希望についてチューターと情報共有して就職・進学活動を指導・支援している。

また、4年生後期に第2回進路調査を実施して就職内定状況と就職・進学試験予定日を確認している。

チューターが看護系教員でない場合は、学生・キャリア支援係が積極的に就職支援を行っている。

奨学金・就職説明会は年1回開催しているが、2021年度は新型コロナの影響により開催できなかった。

2021年度就職ガイダンス一覧

(単位:名)

No	対象	日時	内容	実施方法	実施業者	参加人数
1	3年生	2021年6月18日(金) 3限	就活スタートアップ WEB講座	Zoomによるリアルタイム 配信	マイナビ	101
2	3年生	2021年12月17日(金) 4限	マナー講座	対面	マイナビ	120
3	1年生	2021年12月21日(火) 4限	メディアリテラシー・ ストレスマネジメント講座	対面	ナース専科	34
4	3年生	2022年1月19日(水) 4限	履歴書、面接講座	対面	マイナビ	96

10) 就職・進路状況一覧 (2021 年度卒業生)

(1) 就職

(単位:名)

中部ブロック赤十字病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
富山赤十字病院	富山県	富山市	1		1
金沢赤十字病院	石川県	金沢市	1		1
諏訪赤十字病院	長野県	諏訪市	3	1	4
長野赤十字病院	長野県	長野市	1		1
安曇野赤十字病院	長野県	安曇野市	1		1
下伊那赤十字病院	長野県	下伊那郡松川町		1	1
福井赤十字病院	福井県	福井市	4		4
静岡赤十字病院	静岡県	静岡市	3		3
裾野赤十字病院	静岡県	裾野市			
浜松赤十字病院	静岡県	浜松市	4		4
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	愛知県	名古屋市	13	7	20
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	愛知県	名古屋市	14	5	19
岐阜赤十字病院	岐阜県	岐阜市	2		2
高山赤十字病院	岐阜県	高山市	2		2
伊勢赤十字病院	三重県	伊勢市	8		8
		小計	57	14	71

その他の赤十字施設	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
函館赤十字病院	北海道	函館市	1		1
日本赤十字社医療センター	東京都	渋谷区	1		1
武蔵野赤十字病院	東京都	武蔵野市	1	2	3
大阪赤十字病院	大阪府	大阪市	1		1
		小計	4	2	6

その他の病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
豊田厚生病院	愛知県	豊田市	1	8	9
刈谷豊田総合病院	愛知県	刈谷市	2	6	8
トヨタ記念病院	愛知県	豊田市		5	5
名古屋掖済会病院	愛知県	名古屋市		2	2
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	愛知県	名古屋市		2	2
名古屋記念病院	愛知県	名古屋市		2	2
豊橋市民病院	愛知県	豊橋市	1	1	2
社会福祉法人聖霊会聖霊病院	愛知県	名古屋市		1	1
総合上飯田第一病院	愛知県	名古屋市		1	1
中部ろうさい病院	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋市立大学病院	愛知県	名古屋市		1	1
福友病院	愛知県	日進市		1	1
安城更生病院	愛知県	安城市		1	1
岡崎市民病院	愛知県	岡崎市		1	1
海南病院	愛知県	弥富市		1	1
総合大雄会病院	愛知県	一宮市		1	1
愛知医科大学病院	愛知県	長久手市		1	1
藤田医科大学病院	愛知県	豊明市		1	1
刈谷病院	愛知県	刈谷市		1	1
岐阜大学医学部附属病院	岐阜県	岐阜市		1	1
長良医療センター	岐阜県	岐阜市	1		1
市立恵那病院	岐阜県	恵那市	1		1
金沢循環器病院	石川県	金沢市	1		1

国立病院機構東長野病院	長野県	長野市		1	1
国立国際医療研究センター病院	東京都	新宿区		1	1
みさと健和病院	埼玉県	三郷市	1		1
			小計	8	41
看護師 合計				69	57
					126

保健師	都道府県	市町村	計
愛知県	愛知県	名古屋市	1
豊田市役所	愛知県	豊田市	1
保健師合計			2

養護教諭	都道府県	市町村	計
養護教諭合計			0

(2) 進学・その他

(単位：名)

学校名	都道府県	市町村	計
岐阜医療科学大学助産学専攻	岐阜県	可児市	1
ユマニテック看護助産専門学校	三重県	四日市市	1
進学・その他合計			2

11) 2021年度学生相談利用状況一覧

(1) 学年別 来談者数 (実人数)

(単位：名)

	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	合計
前期	6	3		7		16
後期	5	0	3	3		11

(2) 学生の月別相談回数 (累計)

(単位：名)

前期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
	9	7	8	9	5	3	41
後期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	10	14	12	5	4		45

12) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年1回学生生活に関する調査（キャンパスライフアンケート）を実施している。

【調査対象】 後期に在籍する学部学生及び大学院生。ただし、休学者は対象から除外。

【調査方法】 Microsoft Forms を使用した自記式アンケート調査（無記名）

【実施期間】 2022年1月12日（水）～1月28日（金）

【回答率】 全体 36.8%（1年生 53.7%・2年生 31.7%・3年生 29.3%・4年生 32.6%）

【その他】 ・「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問っている

・1～5の5段階評価とし、5が最大評価値である

・分布図内のプロット（打点）は、回答の平均値を示している

(1) アンケート結果の要約

本学のキャンパスライフについて、利用度・満足度ともに概ね高い評価結果であった。

①学部生の結果

全学年を通して、「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」「自習環境」について、利用度・満足度ともに

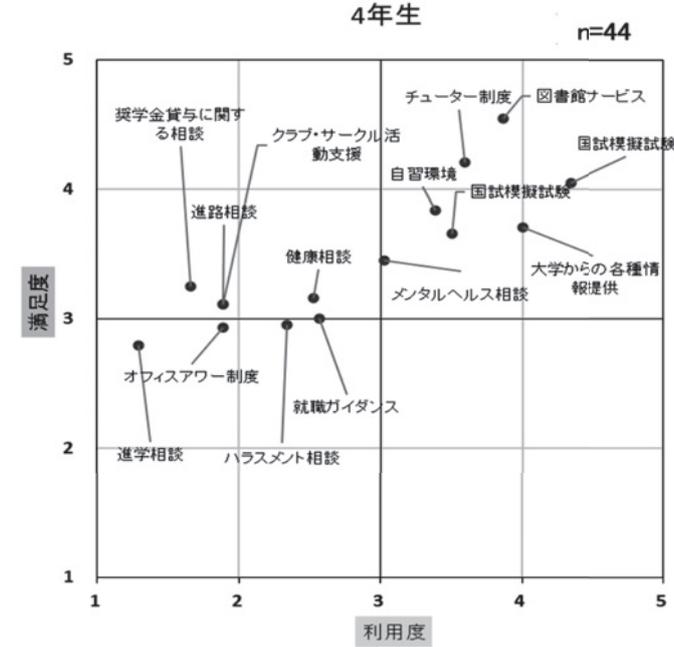
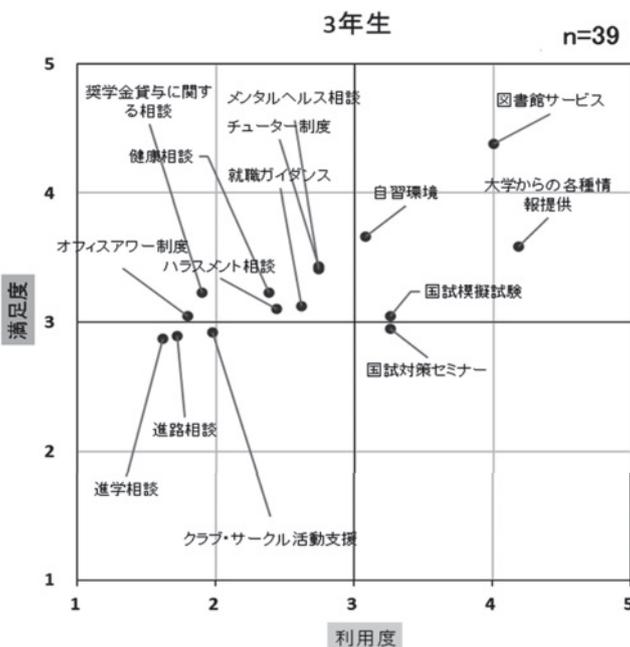
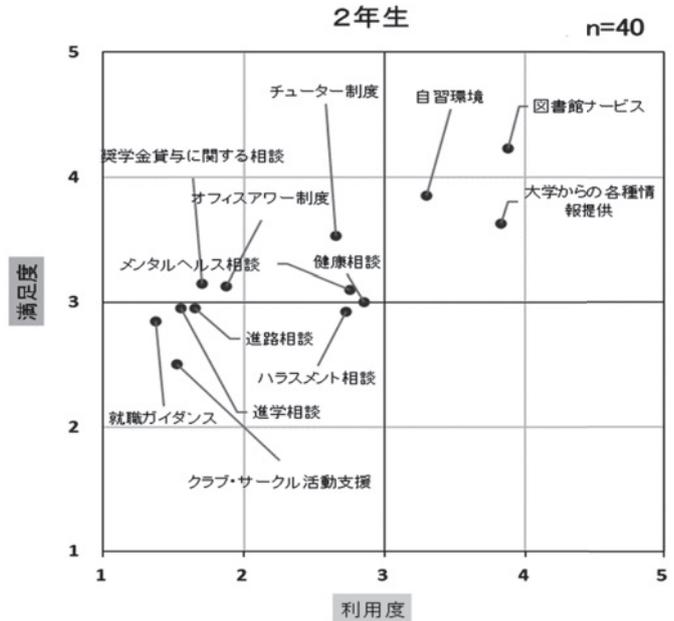
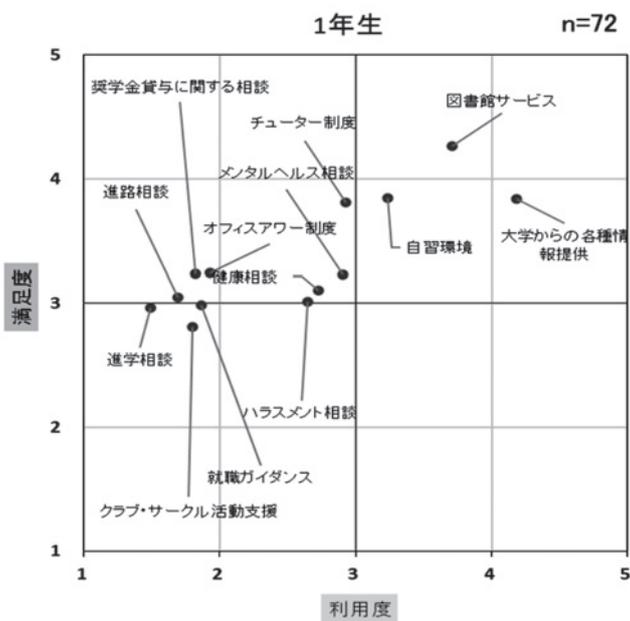
高い評価結果であった。最も満足度が高かったのは「図書館サービス」であった。利用度が最も高かったのは「大学からの各種情報提供」であった。前年度との比較結果では、「自習環境」と「チューター制度」の利用度と満足度が高くなった。

学年別の特徴を以下に述べる。

- ・1年生と2年生は「クラブ・サークル活動支援」の利用度と満足度が、他学年と比べて若干低い結果となった。
- ・3年生から開始する「国試模擬試験」「国試対策セミナー」は利用度・満足度ともに高い結果であった。
- ・4年生は、「チューター制度」の利用度・満足度が他学年と比べて高かった。「進学相談」は利用度が低く、満足度も若干低い結果となった。

(2) 明らかになった課題（自由記述内容の意見も含む）

- ①クラブ・サークル活動の支援の利用・満足度の低さ
- ②進学相談、進路相談の利用の低さ



(3) 次年度の改善事項

①クラブ・サークル活動の支援

感染拡大防止の観点から、活動制限はあるものの、学生間の交流の機会を設定できるよう、学生委員会が学生自治会役員等と話し合いの場をもち、具体的な対応方法を検討し適宜実行する。

②進学相談、進路相談

キャリアプランの支援について、教育改善学生委員会委員の学部学生と学生委員会委員等とで話し合いの場をもち、進学相談および進路相談の改善方法を協議し適宜実行に移す。

13) 後援会との連携

後援会は看護学部在学生の保護者を会員とし、大学に在学する学生の福利厚生の充実及び課外教育等の助成等を行うとともに、会員相互の親睦並びに本学の発展に寄与することを目的とする。

主な事業として、学生自治会の活動に対する支援（いとすぎ祭支援）と大学の教育研究活動に対する支援（実習用の機器備品購入）を行っている。2021年度は後援会からの助成により、母性看護学領域演習資材として多目的実習用新生児モデル3体と成人看護学領域実習用としてシリンジポンプ（TE-351Q）1台を整備した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によりいとすぎ祭が中止となったことから、学生支援を目的として50万円の寄附をいただいた。

2021年5月28日（土）に開催予定であった総会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、文書審議で行われた。

14) 同窓会との連携

同窓会は卒業生と在学生を会員とし、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与するとともに赤十字精神に基づき社会に貢献することを目的とする。主な事業として、卒業生と在生との交流会（里帰りイベント）の実施、大学へ看護教育充実に必要な支援を行っている。

2021年度は同窓会活動委託費として100万円、教育環境整備事業として50万円の寄附をいただいた。また、2021年10月30日（土）にオンラインで総会及び里帰りイベントとして講演会（テーマ:大人の発達障害について）を開催した。

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

【教育目標】

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、看護学の発展に寄与できる看護職者を育成する。
- (2) 看護学の専門分野における創造的な問題解決能力を有する研究・教育者を育成する。
- (3) 看護学の専門分野における卓越した実践能力を有する専門看護師・看護管理者を育成する。

2) ディプロマポリシー

修士課程に所定の期間在学し、本研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、論文の審査及び最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に、学位（修士（看護学））を授与する。

(1) 研究・教育者コース

- ①赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ②看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。
- ③看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。
- ④研究内容を論理的に説明できる能力を有している。

(2) 専門看護師・認定看護管理者コース

- ①赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ②専門領域における卓越した看護実践能力を有している。
- ③多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。
- ④看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している

3) 教育課程表

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法							
					講義	演習	実習		1年生	2年生	①	②	③	④		
共通科目	共通科目	必修共通科目	看護理論	村瀬智子	2 (30)			各領域 共通 5 単位	2							
			看護倫理	山田聡子	1 (15)				1							
			赤十字と看護	小林洋子、大川四郎	2 (30)				2							
		選択共通科目	教育方法・評価論	龍崎忠	1 (15)				<研究・教育者コース> 「教育方法・評価論」を含む9単位以上 ただし、災害看護学領域は8単位以上 なお、成人看護学領域は「セルフマネ ジメント論」も必修とする	1						
			統計学Ⅰ	森田一三	2 (30)					2						
			統計学Ⅱ	森田一三	2 (30)					2						
			看護研究Ⅰ(概論)	野口眞弓	1 (15)					1						
			看護研究Ⅱ(量的研究法)	野口眞弓、森田一三	2 (30)					2						
			看護研究Ⅲ(質的研究法)	村瀬智子	2 (30)					2						
			セルフマネジメント論	鎌倉やよい	2 (30)					2						
			感染制御論	下間正隆、東野督子	2 (30)					2						
			病態生理学	病態生理学	下間正隆、福岡長知、鎌倉やよい、 巻野雄介	2 (30)					<専門看護師コース> 合計 11 単位以上 ただし、「看護研究Ⅰ(概論)」「病態 生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセス メント」の計 7 単位を必修とし、「コ ンサルテーション論」「看護管理論」「看 護政策論」「現任教育論」の中から 4 単位以上	2				
				臨床薬理学	池田義明、山田浩雅	2 (30)						2				
				ヘルスアセスメント	中島佳緒里、山内豊明	2 (30)						2				
				コンサルテーション論	村瀬智子、井上さよ子、田崎あ ゆみ、木全美智代、長尾大地、 石川恵己	2 (30)						2				
看護管理論	松浦正子、南谷志野	1 (15)				1										
看護政策論	松浦正子、南谷志野	1 (15)				1										
基礎育成看護学	看護管理学	看護管理学特論 *	松浦正子、南谷志野	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目	2								
		人的資源管理論 *	松浦正子、南谷志野、勝原裕美子	2 (30)				2								
		保健医療福祉組織論 *	松浦正子、南谷志野	2 (30)				2								
		看護管理学演習 *	松浦正子、南谷志野	2 (60)				2								
		組織経営・経済論	松浦正子、米本倉基	2 (30)				2								
		医療安全論	松浦正子、飛田伊都子	1 (15)				1								
		看護管理学実習Ⅰ	松浦正子、南谷志野			2 (90)					2					
		看護管理学実習Ⅱ	松浦正子、南谷志野			2 (90)					2					
		看護管理学実習Ⅲ	松浦正子、南谷志野			2 (90)					2					
		看護教育・ 技術学	看護教育学特論	山田聡子	2 (30)				<認定看護管理者コース> 必修 17 単位							
			看護技術学特論	中島佳緒里	2 (30)											
			看護教育方法論	山田聡子、中島佳緒里	2 (30)											
			看護教育・技術学演習	山田聡子、中島佳緒里	2 (60)											
		成人看護学	成人看護学特論	東野督子	2 (30)				<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2						
			周術期ケア開発特論	東野督子	2 (30)					2						
慢性病ケア開発特論	石黒千映子		2 (30)			2										
成人看護学演習	東野督子		2 (60)			2										
母性看護学特論	野口眞弓、長田知恵子		2 (30)			2										
母性看護学演習	野口眞弓、長田知恵子		2 (60)			2										
母性看護学	ウィメンズヘルス特論	野口眞弓、長田知恵子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2									
	周産期ケア開発特論	野口眞弓、長田知恵子	2 (30)				2									
	母性看護学演習	野口眞弓、長田知恵子	2 (60)				2									
	小児看護学特論	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2									
	小児看護学成長発達論	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2									
	小児看護学評価方法論	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2									
ケア創生看護学	小児看護学	小児看護学演習 *	大西文子、岡田摩理	2 (60)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目	2								
		小児看護学特論	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2								
		小児看護学成長発達論	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2								
		小児看護学演習 *	大西文子、岡田摩理	2 (60)				2								
		小児看護学支援論	大西文子、岡田摩理、山崎嘉久	2 (30)				2								
		小児看護ヘルス・アセスメント論	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2								
		小児の病態と治療	後藤芳充、神田康司、石井睦夫、 犬飼幸子、山田崇春、圓若かおり	2 (30)				2								
		小児 CNS 機能と役割演習 *	大西文子、岡田摩理、太田有美、 田崎あゆみ、深谷基裕、加藤美 也子	2 (60)				2								
		小児看護学実習Ⅰ	大西文子、岡田摩理			2 (90)										
		小児看護学実習Ⅱ (CNS 機能と 役割実習)	大西文子、岡田摩理			2 (90)					2					
小児看護学実習Ⅲ (小児看護高 度実践実習)	大西文子、岡田摩理			4 (180)				4								
小児看護学実習Ⅳ (小児看護高 度実践統合実習)	大西文子、岡田摩理			2 (90)				2								

IV 看護学研究科修士課程教育活動

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法			
					講義	演習	実習		1年生	2年生		
									①	②	③	④
専攻科目	地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	小林尚司、清水みどり	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2			
			認知症ケア特論	小林尚司、清水みどり	2 (30)				2			
			老年・在宅療養者共生支援論	小林尚司、清水みどり	2 (30)				2			
			老年・在宅看護学演習	小林尚司、清水みどり	2 (60)				2			
		精神看護学	精神保健医療論 ※※	村瀬智子	2 (30)			2				
			精神健康行動評価論 ※※	村瀬智子、服部希恵	2 (30)			2				
			精神看護学地域共生論 ※	村瀬智子、原田真澄	2 (30)			2				
			精神看護学演習 ※	村瀬智子、原田真澄	2 (60)			2				
			精神科治療と看護 ※	村瀬智子、原田真澄、石黒千映子、平野千晶、山田浩雅、加藤明美	2 (30)			2				
			精神健康行動ケア特論 ※	村瀬智子、原田真澄、服部希恵、牛山喜久恵	2 (30)			2				
			リエゾン精神看護論 ※	村瀬智子、原田真澄、服部希恵、平野千晶	2 (30)			2				
			精神科治療と看護演習 ※	村瀬智子、原田真澄、平野千晶	2 (60)			2				
			精神看護援助方法の開発演習 ※	村瀬智子、原田真澄、服部希恵	2 (60)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅰ ※	村瀬智子、原田真澄			2 (90)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅱ ※	村瀬智子、原田真澄			2 (90)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅲ ※	村瀬智子、原田真澄			2 (90)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅳ ※	村瀬智子、原田真澄			4 (180)			4				
	地域看護学	地域看護学特論	長谷川喜代美、森田一三、小林尚司、岡田摩理	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2				
		コミュニティアセスメント論	長谷川喜代美、森田一三	2 (30)				2				
		地域共生ケアシステム論	長谷川喜代美	2 (30)				2				
		地域看護学演習	長谷川喜代美、森田一三	2 (60)				2				
		災害看護学	災害看護学特論	小林洋子、花木芳洋	1 (15)			<研究・教育者コース> 必修 9 単位以上 *科目	1			
			災害と法律・制度	小林洋子、山崎栄一	2 (30)				2			
			災害看護学対象論	小林洋子、村瀬智子、長尾佳世子、藤井愛海	2 (30)				2			
			災害看護学援助論Ⅰ	小林洋子、長尾佳世子、下間正隆、花木芳洋	2 (30)				2			
	災害看護学援助論Ⅱ		小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海	1 (15)			1					
災害看護学演習	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海	2 (60)			2							
災害看護学実習	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海			1 (45)			1					
研究	課題研究	松浦正子、大西文子、岡田摩理、村瀬智子、南谷志野、原田真澄		2 (60)		<専門看護師・認定看護管理者コース> 必修 2 単位		2				
	特別研究	山田聡子、鎌倉やよい、松浦正子、東野智子、野口真弓、大西文子、岡田摩理、村瀬智子、長谷川喜代美、小林尚司、森田一三、小林洋子、南谷志野、中島佳緒里、長田知恵子、原田真澄、清水みどり、下間正隆		8(240)		<研究・教育者コース> 必修 8 単位		8				
修了要件								<研究・教育者コース> 30 単位以上 <専門看護師コース> 42 単位以上 <認定看護管理者コース> 30 単位以上				

4) カリキュラムポリシー

教育目的・目標を達成し、ディプロマポリシーに掲げる人材を育成するために、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針に基づいた教育課程を展開する。

(1) 共通科目

共通科目は、必修共通科目と選択共通科目で編成する。

- ①必修共通科目は、看護学を探究し卓越した看護実践を展開するための基盤となる「看護理論」と「看護倫理」、赤十字の基本原則に対する理解を深めるための「赤十字と看護」からなる。
- ②選択共通科目は、研究能力を育成するための「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」「看護研究Ⅲ」と「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」、教育能力を育成するための「教育方法・評価論」「現任教育論」、卓越した看護実践能力を育成するための「病態生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセスメント」と実践の基本となる「セルフマネジメント論」「感染制御論」、多職種・多機関と協働する能力と組織内外の調整能力を育成するための「コンサルテーション論」「看護管理論」「看護政策論」からなる。

(2) 専門科目

専門科目は3分野9領域で編成し、学生の目的に合わせた3コースを設けている。

①分野・領域

ア 基盤育成看護学分野

看護実践の基盤となる能力の育成と看護技術の開発・評価およびマネジメント能力の育成を目指す分野であり、看護管理学領域と看護教育・技術学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

イ ケア創生看護学分野

根拠に基づきケアを創り出し看護実践の発展を目指す分野であり、成人看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

ウ 地域共生看護学分野

地域で暮らす多様な人々との共生を目指したケアを開発する分野であり、老年・在宅看護学領域、精神看護学領域、地域看護学領域、災害看護学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

②コース

ア 研究・教育者コース

分野・領域での専門性を高め、研究者・教育者として看護学の発展に寄与できる能力の育成を目指すコースである。すべての領域にコースを設定している。研究・教育者コースは各領域の講義・演習科目により最新の専門知識を深め、「特別研究」で専門領域における研究能力を育成する。

イ 専門看護師コース

日本看護系大学協議会の認可を受けた高度実践看護師教育課程であり、専門看護師を目指すコースである。小児看護学領域と精神看護学領域にコースを設定している。各領域の講義・演習・実習科目により卓越した実践能力を育成し、「課題研究」で看護実践上の課題を解決するための研究能力を育成する。

ウ 認定看護管理者コース

卓越した見識と管理能力をもった認定看護管理者を目指すコースである。看護管理学領域にコースを設定している。講義・演習・実習科目により卓越した管理能力を育成し、「課題研究」で看護管理上の課題を解決するための研究能力を育成する。

5) カリキュラムマップ

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース			
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。	
			◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目							
科目	科目名	開講期								
	必修共通	看護理論	1		◎	○	○	◎	○	○
看護倫理		2	◎	○	○		◎	○	○	
赤十字と看護		2	◎							
共通科目	選択共通科目	教育方法・評価論	1			◎				
		統計学Ⅰ	1		◎					◎
		統計学Ⅱ	2		◎					○
		看護研究Ⅰ(概論)	1		◎					◎
		看護研究Ⅱ(量的研究法)	1		◎					○
		看護研究Ⅲ(質的研究法)	2		◎					○
		セルフマネジメント論	2		◎				◎	
		感染制御論	1						◎	
		病態生理学	1						◎	
		臨床薬理学	1						◎	
		ヘルスアセスメント	2						◎	
		コンサルテーション論	2							◎
		看護管理論	1				◎		◎	○
		看護政策論	2			○				◎
		現任教育論	2				◎			◎
基盤育成看護学	看護管理学	看護管理学特論	1		◎			◎		
		人的資源管理論	2			◎	○	◎		○
		保健医療福祉組織論	1			○			◎	
		看護管理学演習	2				◎			◎
		組織経営・経済論	2					◎		
		医療安全論	1						◎	
		看護管理学実習Ⅰ	3・4					◎	○	
	看護管理学実習Ⅱ	3・4					◎	○		
	看護管理学実習Ⅲ	3・4					◎	○		
	看護教育・技術学	看護教育学特論	1		◎	◎	○			
看護技術学特論		2		◎		○				
看護教育方法論		2		◎	◎	○				
看護教育・技術学演習		2		○		◎				
ケア創生看護学	成人看護学	成人看護学特論	1		◎		○			
		周術期ケア開発特論	2		◎		○			
		慢性病ケア開発特論	2		◎		○			
		成人看護学演習	2		○		◎			
	母性看護学	母性看護学特論	1		◎		○			
		ウィメンズヘルスト論	2		◎		○			
		周産期ケア開発特論	1		◎		○			
	母性看護学演習	2		○		◎				

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース			
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。	
	科目名	開講期	◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目							
ケア創生看護学	小児看護学	小児看護学特論	1	◎		○	◎		○	
		小児看護学成長発達論	1	◎		○	◎		○	
		小児看護学評価方法論	2	◎		○	◎		○	
		小児看護学演習	2	○		◎				
		小児看護支援論	2					◎	○	
		小児看護ヘルス・アセスメント論	2					◎	○	
		小児の病態と治療	2					◎	○	
		小児 CNS 機能と役割演習	2					◎	○	○
		小児看護学実習Ⅰ	2					◎		○
		小児看護学実習Ⅱ (CNS 機能と役割実習)	3					◎	◎	○
		小児看護学実習Ⅲ (小児看護高度実践実習)	3					◎	◎	○
		小児看護学実習Ⅳ (小児看護高度実践統合実習)	3・4					◎	◎	○
地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	1	◎		○				
		認知症ケア特論	2	◎		○				
		老年・在宅療養者共生支援論	1	◎		○				
		老年・在宅看護学演習	2	○		◎				
	精神看護学	精神保健医療論	1	◎		○	◎		○	
		精神健康行動評価論	1	◎		○	◎		○	
		精神看護学地域共生論	2	◎		○				
		精神看護学演習	2	○		◎				
		精神科治療と看護	1					◎	○	
		精神健康行動ケア特論	2					◎	○	
		リエゾン精神看護論	2					◎	○	
		精神科治療と看護演習	2					○		◎
地域看護学	地域看護学特論	1	◎		○					
	コミュニティアセスメント論	2	◎		○					
	地域共生ケアシステム論	2	◎		○					
	地域看護学演習	2	○		◎					
災害看護学	災害看護学特論	1	◎		○					
	災害と法律・制度	1	◎		○					
	災害看護学対象論	1	◎		○					
	災害看護学援助論Ⅰ	1	◎							
	災害看護学援助論Ⅱ	2	◎	○						
	災害看護学演習	2	○		◎					
研究	課題研究	1-4					◎	○	◎	
	特別研究	1-4		◎		◎				

6) 2021年度 実習施設一覧

No.	実習施設名	実習科目名
1	愛知医科大学病院	看護管理学実習Ⅰ
2	名古屋大学医学部附属病院	看護管理学実習Ⅱ
3	愛知県がんセンター	看護管理学実習Ⅲ
4	あいち小児保健医療総合センター	小児看護学実習Ⅱ (CNS 機能と役割実習)
5	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	小児看護学実習Ⅲ (小児看護高度実践実習)
6	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	小児看護学実習Ⅳ (小児看護高度実践統合実習)

7) 研究指導教員一覧

(単位:名)

領域・分野	職位	氏名	資格	研究指導 担当学生数		研究計画・論文審査 担当学生数		
				主指導	副指導	主査	副査	
	学長	鎌倉 やよい	主	0	0	0	0	
看護学 基盤育成	看護管理学	教授	松浦 正子	主	5	0	1	6
		准教授	南谷 志野	副	-	5	-	-
	看護教育・技術学	教授	山田 聡子	主	4	0	2	3
		准教授	中島 佳織里	副	-	4	-	-
ケア創生看護学	成人看護学	教授	東野 督子	主	1	0	0	2
	母性看護学	教授	野口 眞弓	主	1	0	2	3
		准教授	長田 知恵子	副	-	1	-	-
	小児看護学	特任教授	大西 文子	主	3	0	0	3
准教授		岡田 摩理	主	0	3	0	0	
地域共生看護学	老年・在宅看護学	教授	小林 尚司	主	1	0	2	4
		准教授	清水 みどり	副	-	1	-	-
	精神看護学	教授	村瀬 智子	主	1	0	0	2
		准教授	原田 真澄	副	-	1	-	-
	地域看護学	教授	長谷川 喜代美	主	0	0	3	1
		教授	森田 一三	主	0	1	1	3
災害看護学	特任教授	小林 洋子	主	0	0	3	1	

8) 研究指導関係スケジュール

日程	研究指導活動	
	M1	M2
4月10日	論文オリエンテーション	
4月21日	指導教員及び副指導教員の決定(研究科委員会)	
6月28日		研究計画発表会資料提出期日
7月8日		研究計画発表会
7月28日		研究計画・論文審査委員の決定
7月7日~ 8月31日		研究計画審査申請
10月1日	仮研究テーマ(仮研究課題)の提出期日	
11月19日		修士論文・課題研究論文 審査申請届提出期日
12月17日		修士論文・課題研究論文 提出期日
1月21日		修士論文・課題研究論文発表会
12月20日~ 2月10日		修士論文・課題研究論文審査及び最終試験
2月24日		学位授与判定
2月25日		学位授与判定結果の公示
3月16日		学位記授与式

- ・指導教員・副指導教員：2021年度入学生の指導教員1名、副指導教員1名を決定した。
- ・仮研究テーマ：1年次の学生3名から仮研究テーマ（仮研究課題）が提出された。
- ・研究計画発表会：修士論文及び課題研究論文審査規程第5条に基づき、2回の発表会を実施した。7月の研究計画発表会（発表者4名）は、教員24人、院生13人、職員2人の計39名が参加した。1月の研究計画発表会（発表者3名）は、教員32（内6名遠隔）名、院生15（内1名遠隔）、職員2名の計49名が参加した。
- ・審査委員会：修士論文及び課題研究論文審査規程第2条に基づき、研究計画発表会を終えた学生（7月発表者4名、1月発表者3名）計7名にかかる主査1名及び副査2名をそれぞれ決定した。
- ・研究計画審査：修士論文及び課題研究論文審査規程第6条に基づき、研究計画発表会を終えた学生（7月発表者4名、1月発表者3名）計7名全員から研究計画審査申請があった。審査委員会による審査を行い、3名に研究倫理審査委員会への申請許可を行った。4名については研究計画審査を継続中。
- ・研究実施許可：修士論文及び課題研究論文審査規程第10条に基づき、研究倫理審査を受審し、年度内に承認を受けた5名に対し、審査委員会から研究実施許可を行った。
- ・学位審査：

（9月修了）修士論文及び課題研究論文審査規程第2条に基づき、審査申請届の提出のあった学生1名（修士論文1題）について、修士論文・課題研究論文提出期日までに論文が提出され、7月に論文発表会を実施した。同規程第14条、第15条に基づきこの審査委員会による審査及び最終試験を行い、学位授与判定研究科委員会において審査委員会からの結果報告に基づき不合格とした。

（3月修了）修士論文及び課題研究論文審査規程第2条に基づき、審査申請届の提出のあった学生7名（修士論文5題、課題研究論文2題）について、全員から修士論文・課題研究論文提出期日までに論文が提出され、1月に論文発表会を実施した。同規程第14条、第15条に基づきこの審査委員会による審査及び最終試験を行い、学位授与判定研究科委員会において審査委員会からの結果報告に基づき7名の学位授与を決定した。

9) 学位論文審査基準

【修士論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 研究動機や意義が明確である。
- (3) 十分な範囲の関連文献が検討されている。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 十分なデータ数が得られている。
- (7) 倫理的配慮が適切である。
- (8) 目的に沿った結果が示されている。
- (9) 客観的にデータが示されている。
- (10) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (11) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (12) 関連文献と照合して考察している。
- (13) 結論が簡潔に述べられている。
- (14) 抄録が適切である。
- (15) 論文内容に学術的価値があり、看護学及び看護実践に貢献できる。
- (16) 論文の形式的条件が整備されている。

【課題研究論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 看護実践上の課題に基づき、課題の背景が明確である。
- (3) 看護実践上の意義が明確である。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 倫理的配慮が適切である。
- (7) 目的に沿った結果が示されている。

- (8) 客観的にデータが示されている。
- (9) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (10) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (11) 関連文献と照合して考察している。
- (12) 結論が簡潔に述べられている。
- (13) 抄録が適切である。
- (14) 論文内容に看護実践上の価値がある。
- (15) 論文の形式的条件が整備されている。

10) 2021 年度 修士論文テーマ一覧

研究・教育者コース

領域・分野	タイトル
臨床実践看護学領域 母性看護学分野	妊産婦の抑うつとその継時的変化の要因に関する研究
臨床実践看護学領域 精神看護学分野	一般病院精神科病棟看護チームにおける看護師の経験知の相違が看護実践に及ぼす影響
ケア創生看護学分野 成人看護学領域	通所事業所を利用する要支援高齢者の口腔への関心と関連する要因
ケア創生看護学分野 小児看護学領域	一般病院の小児病棟の看護師が発達障害をもつ子どもと親との関わりで感じる困難
地域共生看護学分野 老年・在宅看護学領域	熟練介護支援専門員による末期がん患者のターミナルケアマネジメントにおける医療職者との顔の見える関係の構築

専門看護師・認定看護管理者コース

領域・分野	タイトル
基盤育成看護学分野 看護管理学領域	昇進の内示から始まる看護師長の役割移行
ケア創生看護学分野 小児看護学領域	NICU に入院した医療的ケアのない低出生体重児と母親にかかわる退院支援看護師の活動の現状と課題

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 専門分野における基礎知識を有している人
- (3) 科学論文を理解するための基礎的な英語力を有している人
- (4) 論文作成の基盤となる文章の読解力と記述力を有している人
- (5) 基礎的な看護実践能力を有している人
- (6) 将来的に看護研究者・実践者として貢献する意志のある人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	10名	必須	外国語（英語）
推薦入学試験*			専門科目（小論文）
			面接

※ 学校法人日本赤十字学園が設置する大学卒業生、または、赤十字施設へ勤務しており、かつ看護部長等からの推薦のある方が対象となる。試験科目のうち外国語（英語）が免除される。

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

（単位：名）

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	第1回	10	2	2	2
	第2回		7	7	7
2021年度	第1回	10	2	2	2
	第2回		1	1	1
2020年度	第1回	10	2	2	2
	第2回		3	3	2

4) 科目等履修生

(1) 出願資格認定審査申請期間

前期科目：2020年12月11日（金）～2020年12月25日（金）

後期科目：2021年6月10日（木）～2021年6月24日（木）

(2) 出願期間

前期科目：2021年1月18日（月）～2021年2月1日（月）

後期科目：2021年6月25日（金）～2021年7月9日（金）

(3) 選考方法：書類審査

(4) 出願者数及び入学者数（過去3年）

（単位：名）

	2019年度	2020年度	2021年度
出願者数	8	4	4
入学者数	7	2	4

5) 履修証明プログラム

(1) 出願資格認定審査申請期間

2020年12月11日(金)～2020年12月25日(金)

(2) 出願期間

2021年1月18日(月)～2021年2月1日(月)

(3) 選考方法：書類審査

(4) 出願者数及び入学者数(過去3年)

(単位：名)

	2019年度	2020年度	2021年度
出願者数	0	0	1
入学者数	0	0	1
在学者数	0	0	1

6) 研究生

(1) 出願期間

2021年1月4日(月)～2021年1月29日(金)

(2) 選考方法：書類審査

(3) 出願者数及び入学者数(過去3年)

(単位：名)

	2019年度	2020年度	2021年度
出願者数	0	2	0
入学者数	0	2	0
在学者数	0	2	1

3. 学生支援

2020年度後期より、サテライトキャンパスを日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院敷地内の日赤愛知災害管理センター棟内に移転した。新サテライトキャンパスは、駅直結のため旧サテライトキャンパスと比較して利便性が高い立地にある。また、Wi-Fiを設置し、より授業を受講しやすい学修環境を整えた。

1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

(単位：名)

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2021年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2020年度入学生	4	4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2019年度入学生	7	5	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	5
2018年度入学生	8	6	2	33.3%	2	25.0%	1	16.7%	2
合計	-	18	2	11.1%	-	-	1	5.6%	7

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2021年度末 までに修了 した学生数	③ ①のうち 2021年度末 までに退学 した学生数	④ ①のうち 2022年度現 在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学 中に休学した 者を除いた 留年者数	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2020年度入学生 (長期履修者除く)	2年	0	0	0	0	0	-	-
2019年度入学生 (長期履修者のみ)	2→3年	6	5	1	0	0	83.3%	16.7%

3) 研究費助成制度・獲得状況

2021年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業（学長裁量事業）

研究テーマ	領域	研究者	交付金額
通所事業所を利用する要支援高齢者の口腔への関心と関連する要因	成人看護学	石田 咲	539,000 円
熟練介護支援専門員による末期がん患者のターミナルケアマネジメントにおける医療職との顔の見える関係の構築	老年看護学	宝木 百代	100,000 円
一般行員の小児病棟の看護師が発達障害をもつ子どもと親との関わりで感じる困難の現象とアセスメント	小児看護学	鷺見 正子	100,000 円

4) 就職・進路状況

2021年度修了生はすべて有職学生であった。2021年度修了生のうち進学者はいなかった。

5) 専門看護師（CNS）・認定看護管理者の資格取得状況一覧

資格	分野	課程（単位数）	2021年度 取得者数	累計取得者数 (2021年度取得者数再掲)
専門看護師（CNS）	母性看護	26単位※	0名	4名
専門看護師（CNS）	小児看護	26単位※	1名	4名
専門看護師（CNS）	精神看護	26単位※	0名	2名
認定看護管理者			0名	4名

※ 26単位課程の修了による審査申請は2023年度まで

6) 修士論文投稿状況一覧

修了年度	入学年度	領域・分野	論文の投稿状況
2019年度 (2019.9.30 修了)	2016年度 (7期生)	臨床実践看護学領域小児看護学分野	準備中
2019年度 (2020.3.16 修了)	2016年度 (7期生)	臨床実践看護学領域成人急性期看護学分野	
	2017年度 (8期生)	看護管理学領域看護管理学分野	準備中(第34回日本手術看護学会年次大会(2020年)で発表済み)
		臨床実践看護学領域成人急性期看護学分野	準備中(学会発表済み)
		災害看護学領域災害看護学分野	準備中
2020年度 (2021.3. 修了)	2017年度 (8期生)	看護管理学領域看護管理学分野	準備中(第25回日本看護管理学会学術集会(2021年)で発表済み)
	2018年度 (9期生)	臨床実践看護学領域精神看護学分野	準備中
		臨床実践看護学領域小児看護学分野	準備中
	2019年度 (10期生)	基盤育成看護学分野看護教育・技術学領域	日本看護学教育学会誌 31(3), 1-10, 2022.3

7) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年1回学生生活に関する調査(キャンパスライフアンケート)を実施している。

【調査対象】 後期に在籍する学部学生及び大学院生。ただし、休学者は対象から除外。

【調査方法】 Microsoft Forms を使用した自記式アンケート調査(無記名)

【実施期間】 2022年1月12日(水)～1月28日(金)

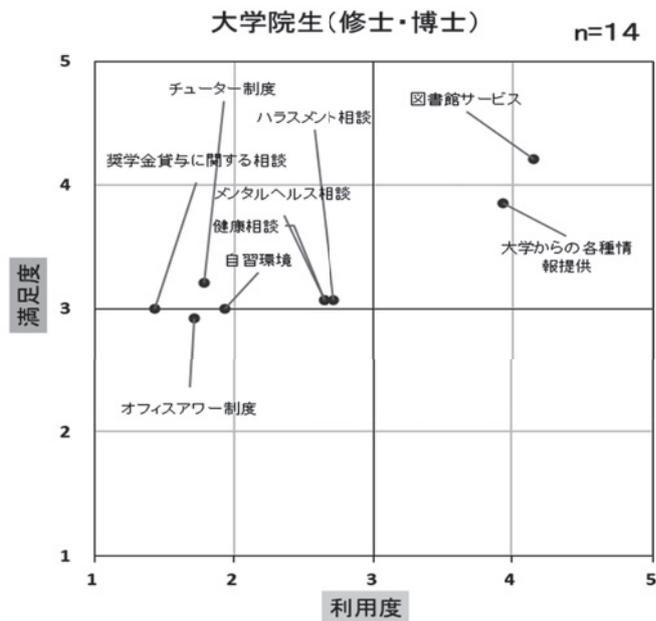
【回答率】 大学院生 46.7%

【その他】 「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問いている

- ・1～5の5段階評価とし、5が最大評価値である
- ・分布図内のプロット(打点)は、回答の平均値を示している

(1) 大学院生の結果

「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」の満足度・利用度が高かった。前年度と比べて「メンタルヘルス相談」の満足度が上がり、「自習環境」の利用度が低下した。



V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

赤十字の理念である「人道 (humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としている。さらに、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指す。

【教育目標】

- (1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- (2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- (3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- (4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに博士（看護学）の学位を授与する。

- (1) 看護学において、高度な専門的業務に従事する上で必要な学識・技術・応用力に基づいて、自立的な研究活動を担える能力を有している。
- (2) 高度な専門性と倫理観を有した、実践者、指導者、管理者、教育者、研究者として、多角的なリーダーシップを発揮できる資質と力量を有している。

3) 教育課程表

区分	授業科目	担当教員	配当年次	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	村瀬智子	1・2 前		1	○	
	赤十字人道援助論	井上忠男	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）	根本昌宏、村林宏、姫野稔子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）	伊藤善也、西片久美子	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）	河口てる子、西片久美子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅳ（質的研究）	石崎智子、山田典子	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）		1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅵ（理論構築）	河口てる子	1・2 後		1	○	
	臨床倫理論	柳井圭子、石崎智子	1・2 後		1	○	
小計（9科目）				9			
専門科目	看護人材開発特論	山田聡子、本田多美枝、柳井圭子、松浦正子	1・2 前		2	○	
	実践看護学特論	百田武司、鎌倉やよい、小松浩子	1・2 前		2	○	
	療養生活看護学特論 A・B	河口てる子、西片久美子、石崎智子 山田典子、高田由美、高橋清美、姫野稔子	1・2 前		2	○	
	生涯発達看護学特論	野口眞弓、志賀くに子、永松美雪、大西文子、 志賀加奈子	1・2 前		2	○	
	広域連携看護学特論		1・2 前		2	○	
	災害救護特論	中信利恵子、田村由美、渡邊智恵	1・2 前		2	○	
	健康科学特論	山本憲志、森田一三、長谷川喜代美	1・2 前		2	○	
	小計（7科目）				14		
演習	看護学演習	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、 野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、 姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 通		2		○
	小計（1科目）				2		
ゼミナール 合同研究	合同研究ゼミナール	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、 野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、 姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 後		1		○
	小計（1科目）				1		
特別研究	特別研究	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、 野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、 姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	2～2 通		8		○
	小計（1科目）				8		
	合計（19科目）				11	23	

修了要件：15 単位以上（共通科目から 2 単位以上、専門科目から 2 単位以上、必修科目 11 単位）を修得していること。

4) カリキュラムポリシー

共同看護学専攻の設置の趣旨及び教育目標を達成するため、科目区分を設け必要な授業科目を配置するとともに、当該科目区分ごとに履修要件単位数を定め、体系的なコースワークによる教育課程を編成している。

- (1) 看護学を導く理論を探求するとともに、高度な実践知を基盤とした理論を構築するための方法及び研究方法を学修し、博士学位論文の作成に結びつけるために共通科目をおく。
- (2) 看護における知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身につけ、広範な健康問題や看護課題について実践的な研究を行うために専門科目をおく。
- (3) 自らの研究テーマに関わる事例や先行研究を分析し、課題解決のための理論と方法論、技法について実証的に研究する手法を探求するために演習をおく。
- (4) 博士学位論文作成に向け、専門領域の垣根を越え異なる専門性の観点から、実現可能な研究に向けての方向性を明確化するために合同研究ゼミナールをおく。
- (5) 保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究能力の修得を目指すために特別研究をおく。

5) 研究指導教員一覧

(単位：名)

職位	氏名	研究指導資格	研究指導		研究計画・論文審査	
			主指導	副指導	主査	副査
学長	鎌倉 やよい	主	4	4	1	5
教授	山田 聡子	主	3	8	2	7
教授	野口 眞弓	主	2	1	0	5
特任教授	大西 文子	主	3	1	1	4
教授	東野 督子	主	0	0	0	2
教授	村瀬 智子	主	0	0	0	0
教授	森田 一三	副	-	-	-	-
教授	長谷川 喜代美	副	-	-	-	-

6) 研究指導関係スケジュール

日程	D1	D2、3
4月3日(土)	オリエンテーション(研究指導体制、看護学演習、研究倫理審査、特別研究報告書について)	オリエンテーション(研究計画書の提出、研究倫理審査、博士論文・審査願の提出について)
4月9日(金)		研究計画書提出期限①
4月15日(木)	主指導教員の決定(連絡協議会)	
5月20日(木)		修了判定(連絡協議会)
5月21日(金) ~22日(土)	合同ガイダンス	
6月11日(金)		研究計画書提出期限② 博士論文・審査願提出期限①
6月17日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)
7月9日(金)		研究計画審査②
9月10日(金)		研究計画書提出期限③
10月15日(金)	合同研究ゼミナール	
11月1日(月)		博士論文・審査願提出期限②
11月18日(木)	副指導教員の決定(連絡協議会)	
11月26日(金)		博士論文審査②
1月20日(木)		研究計画書提出期限④
1月20日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)
2月10日(木)		特別研究報告書提出期限
2月17日(木)		修了判定(連絡協議会)
2月20日(日)		研究計画審査④
3月3日(木)		博士論文発表会

(1) 指導教員・副指導教員

2021年度入学生の副指導教員を決定した。

(2) 研究計画審査

3名の審査を実施した。

(3) 博士論文審査

1名の審査を実施した。

7) 学位論文審査基準

(1) 審査体制

審査は論文ごとに、共同看護学専攻を構成する5大学院博士学位審査委員会が提案し、連絡協議会が承認した5名の〇合教員から成る専門委員会が行う。その構成は、主・副研究指導教員各1名を含む計5名とし、主査は、主・副研究指導教員以外の教員が担う。

専門委員会による審査結果は、博士学位審査委員会において博士学位論文の合否を判定し、最終的に連絡協議会が合否を決定する。

(2) 博士学位論文審査基準

審査の観点は、博士論文としての学術的価値、実践的な有用性、論理的な観点、完成度から、論文の水準を客観性、厳密性をもって判定する。

①看護学研究として学術的な貢献や社会的な意義を有している。

②研究方法ならびに成果が、独創性、論理性、体系性、実証性、新規性などの観点においてすぐれている。

③課題設定と問題意識の対応、課題解明と研究方法の対応、先行研究の整理・評価と結論の整合性などの論理的
一貫性が保たれている。

④章や節の組み立て、脚注や引用方法、著作権の配慮など、学術論文としての体裁が保たれている。

⑤学術雑誌における査読付研究論文1編以上の掲載などの研究業績がある。

8) 2021年度 博士学位論文テーマ一覧

該当者はなし

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

日本赤十字豊田看護大学大学院 共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道 (humanity)」のもとに、いかなる場合でも個人の尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現する人材の育成を目指すため、入学者選抜試験を実施し、次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求める。

- (1) 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- (2) 常に探求心を持ち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- (3) 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- (4) さまざまな分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- (5) 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- (6) 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- (7) 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	2名	必須	外国語(英語)
			専門科目(小論文)
			面接
			書類審査

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

(単位:名)

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2022年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		1	1	1
2021年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		4	4	3
2020年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		0	0	0

3. 学生支援

2020年度後期より、サテライトキャンパスを日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院敷地内の日赤愛知災害管理センター棟内に移転した。新サテライトキャンパスは、駅直結であり旧サテライトキャンパスと比較して利便性が高い立地にある。また、Wi-Fiを設置し、より授業を受講しやすい学修環境を整えた。

1) 在籍学生数

(単位：名)

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2021年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	-
2020年度入学生	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2019年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	-
2018年度入学生	2	1	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0
2017年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	0
2016年度入学生	2	2	0	0.0%	1	50.0%	2	100.0%	0
合計	-	12	0	0.0%	-	-	6	50.0%	0

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2021年度末 までに修了 した学生数	③ ①のうち 2021年度末 までに退学 した学生数	④ ①のうち 2022年度現 在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学 中に休学した 者を除いた 留年者数	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2019年度入学生 (長期履修者除く)	3年	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
2018年度入学生 (長期履修者のみ)	3→4年	2	0	1	1	1	0.0%	50.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

2021年度 「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業（学長裁量事業）

研究テーマ	領域	研究者	交付金額
保育所における0歳～2歳の食物アレルギー児に対するアナフィラキシー予防プログラムの構築	小児看護学	遠藤 幸子	61,000円

4) 就職・進路状況

2021年度修了生はなし

5) 2021年度 博士論文等投稿状況一覧

該当者はなし

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織

ヘルスプロモーションセンター長：松浦正子

2. 地域連携委員会活動報告

目的	日本赤十字豊田看護大学地域連携委員会規程第2条に定める以下の事項について企画し、推進する。 1) 地域の保健・医療・福祉への向上に関すること 2) 公開講座の企画及び実施に関すること 3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること 4) その他ヘルスプロモーションに関すること																																																											
構成員	委員長：松浦正子 委員：長谷川喜代美、南谷志野、松田優子、長尾佳世子、坪之内千鶴、田口栄子、近藤香苗、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 立川俊彦、奥映理菜																																																											
開催回数	11回																																																											
活動実績	<p>1) 地域の保健・医療・福祉への向上に関すること (1) 大学の近隣地域 大学の近隣地域において、ヘルスプロモーション活動を以下のとおり予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響により中止、不参加となるイベントがあった。(表1)。</p> <p>表1 大学の近隣地域での講座一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮口一色健康測定会</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>逢妻ふれあいまつり</td> <td>不参加</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>宮口上フェスタ</td> <td>2021年11月6日(土)</td> <td>-</td> <td>※救護として参加</td> </tr> <tr> <td>豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)</td> <td>2021年6月8日(火) 2021年12月21日(火)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>豊田西高等学校 SSH 成果発表会</td> <td>2021年7月29日(木)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 特定地域 大学の近隣以外の特定地域において、全4回の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、つばめ教室は資料送付のみとなった。(表2)。</p> <p>表2 特定地域での講座一覧 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊根村生涯学習講座</td> <td></td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>豊根村住民向け講座</td> <td>2021年8月31日(火)</td> <td>17</td> <td>三沢高原いこいの里</td> </tr> <tr> <td>EAS(ブラジル人学校)で身体測定会</td> <td>2021年11月25日(木)</td> <td>41</td> <td>EAS</td> </tr> <tr> <td>尾張旭市総合事業一般介護予防摂食嚥下予防教室「つばめ教室」</td> <td>中止(資料送付のみ)</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 公開講座の企画及び実施に関すること 公開講座を2回開催した。(表3)。</p> <p>表3 公開講座一覧 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>担当領域</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第4回こころの健康づくりシンポジウム「未来を創る Art と Care の対話」</td> <td>2021年12月18日(土) 13:00～15:00</td> <td>約120</td> <td>精神看護学</td> <td>ZOOM開催</td> </tr> <tr> <td>知って安心、認知症について</td> <td>2022年1月13日(木) 13:00～14:30</td> <td>21</td> <td>老年看護学</td> <td>中講義室2</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	日時	来場者	開催場所	宮口一色健康測定会	中止	-	-	逢妻ふれあいまつり	不参加	-	-	宮口上フェスタ	2021年11月6日(土)	-	※救護として参加	豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2021年6月8日(火) 2021年12月21日(火)			豊田西高等学校 SSH 成果発表会	2021年7月29日(木)			テーマ	日時	来場者	開催場所	豊根村生涯学習講座		-	-	豊根村住民向け講座	2021年8月31日(火)	17	三沢高原いこいの里	EAS(ブラジル人学校)で身体測定会	2021年11月25日(木)	41	EAS	尾張旭市総合事業一般介護予防摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	中止(資料送付のみ)	-	-	テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所	第4回こころの健康づくりシンポジウム「未来を創る Art と Care の対話」	2021年12月18日(土) 13:00～15:00	約120	精神看護学	ZOOM開催	知って安心、認知症について	2022年1月13日(木) 13:00～14:30	21	老年看護学	中講義室2
テーマ	日時	来場者	開催場所																																																									
宮口一色健康測定会	中止	-	-																																																									
逢妻ふれあいまつり	不参加	-	-																																																									
宮口上フェスタ	2021年11月6日(土)	-	※救護として参加																																																									
豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2021年6月8日(火) 2021年12月21日(火)																																																											
豊田西高等学校 SSH 成果発表会	2021年7月29日(木)																																																											
テーマ	日時	来場者	開催場所																																																									
豊根村生涯学習講座		-	-																																																									
豊根村住民向け講座	2021年8月31日(火)	17	三沢高原いこいの里																																																									
EAS(ブラジル人学校)で身体測定会	2021年11月25日(木)	41	EAS																																																									
尾張旭市総合事業一般介護予防摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	中止(資料送付のみ)	-	-																																																									
テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所																																																								
第4回こころの健康づくりシンポジウム「未来を創る Art と Care の対話」	2021年12月18日(土) 13:00～15:00	約120	精神看護学	ZOOM開催																																																								
知って安心、認知症について	2022年1月13日(木) 13:00～14:30	21	老年看護学	中講義室2																																																								

(3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること
医療従事者及び専門職者を対象とした研修会を全 5 回開催する予定だったが、1 回は中止となった。(表 4)。

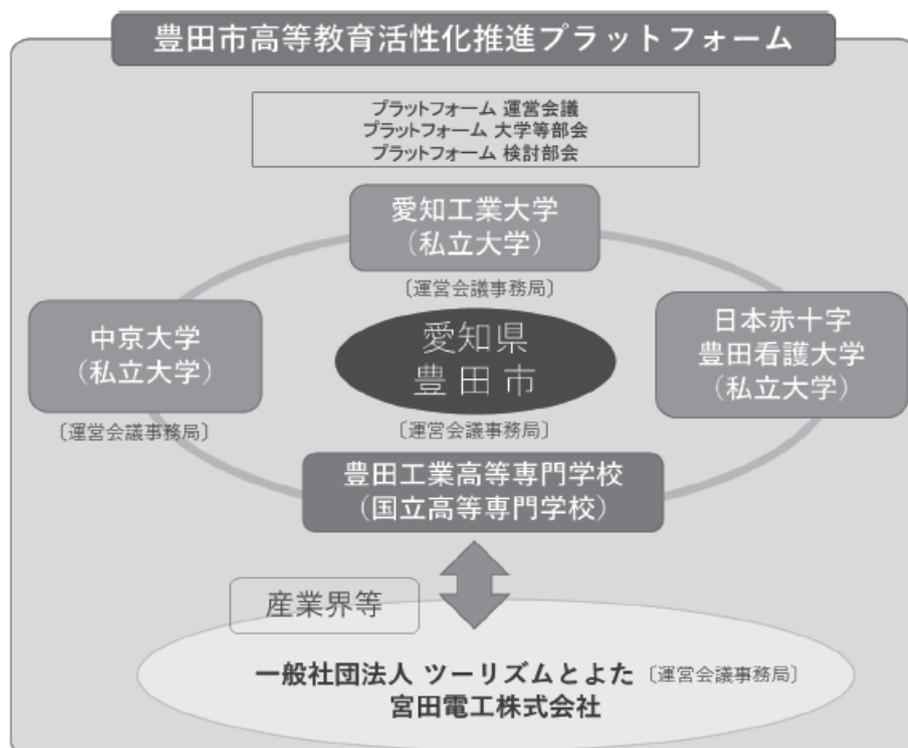
表 4 専門職向け研修会一覧

テーマ	日時	来場者	担当者	開催場所
臨地実習指導のコツ	2021年8月21日(土) 10:00～12:00	168名	山田聡子	ZOOM 開催
「ころりん」で体験する科学の原理原則	中止		森田一三	
現場で活かす医療メディエーション	2022年1月22日(土) 13:00～16:00	25名	森田恵美子 (愛知県立大学 看護学部)	大講義室 1
ストレングスマデルを活用したケア 共創リカバリーを支える対話実践	2022年2月16日(水) 13:00～15:00	5名	村瀬智子、飯田大輔	ZOOM 開催
後輩指導・看護管理に活かす看護リ フレクション	2022年3月12日(土) 13:00～16:00	33名	松浦正子、南谷志野	ZOOM 開催

3. プラットフォーム

高等教育機関と豊田市・産業界の連携強化により、人と地域が共に育ち合い、自立した地域社会を実現するため、豊田市に所在する私立大学（愛知工業大学・中京大学・日本赤十字豊田看護大学）、国立高等専門学校（豊田工業高等専門学校）、地方自治体（豊田市）で「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム」を形成した。2018年9月には、地元産業界より、「一般社団法人ツーリズムとよた」が新たに参画することになり、観光をはじめとする地域振興の活性化がより強化されることが期待できる。さらに2019年9月には、豊田PF形成大学等と共同研究を行う宮田電工株式会社が新規参画した。

本プラットフォームの特徴は、「ものづくり」をはじめとする地域の特性を踏まえ、大学、高等専門学校、地方自治体、産業界がそれぞれの得意分野を活かして連携・協力し、これらの取り組みを通して、有能な人材の育成と地域社会での活躍を促し、地域社会の発展に寄与する。現状分析、課題・目標、具体的な実行計画を中長期計画にまとめ、取り組んでいるところである。



1) プラットフォーム活動概要

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
地元就職の促進	各大学等の強みを活かした就職支援の他、インターンシップを通じた豊田市への就職等、地元就職を促進する	(取組1) 豊田市の医療施設への就職を促進するために就職説明会を開催 ○取組方針・具体的内容・目標等：就職説明会を開催することにより、本学学生を豊田市の医療施設へ少しでも多く就職を希望するよう推進する。 ○実施時期・期間等：毎年4月の入学式終了後実施予定 ○目標等：年間1回以上の開催 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上実施/年	例年入学式終了後に奨学金説明会を実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入学式後の2021年4月12日(月)に学内説明会を実施し、資料配付とDVDで病院紹介を行った。
健康意識の醸成	地域住民の健康意識を高める	(取組1) 摂食嚥下障害予防のためのつばめ体操普及活動実施 ○取組方針・具体的内容等：つばめ体操及び摂食嚥下障害リスク評価尺度パンフレットの普及。 ○実施時期・期間等：本学教員にて毎年2月下旬に実施予定としている。 ○目標等：地域高齢者の摂食嚥下障害の予防。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上/年	(取組1の活動実績) 例年、2月に尾張旭市総合事業一般介護予防摂食嚥下予防教室「つばめ教室」を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からつばめ教室参加登録者238名に資料を送付した。
		(取組2) ブラジル人学校における身体測定の実施 ○取組方針・具体的内容等：ブラジル人学校に通う児童の身体測定(身長・体重等)を行う。 ○実施時期・期間等：本学教員にて毎年7月～9月、ブラジル人学校にて実施予定している。 ○目標等：身体計測値を経年的に記録できる用紙(冊子)の作成。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組2の活動指標) 1回以上/年	(取組2の活動実績) 1回 2021年11月25日(木)に実施し、41名の身体計測を行った。
		(取組3) 体育館、運動場等の施設利用の促進による、地域住民の健康意識の向上 ○取組方針・具体的内容・目標等：体育館・運動場等の施設利用を地域住民に促すことで、積極的に運動等を行っていただき、健康の促進及び健康に対する意識を高める。 ○実施時期・期間等：長期休暇以外施設の利用可。 ○目標等：年間100件以上の利用促進。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組3の活動指標) 100件以上利用促進/年	(取組3の活動実績) 107件 地域住民に施設利用の促進を行い、107件の運動施設の利用があった。
防災意識の醸成	学生・地域住民の防災意識を高め、災害発生時に備える	(取組4) 共同の防災教育プログラムを実施 ○具体的内容等：キャリアアップを目的とする「防災マイスター養成講座」(履修証明プログラム)を共同で実施する。 ○実施主体(主担当)：愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組4の活動指標) 2回以上/年	(取組4の活動実績) 2回 2021年6月8日(火)に愛知工業大学本山キャンパスにおいて、「社会人防災マイスター養成講座 特別研究」を実施した。 2021年7月20日(火)に研究発表会及び修了式を実施し、第13回の養成講座を修了した。
ボランティア活動の推進	授業形式によるボランティア教育と実際に現場で体を動かすボランティア活動を推進することにより、地域貢献意識を高める	(取組1) 「ボランティア活動論」の授業を開講することによる、ボランティア活動に関する教育の実施 ○取組方針・具体的内容・目標等：ボランティア活動についての基本的知識、現状、課題、あり方について知り、学生自身が地域におけるボランティア活動を通して、地域や福祉について多角的な視野から捉え直す機会を持ち、社会性を育む。 ○実施時期・期間等：看護学科1年生後期開講予定 ○目標等：ボランティア活動についての基本的知識等の習得及び学生自身がボランティア活動に参加し、地域や福祉について多角的な視野から捉え直す機会を持たせる。また、地域におけるボランティア活動を通して、社会性をより育むことを目標としている。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1単位/年	(取組1の活動実績) 1単位 15名の履修登録者となり開講した。

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
地域学習支援の推進 (学校教育活動支援)	学生・教員・初等中等教育機関が一体となり、初等中等教育に対する教育活動支援を行う	(取組1) 高校生対象の職業意識を醸成するための出前授業・模擬授業や進学情報交換会を実施 ○取組方針・具体的内容・目標等：看護を良くしてもらい、将来、看護師として就職を希望する者を増やしたいため、進学情報交換会や模擬授業等を実施する。 ○実施時期・期間等：毎年7月中に実施予定としている。 ○目標等：年間1回以上の実施 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上/年	(取組1の活動実績) 1回/年 2021年7月5日(月)にZoomによるオンラインでの進学情報交換会を実施した。参加校は10校であった。この進学情報交換会の中でプラットフォームについても説明し、プラットフォーム形成大学等の「大学案内」等を配付し、共同での広報活動を実施した。
		(取組8)「かけっこ教室」を開催(2019年度追加取組) ○具体的内容等：豊田市が企画・提案を行う地域の小学生児童に対する体育健康教育活動。日本赤十字豊田看護大学が熱中症対策や応急手当などの健康に関する教育講座を行い、愛知工業大学及び中京大学が走り方のほか、体を作るための食生活、睡眠等の健康教育も併せて実施。 ○実施体制(主担当)：豊田市、愛知工業大学、中京大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組8の活動指標) 1回/年	(取組8の活動実績) 2021年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止した。
生涯学習の推進	高等教育機関と地域が一体となり生涯学習を推進する	(取組1) 地域住民に対する公開講座の実施 ○取組方針・具体的内容等：地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的に地域住民を対象とした公開講座を実施。 ○実施時期・期間等：本学教員において、領域ごとに実施。1年を通し、約5回の実施を予定している。 ○目標等：年間5回以上の公開講座の開講。 ○実施体制(主担当)：豊田市、中京大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 7回以上/年	(取組1の活動実績) 6回/年 公開講座 ①第4回こころの健康づくりシンポジウム 「未来を創るArtとCareの対話」 日時：2021年12月18日(土) 開催方法：オンライン 参加者：約120名 ②知って安心、認知症について 日時：2022年1月13日(木) 開催方法：対面 参加者：21名 専門職向け研修会 ①臨地実習指導のコツ 日時：2021年8月21日(土) 開催方法：オンライン 参加者：168名 ②現場で活かす医療メディアーション 日時：2022年1月22日(土) 開催方法：対面 参加者：25名 ③ストレングスマデルを活用したケア共創リカバリーを支える対話実践 日時：2022年2月16日(水) 開催方法：オンライン 参加者：5名 ④後輩指導・看護管理に活かす看護リフレクション 日時：2022年3月12日(土) 開催方法：オンライン 参加者：33名

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
生涯学習の推進	高等教育機関と地域が一体となり生涯学習を推進する	(取組 2) 大学図書館の共同利用 (地域住民への開放) ○取組方針・具体的内容等: 地域住民に開放し、知識を深めてもらう。 ○実施時期・期間等: 長期休暇以外図書館の利用可。 ○目標等: 年間 100 名以上の利用。 ○実施主体 (主担当): 愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組 2 の活動指標) 100 名以上利用/年	(取組 2 の活動実績) 中止
愛知県立豊田高等学校との高大連携		○取組方針・具体的内容等: 愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。 ○実施時期・期間等: 看護ベーシック (授業) 4 月中旬～12 月中旬 健康生活支援演習 2021 年 8 月 3 日～5 日 ○目標等: 看護に関する基本的な概念と技術の原理・原則を教授し、看護への関心を高める ○実施体制: 日本赤十字豊田看護大学	3 年生授業 2 コマ/年 2 年生健康生活支援演習 1 回/年	[3 年生] 授業 14 項目の学習 (2 コマを 22 回実施) 日時: 2021 年 4 月 14 日 (水)～12 月 15 日 (水) 場所: 愛知県立豊田高等学校 [2 年生] 健康生活支援演習 日時: 2021 年 8 月 3 日 (火)～5 日 (木) 場所: 日本赤十字豊田看護大学

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織

学術情報センター・図書館長：下間正隆

2. 情報管理・図書委員会活動報告

活動目的	1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 2) 情報環境の整備に関する事項 3) 情報化の推進に関する事項 4) その他情報管理に関して必要な事項 5) 図書の選定に関する事項 6) 視聴覚資料の選定に関する事項 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項
構成員	委員長：下間正隆 委員：森田一三、小林尚司、竹内貴子、初田真人、高見精一郎、山田誠、恒川美智子 事務局：総務課 中谷瞭、図書館課 村瀬悠香代
委員会開催回数	2回
活動概要	1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 (1) サーバ管理及び基幹ネットワーク・Wi-Fi アクセスポイント（2020年9月更新・導入）の一元管理を委託しているSCSKと協力しながら学内ネットワークシステム管理運営及び問題への対処を続行した。 (2) ファイルサーバ容量を2TBから3TBに拡張した。 2) 情報環境の整備に関する事項 (1) Wi-Fi アクセスポイントを設置し、学内にWi-Fi関連を整備した。 (2) 情報処理室・LL教室については散在的に不具合なPCが発生しているが、保守業者と調整しながら学習環境に不便が無いように対応を進めた。 (3) 教職員からの遠隔業・公演に伴う新たなソフトウェア需要への高まりに対し、使用方法の共有などを行った。 3) 情報化の推進に関する事項 (1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、遠隔授業を円滑に行うことが出来るよう、支援を続行した。 (2) 遠隔授業の導入に伴う諸問題に対し、順次対応した。 4) その他情報管理に関して必要な事項 2018年度から作成した『インターネット利用ハンドブック』を2022年度に関しても発行し、新入生・新入教職員に対して配布する。
次年度の課題	1) 2020年度に導入したWi-Fi環境に関し、より利便性を高めるよう各所へ調整をおこなう。 2) ファイルサーバの使用量に関して遠隔授業等の活用により圧迫されている状況があるため、内容整理について教職員へ周知を行う。 3) 遠隔授業の実施をサポートし、文部科学省の動向を踏まえながらより良い授業方法を引き続き検討する。 4) 各教室のPC端末保守について遅延なく行う。

3. 学術情報センター・図書館主催活動実績

1) CINAHL 検索講習会（実施日：2021年7月7日（水））

（単位：名）

院生	5
教員	4
計	9

2) 科学研究費助成事業レビュー取次 1件

3) 助成金募集リスト 24件

4) 学術情報リポジトリ公開 12件

4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料

		和(数)	金額(円)	洋(数)	金額(円)	計(数)	金額計(円)
2020年度 累積	図書	46,213	158,694,289	2,980	27,687,182	49,193	186,381,471
	製本雑誌	4,517	8,686,622	571	1,113,504	5,088	9,800,126
	視聴覚資料	2,247	45,232,155	4	32,808	2,251	45,264,963
2021年度 (購入)	図書	961	4,077,684	45	501,475	1,006	4,579,159
	製本雑誌	77	182,105	9	21,285	86	203,390
	視聴覚資料	39	982,588	0	0	39	982,588
2021年度 (寄贈)	図書	23	39,091	0	0	23	39,091
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	0	0	0	0	0	0
2021年度 除籍	図書	477	2,124,594	0	0	477	2,124,594
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	12	424,593	0	0	12	424,593
2021年度 累積	図書	46,720	160,686,470	3,025	28,188,657	49,745	188,875,127
	製本雑誌	4,594	8,868,727	580	1,134,789	5,174	10,003,516
	視聴覚資料	2,274	45,790,150	4	32,808	2,278	45,822,958
	合計						244,701,601

〈2021年度受入〉図書：1,029冊（含洋図書：45冊、含電子ブック113タイトル）

製本雑誌：86冊（含洋製本雑誌：9冊）

視聴覚資料：39タイトル（すべてDVD）

*他に新書・文庫・問題集：102冊（消耗品として購入209,487円）

5. 年間購読雑誌

(単位:種)

和雑誌	70	
洋雑誌	14	(電子ジャーナル8種含む)
計	84	

6. 電子ジャーナル

和雑誌1,518種／洋雑誌1,814種

1) 電子ジャーナル一覧

- ① メディカルオンライン
- ② 最新看護索引 Web
- ③ CINAHL with FullText/MEDLINE with Full Text
- ④ Cochrane Library
- ⑤ 洋雑誌 (10種)

7. 利用者数

1) 入館者数

(単位:名)

入館者延べ数	30,410
平日平均	123
土曜平均	37

2) 利用者・資料別年間貸出統計

	図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚資料(本)
1年生	281	17	2
2年生	824	10	21
3年生	2,631	129	5
4年生	1,856	123	5
大学院生	262	5	0
卒業生・修了生	0	0	0
聴講生・科目履修生等	19	0	0
教職員	1,096	21	239
合計	6,969	305	272

3) 施設・備品利用件数

	回数(回)	人数(人)
AVルーム/共同学習室	90	202
Surface貸出	293	260

4) 電子ブック閲覧数

(単位:回)

閲覧回数	2,655
------	-------

8. 文献複写サービス

(単位:件)

	複写	現物貸借	計
他館へ申込	394	4	398
他館より受付	625	19	644

VIII 国際交流

1. MOU に基づく交流

本学は国際交流活動の一環として、タイ赤十字看護大学（Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing、以下 STIN）と看護に関する交流及び教育研究協力を行う MOU（了解覚書）を交わしており、2017 年より STIN の学生を本学に受け入れ交流を行っている。

2021 年度は本学から学生を派遣する計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け 2020 年度に続き中止となった。

対面での交流の代わりとして、2020 年度よりオンラインツールを使用した交流会を実施しており、2021 年度は 7 月と 1 月の 2 回開催した。

本学からは 3～1 年生の計 23 名、STIN からは約 80 名の学生が参加し、英語で交流を行った。学生は事前に準備したパワーポイントを使い、自国の日常の挨拶（おはよう、こんにちは等）や祝日の行事、家庭料理等について互いに話した。

また、学生同士が自由なテーマで活発に交流ができるよう質疑応答の時間も設けた。

異文化を理解し広い視野を持つ看護師を育成するため、このようなオンラインでの交流も含め今後も頻繁に国際交流の機会を持ちたいと考えている。

2. 英国語学研修プログラム

本学では赤十字事業の一つである国際救援事業へ繋げる学びの機会として英国語学研修を設け、希望する学生に英国での語学研修を実施している。

英国南西部の歴史ある港町プリマスでホームステイをしながら、午前中は語学学校で英語のレッスンを受講し、午後は赤十字社や医療機関・福祉施設・大学（看護学部）・ボランティア団体などを訪問するスケジュールとなっており、現地で働く人々との交流を通じて、英国の医療や福祉の最前線の活躍及び日本とは異なる医療・福祉の環境や看護の方法を学びながら英語力を高めることを目標としている。

帰国後には研修成果を英語でプレゼンテーションする報告会を設けており、実践的な英語力及びプレゼンテーション能力を身につけるとともに、自身の経験を振り返ることで今後の学修・行動目標を見つけ出す機会としている。

2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となったが、今後も継続して実施する。

IX 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る」ことを基本方針として、2020年3月30日に立ち上げられた新型コロナウイルス感染予防対策本部会議は、2021年度には10回、通算で29回開催された。

本会議では基本方針に基づき、感染対策に必要な物品の確保や学生及び教職員への啓発について議論を重ね、日本赤十字豊田看護大学新型コロナウイルス感染予防対策指針 Ver.3.0による適切な授業形態の変化及び活動の制限を行った。また、豊田市からの要請に基づきワクチン接種支援班を組織し、地域住民への感染予防に貢献した。

今後も新型コロナウイルス感染症の影響は続くと予想されるため、学内外の組織と連携を密に取りつつ、学生・教職員及び地域の安全を守る為に活動を続けていく。

審議・報告された主な内容は以下のとおり。なお、活動に関する詳細については日本赤十字豊田看護大学紀要第16巻に掲載している。

- 1) 学内の感染予防対策
- 2) ハイブリット型授業形態（対面型・オンライン型併用）実施についての調整（学生ネットワーク環境・使用可能機器調査、学内ネットワーク負荷調査等）
- 3) 臨地実習・学内実習・学内演習にかかる感染予防対策の検討、健康観察手順の確認
- 4) 学内における食事環境の確認・調整（感染状況に合わせた食事場所の開放、食堂3・4階へアクリルパーテーション設置等）
- 5) 感染者発生時の情報共有フロー
- 6) 学生・教職員の感染状況把握
- 7) 学生・教職員のワクチン接種状況
- 8) 豊田市新型コロナワクチン集団接種への支援体制・内容の検討

1. 新型コロナウイルス感染予防対策本部

1) 組織

(1) 対策本部

	担当者		役割
本部長	学長	鎌倉やよい	・本部を統括する
副本部長	ICD	下間正隆	・本部長を補佐する
	学部長	村瀬智子	
	研究科長	山田聡子	
	事務局長	山田誠	
本部要員	災害対策委員会委員長	小林洋子	
	看護管理学教授	松浦正子	
	公衆衛生看護学教授	長谷川喜代美	
対策本部事務局	総務課		・連絡窓口、会議調整等

(2) 機能班

班名	担当者		役割
講義・演習班	災害対策委員会委員長	小林洋子	・講義・演習の感染予防対策の計画・実施・検証
	教務委員会委員長	小林尚司	・本部分針に基づく授業の調整・実施・検証
実習班	実習検討委員会委員長	原田真澄	・実習での感染予防具体策の提示・物品準備 ・実習施設可否の確認と否の場合は代替案の調整 ・実習施設の実習要件の取りまとめ
	成人看護学領域教授	東野督子	・サポート
	学部長	村瀬智子	・サポート
大学院教務・学生班	教務・学生委員会委員長	長谷川喜代美	・大学院授業調整、大学院生健康管理等
	研究科長	山田聡子	・サポート
学生班	学生委員会委員長	松浦正子	・学生自治会活動に関する自治会長との調整
	学部長	村瀬智子	・サポート
生活活動班	事務局長	山田誠	・設備に関する感染予防対策の実施管理
一換気	(実務担当: 経理課・関電ファシリティーズ)		・機械換気の計画・実施
一食堂	(実務担当: 総務課)		・食堂の感染予防対策管理
一スクールバス	(実務担当: 経理課)		・スクールバスの運行管理

班名	担当者	役割
情報収集班	総務課長	・WHO・国・県・法人本部
設備・備品班	研究科長 山田聡子	・消耗品（マスク等感染防止用品含む）の管理、整備
	事務局長 山田誠	・設備・備品の管理
学生連絡・調査班	学務課長	・学生からの体調不良連絡の受付・記録・報告 ・学生への連絡事項の発信
学生対応班	学部長 村瀬智子	・発症者発生時の学生への個別対応
教職員対応班	総務課長	・教職員からの体調不良者連絡の受付・記録・報告
	事務局長	・テレワーク等の検討・整備
広報班	企画地域交流課長	・HPから本学の感染予防対策に関する情報発信 ・対策本部ページの整備・運用
ワクチン接種支援班	災害対策委員会委員長 小林洋子	・新型コロナウイルスワクチン接種方法の検討
	ICD 下間正隆	・サポート
	成人看護学領域教授 東野督子	・サポート
	学部長 村瀬智子	・サポート
	事務局長 山田誠	・サポート
	総務課長	・豊田市との連絡・調整

(3) 作業部会

部会名	責任者	役割
感染症フロー	ICD 下間正隆	・感染症対応手順作成・検証等
	公衆衛生看護学教授 長谷川喜代美	
消毒方法・手順	ICD 下間正隆	・消毒方法手順作成・物品準備・検証等
	公衆衛生看護学准教授 清水美代子	
情報ネットワーク支援	情報ネットワーク支援室長 森田一三	・遠隔教育デバイスの検証等

2) 基本方針

「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る。」

日本赤十字豊田看護大学新型コロナウイルス感染予防対策指針 Ver.3

警戒レベル	本学の感染予防対策実施方法	
	講義・演習・実習	課外活動等(クラブ・サークル・自治会活動等)【学外対応】
注意	感染予防対策の上で ・講義・演習・実習(対面授業)を実施。	感染予防対策の上で ・課外活動等を実施。 ただし、学外者とともに活動する場合は事前に大学の許可を得ること。
警戒	感染予防対策の上で、 ・講義・原則として対面授業を実施。 ・演習(技術演習・ゼミナール) :対面授業と遠隔授業を併用して実施。 対面授業は人数を制限して実施。 ・体育実技 :テニスコート・グラウンドで実施。 原則として体育館は使用しない。 ・実習(臨地) :①原則として対面授業を実施。 ②必要に応じて、人数、日程、方法を施設と調整。 ③②の調整が困難な時には、(学内)に変更。 ・実習(学内) :人数を制限して対面授業を実施。	感染予防対策の上で、 ・屋外での課外活動が可能。 ・活動時間は2時間/日以内を目安とすること(テニスコート、グラウンド等)。 ・飲食を伴う会議や密閉・密集・密接となる行事、集会、集会等は禁止。 ・原則として、イベント、大会、試合(練習試合を含む)、合宿等は中止。応援席ではマスクを着用する。 ・個別の事例は事務局に相談すること。 <活動の例> ○ 密を避けたテニスサークルのテニスコートでの活動 ○ 密を避けた屋外でのボランティア活動 ○ オンラインでの勉強会 × 体育館でのバレーボール、バドミントン等 × 音楽ライブ等を実施すること × 病院や介護老人保健施設での高齢者を対象としたボランティア活動 【学外者の図書館利用を原則として不可とする。】
厳重警戒	感染予防対策の上で、 ・講義は対面授業と遠隔授業を併用して実施。 ・演習・実習は原則として警戒レベルの実施方法とする。 ・感染拡大状況に応じて実施方法を見直し、遠隔に切り替える。	全ての活動(SNS等ネット上での活動を除く)を中止 【学外者の図書館利用を不可とする。】
危険	感染予防対策の上で、 ・講義の実施(遠隔授業のみ実施) ・演習の実施(遠隔授業のみ実施) ・実習の実施(原則として厳重警戒レベルの実施方法とする)	全ての活動(SNS等ネット上での活動を除く)を中止 【学外者の図書館利用を不可とする。】
食事場面の基準	全ての警戒レベルにおいて 黙食 を徹底する。	

※本学の予防指針は、愛知県の感染レベルを参考にした警戒レベルとする。
※この指針に基づき、実施することを原則とする。愛知県内の情報を総合的に判断し、最終的には対策本部が決定する。

X 教員研究業績・社会活動一覧

I. 研究業績

1. 著書

- 1) 深田順子, **鎌倉やよい**: 周術期の臨床判断を磨くⅡ, 1-224, 医学書院, 2021.12
- 2) **神道那実** (分担執筆), 浅野みどり, 杉浦太一, 大村知子 (編): 発達段階からみた小児看護過程 第4版, 101-113, 389-400, 588-598, 686-698, 703-716, 医学書院, 東京都, 2021.10.15
- 3) 水越真代, **清水美代子** (編), 岡田賀子, 佐藤知子, 土本千景, 藤島詩野, 前田洋子, 宮井好美, 湯浅記久子 (分担執筆): 健康教室づくりの極意: 健康教室にひっぱりだこの保健師・栄養士がごっそり語る, 77-94, 三恵社, 愛知県名古屋市, 2021.9
- 4) **松浦正子** (分担執筆): 日本看護管理学会学術活動推進委員会編集, 看護管理用語集第3版, 日本看護協会出版会 196-197, 2021.11
- 5) 日本看護管理学会学術活動推進委員会: ウィリアムソン彰子, 浅香えみ子, 井上真奈美, 大原彰子, 岡島恵子, 金子さゆり, 貞方三枝子, **南谷志野**, 深澤優子, 矢野祐美子 (分担執筆): 看護管理用語集: 第3版, 160-163, 日本看護協会出版会, 東京都, 2021.11
- 6) **下間正隆**: カラーイラストで学ぶ新型コロナウイルスの感染対策, 金芳堂, 京都府, 2021.5

2. 学術論文

- 1) 深田順子, **鎌倉やよい**, 渡邊直美, 西岡裕子, **松田優子**: 「つばめ体操」の口腔機能, 呼吸機能, 頸部・肩部の筋硬度および四肢筋肉量からみた効果: 若年健常女性におけるパイロットスタディ, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌, 25 (3), 229-237, 2021
- 2) 羽根司人, 芝田登美子, 大谷喜美江, **廣田直美**, **清水美代子**, **長谷川喜代美**, 福森哲也, **森田一三**: 要保護児童のう蝕有病状況と生活習慣, 日本歯科医療管理学会雑誌, 56 (1), 42-54, 2021.6
- 3) **初田真人**, 村瀬智子: 非専門職の看護補助者が同行する精神科訪問看護に関する訪問看護師, 非専門職者および利用者の認識, 日本精神保健看護学会誌, 30 (1), 66-72, 2021.6
- 4) 速水佳世, 夏日長門, 青柳公夫, 砂川元, 牧野日和, 池上由美子, **東野督子**, 井村英人, 川奈剛之, 相原喜子, 新崎章, 梅田正博, 星和人: 口腔ケアに関する一般人の認識調査-第1報 2020年調査報告-, 日本口腔ケア学会誌, 16 (1), 1-4, 2021.3
- 5) 樋口幸, **巻野雄介**, 田中佳子, 大貝和裕: 微酸性電解水の1週間反復噴霧がヒト皮膚に与える影響-二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験-, 看護理工学会誌, 9, 72-80, 2022.1
- 6) 伊藤秀美, **岡田摩理**: 自閉症に関する専門的知識のある看護師による幼児期の自閉症児の親に対する子育て支援, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 17 (1), 3-15, 2022.3
- 7) **鎌倉やよい**, 湯海鵬, 石垣享, 深田順子, 坂上貴之: 高齢者の摂食嚥下機能向上のための「つばめ体操」に関する運動負荷の検討, 愛知県立大学看護学部紀要, 27, 25-32, 2021
- 8) **鎌倉やよい**: 日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染予防対策, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 16 (1), 13-26, 2021
- 9) 金子さゆり, **松浦正子**, ウィリアムソン彰子, 川崎つま子, 平岡翠, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子: 看護管理者のキーコンピテンシーの構成要素とキーコンピテンシー獲得プロセスの構造化, 日本看護管理学会誌, 25 (1), 139-150, 2021.1
- 10) 小森久美子, 木村知子, **南谷志野**: 中規模病院の看護部長が就任後に直面する課題, 聖泉看護学研究, 11, 1-9, 2022.3
- 11) **近藤香苗**, **小林尚司**, **長谷川喜代美**, **森田一三**: 呼吸管理の状況の異なる COPD 患者間における看護師による患者教育実施率の違い, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 29 (3), 446-452, 2021.6
- 12) **近藤香苗**, **白井かおり**, **橋本亜弓**, **清水みどり**, **小林尚司**: 高齢者に対する活動と休息の援助における臨床判断力の獲得を意図した学習プログラム, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 17 (1), 17-24, 2022.3

- 13) 近直子, **山田聡子**, **中島佳緒里**, **巻野雄介**: 臨地実習指導者の役割遂行における自己評価指標の開発, 日本看護学教育学会誌, 31 (3), 1~10, 2022.3
- 14) 小倉久美子, **山田聡子**: ICUにおける人工呼吸患者の苦痛に対する看護実践, 日本クリティカルケア看護学会誌, 17, 89-97, 2021
- 15) 小倉久美子, 篠田かおる, 横井達江, **河村諒**, 諏訪美栄子, 鈴木里美, 八島妙子: 肉眼解剖実習における看護学生の気づき-献体者への思いと生命の尊厳に関する記述-, 日本医学看護学教育学会誌, 30 (1), 6-13, 2021.5
- 16) **岡田摩理**, 石井成郎, 佐久間佐織, 田島真智子, 伊東裕康: 卒業後3年目までの看護師の学生時代と看護師になってからの学習行動の変化と影響要因-A病院の3年課程を卒業した看護師のインタビュー調査から-, 日本看護学教育学会誌, 31 (2), 107-119, 2021.11
- 17) **岡田摩理**, 泊祐子, 市川百香里, 遠渡絹代, 濱田裕子, 部谷知佐恵, 赤羽根章子, 叶谷由佳: 小児の訪問看護において診療報酬で算定できないサービスの内容と経営を安定させるための対応, 日本看護研究学会雑誌, 44 (5), 777-790, 2022.1
- 18) Otake E, Ota K, Ikegami C, Niimi Y, **Yamada S**, Maeda J, Matsuda M: Proxy evaluation of dignity expectations and satisfaction of older patients with dementia by family members and nurses., Nursing Open, 8 (6), 3120-3134, 2021.8
- 19) 佐伯暢隆, **大西文子**: 成人期の小児血液疾患経験者における就労ニーズに対するセルフケア状況, 小児がん看護, 16 (1), 22-33, 2021.10
- 20) 櫻間知佐子, **山田聡子**, **中島佳緒里**: 中高年看護師のワーク・エンゲイジメントと看護実践能力との関連, 日本看護管理学会誌, 25 (1), 34-45, 2021
- 21) **高見精一郎**, **近藤香苗**, **森田一三**: “赤十字”に対する社会的イメージの研究, 日本赤十字看護学会誌, 22 (1), 20-28, 2021.8
- 22) 泊祐子, **岡田摩理**, 遠渡絹代, 市川百香里, 部谷知佐恵, 濱田裕子, 叶谷由佳, 赤羽根章子: 小児専門訪問看護ステーションにおける医療依存度の高い重症心身障がい児ケアの専門的役割と機能, 日本看護研究学会雑誌, 44 (4), 647-656, 2021.10
- 23) 渡邊直美, **鎌倉やよい**, 深田順子: 喉頭摘出術を受けた患者の退院後の生活における問題と対処, 日本がん看護学会誌, 35, 45-56, 2021

3. 学会発表

- 1) **遠藤幸子**, **大西文子**: 保育所における食物アレルギー児への対応の現状と課題に関する文献検討, 第41回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2021.12.4-5 (Web配信 11.19-12.28)
- 2) **深谷由美**, 田島真智子: 地域包括支援センターの看護職の責務 (第2報), 第80回日本公衆衛生学会, 京王プラザホテル (東京・Web開催), 2021.12-21-2022.3.14
- 3) **原田真澄**, **下間正隆**, **東野督子**, 村瀬智子, **大西文子**: 新型コロナウイルスの感染予防の講義を受けた看護学生の感染予防行動の実態, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2021.7.3
- 4) **Higashino T**, **Onodera R**, **Koyama J**, **Ishida E**, **Kawamura R**: 90. Investigation on the contamination of the surroundings caused by oral care, The 1st Annual Meeting of International Society of Oral Care (Web & Tokyo), Web & 東京, 2021.4.17-18
- 5) 本多彩葉, **岡田摩理**: 手記から見る自閉症スペクトラム児の心理と言動, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2021.7.3-4 (Web配信 6.13-7.19)
- 6) 細野知子, 池口佳子, 北尾良太, 齋藤貴子, 坂井志織, **羽川綾子**, 村上優子: 看護実践に根ざした研究疑問を実現させる現象学的研究の可能性, 第41回日本看護科学学会, Web & 愛知, 2021.12.4-6
- 7) **石田咲**, **東野督子**, 小山順子, **河村諒**: 85. 関東地区の訪問看護師が在宅で療養する要介護高齢者に実施している口腔ケアの実態調査, 第18回日本口腔ケア学会学術集会, Web & 東京, 2021.4.17-18

- 8) **Ishida E, Higashino T, Koyama J, Kawamura R** : 86. Survey of home oral care provided by visiting nurses for elderly people who require nursing care in the Kanto Region, The 1st Annual Meeting of International Society of Oral Care (Web & Tokyo), Web & 東京, 2021.4.17-18
- 9) 伊藤秀美, **岡田摩理** : 幼児期に自閉症と診断を受けた子どもの親に子育て支援として看護師ができること, 日本小児看護学会第31回学術集会, Web開催, 2021.6.26-27 (Web配信 7.1-31)
- 10) **神道那実, 大西文子, 岡田摩理, 遠藤幸子, 鳥居賀乃子, 飯田大輔** : 小児看護におけるプレパレーション5段階の実施状況と学習経験との関連, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2021.7.3-4 (Web配信 6.13-7.19)
- 11) **神道那実, 大西文子, 岡田摩理, 遠藤幸子, 鳥居賀乃子, 飯田大輔** : プレパレーションの学習経験・実施経験と看護師の属性との関連, 日本小児看護学会第31回学術集会, Web開催, 2021.6.26-27 (Web配信 7.1-31)
- 12) **神道那実, 大西文子, 岡田摩理, 遠藤幸子, 鳥居賀乃子, 飯田大輔** : 小児看護の専門性を活かしたプレパレーションに必要な資源と診療報酬に反映してほしい看護技術, 日本小児看護学会第31回学術集会, Web開催, 2021.6.26-27 (Web配信 7.1-31)
- 13) 加藤万里代, **山田聡子, 中島佳緒里** : 看護師長の管理能力と経験学習力との関連, 第25回日本看護管理学会学術集会, Web開催, 2021.8.28-9.27
- 14) 金子さゆり, **松浦正子, ウィリアムソン彰子, 井本英津子, 川崎つま子, 平岡翠** : インフォメーション・エクステンジ9 看護管理者のキーコンピテンシー向上のための研修を考える, 第25回日本看護管理学会学術集会, Web開催, 2021.8.28
- 15) 金丸明日香, **岡田摩理** : 医療的ケア児を養育する父親の思い・意識、行動の変化, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2021.7.3-4 (Web配信 6.13-7.19)
- 16) 加納美代子, 笠原幸恵, **松田優子, 伴幸俊** : 行
- 政・医療機関・教育機関との連携による新任訪問看護師の育成に関する実践報告-B訪問看護師育成センター2020年度事業活動と看護の課題-, 第3回日本在宅医療連合学会大会, Web開催, 2021.11.27-28
- 17) **河村諒, 東野督子, 小山順子** : 91. 北海道, 東北地方の要介護高齢者に関わるケアマネジャーの口腔ケアの取り組みの実態, 第47回日本看護研究学会, Web & 仙台, 2021.8.21-22
- 18) **河村諒, 松田優子** : 広域避難高齢被災者への継続的な生活支援におけるボランティアスタッフの困難と対応, 第41回日本看護科学学会学術集会, Web & 愛知, 2021.12.4-5
- 19) **小林洋子** : 看護大学における災害への備え, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, 愛知県 (Web開催), 2021.7.3
- 20) **近藤絵美, 正木治恵** : 豊かな存在としての高齢者のあり様に着目したリフレクションシートの有用性の検討, 千葉看護学会 第27回学術集会, Web開催, 2021.8.29-9.27
- 21) **近藤香苗, 臼井かおり, 橋本亜弓, 清水みどり, 小林尚司** : 臨床判断能力向上を目指した老年看護学の学内実習プログラムの作成—慢性閉塞性肺疾患・心不全高齢者の看護実践プログラムをとおして—, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2021.7.3-4
- 22) 近直子, **山田聡子, 中島佳緒里** : 臨地実習指導者の役割遂行自己評価指標の開発, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2021.6.18-7.19
- 23) 小山順子, **東野督子, 石田咲, 河村諒** : 87. 関東地方の介護支援専門員の口腔ケアに関する実態調査, 第18回日本口腔ケア学会学術集会, Web & 東京, 2021.4.17-18
- 24) **Koyama J, Higashino T, Ishida E, Kawamura R** : 88. Survey of care managers in the Kanto Region on the status of oral care, The 1st Annual Meeting of International Society of Oral Care (Web & Tokyo), Web & 東京, 2021.4.17-18
- 25) 丸山智美, **森田一三** : 食塩摂取に気をつけている意識をもつ勤労者の食品摂取の特徴,

- 80 回日本公衆衛生学会総会，東京，web，2021.12.21-23
- 26) **松田優子**，**下間正隆**：地域の介護施設の感染対策力を向上するための行政・大学・施設の三者協働による取り組み，第 22 回日本赤十字看護学会学術集会，Web 開催，2021.7.4
- 27) **松田優子**，**近藤香苗**，**小林尚司**，**森田一三**，**下間正隆**：特別養護老人ホーム感染対策担当者が考える、強化が必要なケアスタッフの感染対策に関する技術・知識，第 36 回日本環境感染学会学術集会，愛知県（Web 開催），2021.9.20
- 28) **森田一三**：シンポジウム：次世代につなげる歯科保健教育，第 67 回日本学校保健学会，日進，web，2021.11.5-30
- 29) **森田一三**，**稲川祐成**，**中嶋誠治**，**杉浦石根**，**野村岳嗣**，**阿部義和**，**谷口裕重**，**丸山智美**：ベイズ更新を用いた口腔機能検査値から食事を摂ることに満足する確率の算定方法の作成，80 回日本公衆衛生学会総会，東京，web，2021.12.21-23
- 30) **長尾佳世子**，**藤井愛海**，**小林洋子**：新型コロナ感染禍における災害看護学演習の試み，第 22 回日本赤十字看護学会学術集会，愛知県（Web 開催），2021.7.3-4
- 31) **南谷志野**，**松浦正子**，**村瀬智子**：4 年次統合実習（看護管理領域）の先行的取り組み - 行政・職能団体等の連携、起業を学ぶ臨地実習の実施 - ，第 22 回日本赤十字看護学会学術集会，Web 開催，2021.7.4
- 32) **Noguchi M**，**Tagaya A**，**Shibata S**，**Oshima K**，**Osada C**，**Kimata M**：Effect of prenatal yoga on the autonomic nervous system activity and its relationship with the dynamism of postnatal depression, mother-infant bonding, and breastfeeding, ICN Congress 2021, Web 開催，2021.11.2-4
- 33) **小塩泰代**，**白井裕子**，**佐々木裕子**，**橋本亜弓**，**溝口広紀**，**野原萌**，**室若葉**，**井上清美**，**稲垣絹代**：野宿生活者 B 氏が野宿生活を続ける理由 -20 年以上野宿生活を続ける B 氏の語りから - ，第 24 回日本地域看護学会学術集会，Web 開催，2021.8.27-9.26
- 34) **大西淑美**，**藤原夕子**，**石原佳代子**，**若林宣江**：ワークショップ 3「口腔ケアの難しい疾患」，第 18 回日本口腔ケア学会学術集会，Web & 東京，2021.4.18
- 35) **大野晶子**，**石原佳代子**，**佐伯香織**，**水谷聖子**，**東野督子**，**大谷喜美江**，**鈴木紀子**：84. 医療施設に勤務する看護職の口腔ケアに対する認識，第 18 回日本口腔ケア学会学術集会，Web & 東京，2021.4.17-18
- 36) **小野寺理沙**，**東野督子**，**石田咲**，**河村諒**，**小山順子**：89. 口腔ケアによる模擬唾液の飛散の実態調査，第 18 回日本口腔ケア学会学術集会，Web & 東京，2021.4.17-18
- 37) **Osada C**，**Noguchi M**，**Tagaya A**：A report on the distribution of galactostasis sites in breastfeeding mothers, ICN Congress 2021, Web 開催，2021.11.2-4
- 38) **坂井田綾子**，**長田知恵子**，**野口眞弓**：妊娠期から産後 1 か月の妊産婦の抑うつに関連する要因の文献レビュー，第 22 回日本赤十字看護学会学術集会，Web 開催，2021.7.11
- 39) **坂井田綾子**，**長田知恵子**，**野口眞弓**：妊娠期から産後 1 か月の妊産婦の抑うつ状態の縦断的調査，第 41 回日本看護科学学会学術集会，Web 開催，2021.12.5
- 40) **清水美代子**，**大谷喜美江**，**廣田直美**，**吉岡美紀**：コロナ禍における産業保健実習の一事例，第 94 回日本産業衛生学会学術集会，長野県（Web 開催），2021.5.24-6.30
- 41) **清水美代子**，**百田武司**：家族介護者の介護負担感に関連する要因の文献検討，第 22 回日本赤十字看護学会学術集会，Web 開催，2021.7.4
- 42) **下間正隆**：コロナ対策の目には見えない二つの相手は「ウイルス」と「人の心」です，第 22 回日本赤十字看護学会（教育講演），Web 開催，2021.7.4
- 43) **下間正隆**：モニタロウがある時、ない時，第 39 回日本手術看護学会九州地区大会，Web 開催（ランチョンセミナー），2021.7.17
- 44) **下間正隆**：新型コロナ時代の「高齢者介護施設の感染対策力・底上げシステム」の構築について（教育講演），第 36 回日本環境感染学会，愛

- 知県, 2021.9.20
- 45) **下間正隆, 松田優子**:「介護施設の感染対策教育システム」および「感染管理介護士」制度の構築への取り組み, 第3回日本在宅医療連合学会, Web 開催, 2021.11.27
- 46) **下間正隆**: モニタロウがある時、ない時, 第35回日本手術看護学会, Web 開催 (ランチョンセミナー), 2021.10.15
- 47) 白井裕子, 佐々木裕子, 小塩泰代, **橋本亜弓**, 溝口広紀, 野原萌, 室若葉, 井上清美, 稲垣絹代: 野宿生活の長期化に与える野宿生活者の経験-15年野宿生活を続けるA氏の語りから第2報-, 第24回日本地域看護学会学術集会, Web 開催, 2021.8.27-9.26
- 48) 杉浦石根, 稲川祐成, 中寫誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, 谷口裕重, 丸山智美, **森田一三**: 自立高齢者における口腔機能低下症有病率, 80回日本公衆衛生学会総会, 東京, web, 2021.12.21-23
- 49) **鈴木寿摩, 森久子**: 看護大学における一般教養科目の役割—英語教育の観点から, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web 開催, 2021.7.3
- 50) 田島真智子, **深谷由美**: 地域包括支援センターの看護職の責務に関するインタビュー調査 (第1報), 第80回日本公衆衛生学会, 京王プラザホテル (東京・Web 開催), 2021.12-21-2022.3.14
- 51) 高島孝晃, **原田真澄**, 村瀬智子: 自殺企図のある心の病をもつ人に対する精神科熟練看護師の臨床判断と援助内容の特徴, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web 開催, 2021.7.4
- 52) 富田美香, **大西文子, 岡田摩理**: 小児看護専門看護師が行う長期入院した子どもをもつ家族の家族機能のアセスメント方法, 日本小児看護学会第31回学術集会, Web 開催, 2021.6.26-27 (Web 配信 7.1-31)
- 53) **栩川綾子**, 細野知子, 齋藤貴子, 守田美奈子: 複合災害後10年を経た地域への看護支援の明確化-福島県に関する看護研究のレビューを通して, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web & 愛知, 2021.7.3-4
- 54) **栩川綾子**: 糖尿病足病変患者の未来に駆り出される看護師—身体に訴える出来事を契機に, 臨床実践現象学学会第6回大会, Web & 福井, 2021.9.18
- 55) **栩川綾子**, 細野知子: 糖尿病とともに生きることを学ぶ経験に関する文献検討—スウェーデンの現象学的研究・実践に着目して—, 第41回日本看護科学学会, Web & 愛知, 2021.12.4-5
- 56) **臼井かおり, 近藤香苗, 橋本亜弓, 清水みどり, 小林尚司**: 臨床判断力向上を目指した老年看護学の学内実習プログラムの作成—褥瘡予防ケア演習の試みから—, 第22回日本赤十字看護学会学術集会, Web 開催, 2021.7.3-4
- 57) **臼井かおり**, 久米淳子, 加下井玲子, 篠田道子: 新型コロナウイルス感染症第1波における介護老人保健施設の危機管理, 第20回研究大会日本ケアマネジメント学会, Web 開催, 2021.7.12-27
- 58) ウィリアムソン彰子, 野村悦子, 西田郁子, **松浦正子**: 新人看護師の社会人基礎力の現状と成長に影響する能力要素, 第41回日本看護科学学会学術集会, Web 開催, 2021.12.4-5
- 59) ウィリアムソン彰子, 浅香えみ子, 井上真奈美, 大原彰子, 岡島恵子, 金子さゆり, 貞方三枝子, **南谷志野**, 深澤優子, 矢野祐美子: 新型コロナパンデミック禍の経験から持続可能な看護管理に向けて, 第25回日本看護管理学会学術集会, 神奈川県 (Web 開催), 2021.8.29
- 60) 渡邊直美, **鎌倉やよい**, 深田順子, 坂上貴之: 喉頭摘出者の患者会における食道発声法の指導効果, 日本行動分析学会第39回年次大会, Web 開催, 2021.8.28-29
- 61) Williamson A, **Matsuura M**, Kaneko S: The construction and evaluation of key competency improvement programs for nursing managers in JAPAN, ICN Congress 2021, Web 開催, 2021.11.2-11.4

4. その他刊行物

- 1) **石黒千映子**, 生田美智子: 最先端医療の今—がんと糖尿病を併せ持つ患者の支援の現状と課題, Medical Science Digest, 47 (6), 327-

- 329, 2021.6
- 2) **小林洋子**：本学における新型コロナウイルスワクチン集団接種支援体制，日本赤十字豊田看護大学紀要，17 (1)，51-53，2022.3
 - 3) **松浦正子**：管理者が知っておきたいリーダー導入・活用のポイント，ナーシングビジネス，15 (7)，6-9，2021.7
 - 4) **松浦正子**：相手・状況に合わせた役割やパーソナリティになりきろう，月刊ナースマネジャー，23 (6)，2-5，2021.8
 - 5) **松浦正子**：大学院進学で何が変わる？看護管理者のキャリア設計，ナーシングビジネス，1 (15)，32-36，2021.1
 - 6) **松浦正子**，秋山智弥，伊藤達也：働き方改革で看護の現場はどう変わるのか？－タスク・シフティングの意義と課題，ナーシングビジネス，15 (11)，6-11，2021.1
 - 7) **松浦正子**，ウィリアムソン彰子：キーコンピテンシー獲得に向けた教育プログラム - プログラムA-，看護管理，31 (10)，888-891，2021.1
 - 8) **松浦正子**：意思決定，看護管理，31 (10)，882-885，2021.1
 - 9) **松浦正子**：実習受け入れと新人教育 - 病院全体で未来の看護師を育てる - ，ナーシングビジネス，16 (3)，6-10，2022.2
 - 10) 大澤功，宮井信行，鈴江毅，朝倉隆司，池添志乃，上地勝，上村弘子，黒川修行，佐々木司，住田実，高橋浩之，竹鼻ゆかり，**森田一三**：査読委員制度発足にあたって，学校保健研究，63 (1)，43-46，2021.4
 - 11) **長田知恵子**，**野口眞弓**，村瀬ゆかり：助産師が集い，意見交換する“写真からみる乳腺炎”研修会の活動報告，助産師，75 (2)，54-57，2021.5.1
 - 12) **下間正隆**，**松田優子**：介護施設で夏場に気を付けたい食中毒，認知症ケア，22 (2)，44-49，2021.6
 - 13) **下間正隆**：日本赤十字豊田看護大学における新型コロナワクチン接種を効果的に行う工夫，日本赤十字豊田看護大学紀要，17 (1)，41-50，2022.3

- 14) **栩川綾子**：【糖尿病治療とケアの最前線～糖尿病治療の最新の知見とケアのあり方～】身体に根差した看護 糖尿病合併症患者の看護をとおして，看護のチカラ，26 (556)，37-43，2021.5

II. 社会活動

1. 学会理事等役員・委員会委員

- 1) 愛知県看護協会 学会委員会 委員：**南谷志野**
- 2) 愛知県認定看護管理者教育課程教育運営委員会 運営委員：**松浦正子**
- 3) あいち小児保健協会
理事：**大西文子**
- 4) 国際口腔ケア学会
理事：**東野督子**
- 5) 産業・組織心理学会
理事：**南谷志野**
- 6) 東海学校保健学会
評議委員：**森田一三**
編集委員長：**森田一三**
- 7) 東海病院管理学会
世話人：**高見精一郎**
- 8) 日本学校保健学会
代議員：**森田一三**
編集委員：**森田一三**
- 9) 日本がん看護学会
代議員：**鎌倉やよい**
- 10) 日本看護医療学会
評議員：**大西文子**
- 11) 日本看護科学学会
代議員：**山田聡子**，**野口眞弓**，**大西文子**
英文誌編集委員会 委員：**野口眞弓**
- 12) 日本看護学教育学会
評議員：**山田聡子**，**大西文子**
- 13) 日本看護学教育評価機構
評価員：**山田聡子**
- 14) 日本看護管理学会
災害に関する看護管理推進委員会 委員：**竹内貴子**
学術活動推進委員会 委員：**南谷志野**
- 15) 日本看護系学会協議会
理事：**鎌倉やよい**

- 16) 日本看護系大学協議会
理事：鎌倉やよい
社員：村瀬智子，山田聡子
災害対策小委員会
JAMPU 中部ブロック 愛知県災害連携教
員：小林洋子
- 17) 日本看護研究学会
評議員：野口眞弓，大西文子
- 18) 日本看護研究学会東海地方会
幹事：大西文子
- 19) 日本看護人間工学会
評議員：中島佳緒里
- 20) 日本看護倫理学会
代議員：山田聡子
編集委員会 委員：山田聡子
- 21) 日本口腔ケア学会
常務理事：東野督子
- 22) 日本公衆衛生学会
代議員：森田一三
- 23) 日本災害看護学会
代議員：小林洋子
- 24) 日本歯科医療管理学会
編集委員：森田一三
- 25) 日本小児がん看護学会
評議員：大西文子
教育委員会 委員：大西文子
- 26) 日本小児看護学会
評議員：大西文子
- 27) 日本小児保健協会
評議員：大西文子
小児救急の社会的サポート委員会 委員：大
西文子
- 28) 日本助産学会
代議員：野口眞弓
- 29) 日本私立看護系協会
理事：鎌倉やよい
正会員：村瀬智子，山田聡子
- 30) 日本赤十字看護学会
評議員：山田聡子，野口眞弓，村瀬智子，小
林洋子，東野督子
広報委員会 委員：竹内貴子
研究助成選考委員会 委員：山田聡子

- 31) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
副理事長：鎌倉やよい
- 32) 日本老年看護学会
代議員：鎌倉やよい
- 33) 認定看護管理者会 研究プロジェクト
メンバー：南谷志野

2. 学術集会の企画・実行委員等

- 1) 第22回日本赤十字看護学会学術集会
大会長：鎌倉やよい
大会事務局長・企画委員：山田聡子
大会事務局 総務：巻野雄介，藤井愛海
大会事務局 会計：竹内貴子，高下翔
大会事務局 渉外：南谷志野
大会事務局 プログラム：原田真澄
企画委員：中島佳緒里，小林洋子，松浦正子
実行委員：森田一三，近藤絵美，飯田大輔，
加藤広美，池田亮，遠藤幸子，鳥居賀乃子，
石原佳代子，高見精一郎
- 2) 第67回日本学校保健学会
実行委員長：森田一三
- 3) 第41回日本看護科学学会学術集会
企画委員：鎌倉やよい，山田聡子
- 4) 日本看護倫理学会第15回年次大会
企画委員：山田聡子
- 5) 第37回愛知県看護学会
学会委員：南谷志野
- 6) 第18回日本口腔ケア学会学術集会
看護部会教育講演企画：東野督子，石原佳代
子

3. 省庁・地方自治体の委員会委員

- 1) 厚生労働省・社会保障審議会統計分科会生活
機能分類専門委員会
委員：鎌倉やよい
- 2) 厚生労働省・厚生労働科学特別研究事業中
間・事後評価委員会
委員：鎌倉やよい
- 3) 豊田市食育推進会議
委員：鎌倉やよい
- 4) NPO 法人あいち福祉オンブズマン
電話相談委員：橋本亜弓

- オンブズマン委員：橋本亜弓
- 5) 豊田訪問看護師育成センター運営委員会
運営委員：松田優子
 - 6) 愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程
入学試験委員会
入試委員：松田優子
 - 7) 愛知県立豊田高等学校
評議員：野口眞弓
 - 8) 豊田市こどもにやさしいまちづくり推進会議
会長：野口眞弓
児童福祉審議会
委員：野口眞弓
幼保連携型認定こども園審議会
委員：野口眞弓
地域保健審議会
委員：長谷川喜代美
 - 9) 高浜市母子保健ネットワーク会議
委員：野口眞弓
 - 10) 刈谷市医療的ケア運営協議会
委員：岡田摩理
 - 11) みよし市介護保険運営審議会
委員：長谷川喜代美
地域包括支援センター運営協議会
委員：長谷川喜代美
地域密着型サービス運営審議会
委員：長谷川喜代美
保健対策推進協議会
委員：清水美代子
 - 12) 日進市介護認定審査会
委員：清水美代子
4. 研修会・講演会の講師
- 1) 岡田摩理, 飯田大輔：多治見市ファミリーサポートセンター，子育てサポーター講座，2022.3.17
 - 2) 河村諒：愛知県被災者支援センター・愛知県の取り組みの特徴と課題，愛知県の取り組みの特徴と課題「継続支援の先にみえる課題（災害看護）」，2021.10.20
 - 3) 小林尚司：西尾市民病院看護研究研修会，看護研究について，2021.5.15
 - 4) 小林尚司：豊田訪問看護師育成センター新卒・新任訪問看護師育成事業研修（センター研修），訪問看護技術論：認知症の人の看護，2021.6.17
 - 5) 小林尚司：豊田訪問看護師育成センター新卒・新任訪問看護師育成事業研修（センター研修），訪問看護技術論：難病の人の看護，2021.10.28
 - 6) 小林尚司：独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ助産師・看護師実習指導者講習会，実習指導の基盤・実習指導方法論・老年看護学，2021.9.27
 - 7) 下間正隆：岩倉市シニア大学教養学部講座，イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策，2021.5.20
 - 8) 下間正隆：佛教大学FD・SDセミナー，コロナ対策の目には見えない二つの相手は「ウイルス」と「人の心」です，2021.6.16
 - 9) 下間正隆：長谷工シニアホールディングス研修会（名古屋），イラストで理解する高齢者介護施設の感染対策，2021.7.5
 - 10) 下間正隆：長谷工シニアホールディングス研修会（大阪・千里中央），イラストで理解する高齢者介護施設の感染対策，2021.7.9
 - 11) 下間正隆：令和3年度豊田市青少年赤十字担当者研修会，イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@2021年夏，2021.8.3
 - 12) 下間正隆：2021年度日本赤十字社北海道・東北ブロック感染管理ネットワーク研修会（秋田赤十字病院主催），コロナの後の薬剤耐性菌対策，2021.11.5
 - 13) 下間正隆：愛知県福祉協議会感染対策セミナー，イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@2021年秋，2021.11.11
 - 14) 下間正隆, 松田優子：特養ひまわりの街感染対策セミナー，イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@2021年秋，2021.11.25
 - 15) 下間正隆, 松田優子：特養くらがいけ感染対策セミナー，イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@2021年秋，2021.12.14
 - 16) 下間正隆, 松田優子：特養アメニティ豊田駅前感染対策セミナー，イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@2021年秋，2022.1.12
 - 17) 下間正隆：令和3年度日本赤十字社富山県支

- 部 青少年赤十字活動研究会, オミクロンが登場しても感染対策の基本は同じです, 2022.1.21
- 18) **下間正隆, 松田優子**: 愛知県保険協会 第61回在宅ケアセミナー, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@在宅医療, 2022.1.30
- 19) **羽川綾子**: 臨床実践現象学学会第6回大会 ポストセミナー, 現象学的研究の取り組み 博士論文執筆の過程, 2021.9.19
- 20) **千葉朝子**: 名古屋市臨地実習主導者講習会, 実習指導の実際 (母性看護学), 2021.8.27
- 21) **長尾佳世子**: 第13期防災マイスター養成講座, 災害医療～演習～, 2021.6.8
- 22) **長尾佳世子**: あいほう会, 令和3年度講習会「災害医療」, 2021.7.19
- 23) **長尾佳世子**: 愛知県看護協会西三河北部地区支部 地域包括ケア推進看護連携検討会, 災害医療における受援, 2021.12.10
- 24) **長尾佳世子**: 第14期防災マイスター養成講座, 災害医療, 2021.12.21
- 25) **中島佳緒里**: 独立行政法人地域医療推進機構東海北陸地区新任副師長研修, ファシリテーションに関する基礎知識, 2021.9.14
- 26) **南谷志野**: 三重県看護協会 令和3年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル, 人材管理Ⅱ: 多職種チームのマネジメント「リーダーシップの実際」, 2021.2.2.1
- 27) **橋本亜弓**: ハートフルハウス小規模多機能型居宅介護・楽家晴 (長久手市) 家族交流会, オーラルフレイル・口腔ケアについて, 2022.1.16
- 28) **初田真人**: 豊田訪問看護師育成センター, 精神障がい者の看護, 2021.7.29
- 29) **廣田直美**: 令和3年度学童期から思春期の健康づくり・生活習慣予防研修会, 平時からの備えとして、子どもの健康づくり・生活習慣を考える, 2021.7.21-8.25 動画配信
- 30) **松浦正子**: 令和3年度愛知県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修, 組織管理論Ⅲ—組織デザインと組織運営—, 2021.5.15
- 31) **松浦正子**: 令和3年度香川県立病院看護教育推進委員会主催看護研修会, 価値ある看護につなげる看護リフレクション, 2021.5.22
- 32) **松浦正子**: 令和3年度福井県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 多職種チームのマネジメント 人的資源の活用・看護補助者の育成, 2021.6.5
- 33) **松浦正子**: 令和3年度静岡県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修, 人材管理Ⅰ 看護チームのマネジメント, 2021.6.26・10.9
- 34) **松浦正子**: 令和3年度香川県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修, 組織管理論Ⅲ—組織デザインと組織運営—, 2021.7.18
- 35) **松浦正子**: 令和3年度島根県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ 多職種チームのマネジメント, 2021.7.24
- 36) **松浦正子**: 令和3年度三重県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ 2) 多職種チームのマネジメント: コンフリクトマネジメント, 2021.8.7
- 37) **松浦正子**: 令和3年度大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ: 多職種チームのマネジメント, 2021.8.10・12.25
- 38) **松浦正子**: 令和3年度藍野大学キャリア開発センター認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ: 多職種チームのマネジメント, 2021.8.14
- 39) **松浦正子**: 令和3年度静岡県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅰ: 看護チームのマネジメント, 2020.8.21
- 40) **松浦正子**: 令和3年度愛知県立病院看護職員師長・副師長研修, 『理想の職場づくり』という夢に向かって冒険しよう, 2021.9.5
- 41) **松浦正子**: 令和3年度兵庫県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ: コンフリクトマネジメント—, 2020.9.25
- 42) **松浦正子**: 令和3年度岡山県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ: 人材を育てるマネジメント, 2020.9.11・9.18
- 43) **松浦正子**: 令和3年度香川県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修, 質管理Ⅱ—①看護サービスの質保証②看護サービスの質

- 保証一, 2021.10.2・10.3
- 44) **松浦正子**: 令和3年度鳥取県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 組織の意思決定・組織の変革, 2021.10.15・10.16
- 45) **松浦正子**: 令和3年度滋賀県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 組織の意思決定・変革, 2021.11.27
- 46) **松浦正子**: 愛知医療センター名古屋第一病院主催研修, 現場で活かすロジカルシンキング, 2021.11.18
- 47) **松浦正子**: 令和3年度愛知県看護部長協議会主催看護管理者研修, 看護管理・コロナ禍において病院の最前線で頑張る看護管理に贈る明日につながるメッセージ, 2021.12.17
- 48) **松浦正子**: 令和3年度中部ブロック赤十字病院セミナー, 人材育成に繋がる動機づけ, 2022.1.13
- 49) **松浦正子**: 令和3年度名古屋大学キャリア開発センター認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修, 人材管理Ⅱ: 多職種チームのマネジメント, 2022.2.1
- 50) **松田優子**: 豊田訪問看護師育成センター, 訪問看護概論・訪問看護技術論, 2021.4.5・2025.1.20
- 51) **松田優子**: 令和3年度愛知県専任教員養成講習会, 看護論演習, 2021.6.15・7.21
- 52) **松田優子**: 令和3年度愛知県臨地実習指導者講習会, 実習指導の実際「在宅看護」, 2021.6.28
- 53) **松田優子**: 令和3年度愛知県臨地実習指導者講習会(特定分野)第1回、第2回, 実習指導の実際(演習), 第1回2021.8.17-30, 第2回2021.12.7-27
- 54) **山田聡子**: 一宮市立市民病院 キャリアラダー研修(レベルⅢ), 研究③研修, 2021.7.19
- 55) **山田聡子**: 岐阜県専任教員・実習指導者研究会, 臨地実習における実習指導者・教員の役割とその連携, 2021.9.14

5. 災害関連の活動

- 1) **遠藤幸子**: 刈谷防災推進委員会, 推進委員(保健・医療関連), 市民館・市民センターなど, 毎月定例会 継続
- 2) **長尾佳世子**: 第1回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修, 企画運営スタッフ, 名古屋第一赤十字病院, 201.6.28-30
- 3) **長尾佳世子**: 第2回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修, 企画運営スタッフ, 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院, 2022.7.20-21

2021 年度 日本赤十字豊田看護大学年報

2022 年 10 月 発行

編集・発行 学校法人日本赤十字学園
日本赤十字豊田看護大学 自己点検・評価委員会
〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲 12 番 33
TEL 0565-36-5111
<https://www.rctoyota.ac.jp/>

印 刷 株式会社コームラ

